

本區畫内ノ雨水及汚水ノ排除ハ下谷區ニ長町ヨリ鳥越町三筋町入谷町龍泉寺町等ヲ經テ三河島村汚水處分工場ニ達スル下水管線ヲ中心トシテ布設セラレタル大小幾多ノ下水管ニ據ルモノニシテ凡テ暗渠ヲ用フ雨水ノ排出ハ上野山下ヨリ龍泉橋ニ至ル雨水吐ニ據ルノ外尙ホ干潮時ニ於テハ淺草藏前ヨリ隅田川ニ達スル雨水吐及吉原附近ヨリ山谷堀ニ達スル雨水吐等數ヶ所ニヨリテ之ヲ隅田川ニ放流シ得可シト雖モ隅田川洪水時及滿潮時ニ際シテハ却テ逆流ノ恐レアルヲ以テ各々自動閉閉弁ヲ備ヘ其連絡ヲ遮斷シ雨水ノ全部ヲ三河島村工場ニ備フル唧筒ニヨリ之ヲ隅田川ニ排出セシムルモノトス

本區畫ノ下水管中其勾配ノ充分ナラサルモノハ凡テ卵形管ヲ使用シ汚物ノ停滞ヲ防キ尙ホ自動洗滌槽及制水弁等ヲ適所ニ裝置シテ洗滌ノ便益ヲ計レリ下水管ノ最大ナルモノハ光月町ヨリ龍泉寺町三ノ輪町ヲ經テ三河島ニ達スル勾配二分ノ一申十尺深サ七尺五寸ヲ有スル馬蹄形狀幹線ニシテ三河島村工場ニ至リテ其管底ハ靈岸島基點以下七尺八寸三分ノ深サニ在リ

本區畫ノ汚水ハ地形上隅田川ニ排出セシムルノ外ナシ故ニ豫メ之ヲ處分シ河水ヲ混濁セシメサラシカ爲汚水處分工場ハ三河島村ニ置ケ

三河島村汚水處分工場ハ其面積五萬三千坪ニシテ唧筒場ノ外別ニ沈澱槽セブチツクタンク及濾過池ヲ備フ

沈澱槽ハ長サ百五十尺巾四十深サ二十五尺ヲ有スル池一個別ニ沈澱物ノ處理ニ要スル幾多ノ設備ヲ爲ス

唧筒室 排水量ハ每一秒汚水及地下水ヲ合セテ六七、四立方尺雨水二三〇立方尺ニシテ其揚水高ハ約二十尺ナリ故ニ當場ニ於テハ日々運轉スル唧筒ノ數ハ極メテ少ク降雨ニ際シテハ其雨量ニ從ヒ急激ニ多數ノ唧筒機ヲ運轉セサル可ラス今ニ聯成流機一基ニ對シ「プランジャ」ノ直徑一呎七吋衝程三呎ノ「プランジャ」ボンプ二個

ヲ直結スルモノトスレハ唧筒一個ノ學理的排水量ハ(流機ノ回轉數ヲ六十トス)千八百立方尺ナリ假リニ其四割ノ遞減アルモノトスルモ千〇八十立方尺ナルヲ以テ流機十基即チ唧筒二十基ヲ設備セハ充分ナル可シ當場ニ備フル流機汽機及唧筒ハ次ノ如シ

流機	五基
唧筒	十基
汽機	十基

流機 直立凝縮(回轉數六十)百五十馬力 直徑二呎七吋

唧筒 流機直結「プランジャ」ボンプ 衝程三呎 池六個ヨリ成リ凡テ無蓋

「セブチ」クタンクハ長四百八十尺巾百二十尺深サ九尺ノ池六個ヨリ成リ凡テ無蓋ニシテ其容量ハ二百七十五萬五千二百立方尺即チ本區畫ニ於ケル二十四時間ノ汚水ヲ容ル「コト」得ルモノトス

濾過池 其數十三個ニシテ總面積一萬六千八百八十七坪二合即チ「セブチ」クタンクニ據リテ處理セシ汚水ヲ更ニ濾過清淨セントスルモノニシテ濾過床ノ厚サハ四尺砂及砂利層ヨリ成リ間歇的ニ汚水ヲ注入シ一晝夜十二尺ノ速度ヲ以テ之ヲ濾過セシムルモノトス

第三區

區域 本所深川ノ全部

面積 二、六八一、二五四坪〇

人口 現在

二八、五五二一人

將來

四六、四三五五人

下水道施設ノ準備調査

一六五

本所深川ノ兩區ハ他ト全ク分離シテ隅田川ノ東岸ニ位シ其土地甚々卑濕ニシテ隅田川沿岸ヲ除クノ外ハ概ネ堤防ニヨリテ圍繞セラレ漸ク湖水及隅田川、中川ノ洪水ヲ防止ス加フルニ此兩區ハ堅川小名木川十間川等ノ運河縱橫ニ貫通シ水運利便ヲ

ルヲ以テ各種ノ工場建設セラルモ多ク其排泄スル汚水ノ如キ潤濁有害ノ度他
 ニ比シテ甚タシキモノアリ且ツ人口兩區ヲ合セテ三十萬ヲ超ユルカ故ニ其日々排
 除スル汚水ノ量亦僅少ナラサルヘシ然ルニ本區畫ハ其一部ヲ除クノ外ハ全ク雨水
 及汚水ヲ排除スルコト能ハス大小ノ溝渠アレトモ勾配甚タ緩ナルノミナラス潮
 ノ干満ニヨリテ其ノ疏通ヲ阻害セラレ汚水及汚物ノ大部ハ途上ニ停滞シ一旦降水
 ノ雨アレハ雨水ト共ニ汎溢シ衛生上有害ナルコト甚タシ即チ本區畫ハ汚水ト共ニ雨
 ナ排除スルノ必要アリ雨水ハ適宜ノ場所ニ設置セル各雨水吐ニヨリテ干潮時ハ其
 ノ一部ヲ河川ニ放流シ滿潮時ニ際會セハ自働閉閉弁ニヨリテ自ラ遮斷シ雨水及汚
 水ヲ凡テ砂村ニ設クル汚水處分工場ニ集メ唧筒機ニヨリテ雨水ハ直チニ汚水ハ別
 ニ設ケタル「セブ」チツクタンク「及濾過池」ヲ通過シ全ク害毒ナキニ至リテ之ヲ中川ニ
 放流スルモノトス

本區畫ハ排水上ノ便宜ヨリ更ニ之ヲ六區ニ分テリ其一ハ隅田川暨川大横川ヲ以テ
 限ラル、一區域ニシテ中ノ郷元町ヨリ松倉町横川町三笠町長崎町ヲ經テ入江町ニ
 至ルモノ及相生町ヨリ練町ヲ經テ入江町ニ至ルモノヲ幹線トシ雨水及汚水ヲ集メ
 テ共ニ花町十九番地先ニ至リ伏越ヲ以テ大横川ヲ涉リ其二ニ入ル

其二ハ大横川暨川横十間川及北十間川ヲ以テ限ラル、一地區ニシテ中ノ郷業平町
 ヨリ太平町ヲ經テ柳原町ニ至ル幹線ヲ中心トシ大小ノ支線ヲ布設シテ其雨水及汚
 水ヲ集メ柳原一丁目十一番地先ニ至リ其一ヨリ來ル幹線ト合シ共ニ伏越ヲ以テ堅
 川ヲ横キリ其六ニ入ル

其三ハ堅川大横川小名木川及隅田川ニ圍繞セラル、一區域ニシテ幹線ヲ西六軒堀
 町ヨリ東西森下町ヲ經テ東元町ニ至リ更ニ富川町ニ向フモノ及徳右衛門町ヨリ菊
 川町西町ヲ經テ富川町ニ至ル街路ニ置キ共ニ合シテ小名木川ヲ渡リ其五ニ至ル
 其四ハ二十間川及隅田川ヲ界トシ越中島町ヲ含ム一區畫ニシテ福島橋ヨリ黒江町

ヲ經テ黒龜橋ニ至ルモノ及富岡門前東仲町ヨリ富岡門前仲町ヲ經テ黒龜橋ニ向フ
 モノヲ幹線トシ共ニ合シテ海邊橋ニ至リ伏越ヲ以テ二十間川ヲ横キリ其五ニ入ル

其五ハ小名木川大横川及二十間川ヲ以テ圍マル、地區ニシテ其四ヨリ來ル幹線海
 邊橋ヨリ靈岸寺前ニ至リ更ニ一轉シテ元加賀町ニ入り茲ニ其三ヨリ來ルモノ及龜
 久町ヨリ西永町ヲ經テ來ル一支線ト合セ共ニ扇橋町一丁目ニ至リ大横川ヲ横キ
 リ其六ニ達ス

其六ハ大横川暨川横十間川及二十間川ニ接スル一區域ニシテ柳原町ニ於テ堅川ヲ
 横キル其二ノ幹線ハ進ンテ猿江町ニ至リ小名木川ヲ涉リ石島町ニ於テ其五ノ幹線
 ト合流シ共ニ千田町ヲ經テ横十間川ヲ過キ砂村汚水處分工場ニ向フモノニシテ勾
 配二千分ノ一、巾十二尺深サ七尺八寸ノ形馬蹄形管ヲ用ヒ砂村ニ於ケル管底ハ靈岸
 島基點下八尺五寸ニシテ地表ヨリ深サ約十三四尺ノ處ニアリ

本區畫ニ於ケル洗滌裝置等ハ第二區ニ於ケルト大差ナク而シテ道路狹隘ニ過キ幹
 線ヲ布設スルニ由ナキヲ以テ之ヲ擴張シ或ハ新設ヲ要スルモノ數ヶ所ニ及フ

砂村汚水處分工場ノ面積ハ四萬一千坪ニシテ唧筒場沈澱槽「槽」セブチツクタンク「及濾
 過池」ヲ備フルコト第二區ト同様ナリ

沈澱槽 ノ形狀及諸般ノ設備等第二區ト大差ナシ

唧筒室 排水量ハ每一秒汚水及地下水ヲ合セテ五五七立方尺雨水二五〇一立方尺
 ニシテ揚水ノ高サハ約二十尺ナリ即チ其排水量揚水高共略ホ第二區ノモノト同一
 ナルヲ以テ其設備ハ全ク三河島ト同一ニ計畫セリ

「セブ」チツクタンク「ハ長四百二十尺巾百二十尺深九尺ノ池六個ヨリ成リ凡テ無蓋ト
 爲シ其容量ハ二百四十一萬二千四百八十八立方尺即チ本區畫ニ於ケル二十四時間ノ
 汚水ヲ容ル、コトヲ得ルモノトス

濾過池 其數十三個ヨリ成リ總面積一萬四百七十七坪七合ニシテ濾過床或ハ其注

下水道設施ノ準備調査

入ノ方法等凡テ第二區ト同一ナリ
 尙本場ニ於テハ多量ノ雨水ヲ排除スルニ際シ區内河川ノ水位ヲ昂上セザランカ爲
 排水路ノ上流ニ開門ヲ設ケ之ヲ閉鎖スルコトモセリ
 本區畫内雨水及汚水ノ處分ハ斯クノ如クシテ完全ナルヲ得ヘシ然レトモ尙ホ潮水
 及洪水ヲ防止スルノ手段ニ至リテハ更ニ現在ノ護岸ヲ修理改築スルノ必要アリ又
 小名木川鑿川及北十間川ノ中川及隅田川ニ接スル各地點ヲ選ビ開門ヲ設ケ洪水時
 ハ全ク之レト連絡ヲ絶チ以テ區内河川ノ水位ノ激増ヲ防カサル可ラス然ルニ之等
 ノ工事ハ充分ナル調査ヲ要シ時日切迫ノ爲本調査ノ茲ニ及フ能ハサリシハ甚々遺
 憾ニ堪エサル所ナリ

第四章 豫算概要

東京市下水道豫算概要
 一金貳千六百四拾五萬六千七圓

内

- 金壹千七百貳拾參萬參千六百七拾參圓
- 内
- 金貳百四拾四萬七千七百九拾七圓
- 金六百拾九萬千八百五拾八圓
- 金參百九拾壹萬九千九百六拾五圓
- 金四百六拾七萬四千五拾參圓
- 金四百七拾萬參千參百七拾七圓
- 金四百五拾壹萬八千九百六拾壹圓
- 一金百五拾萬圓

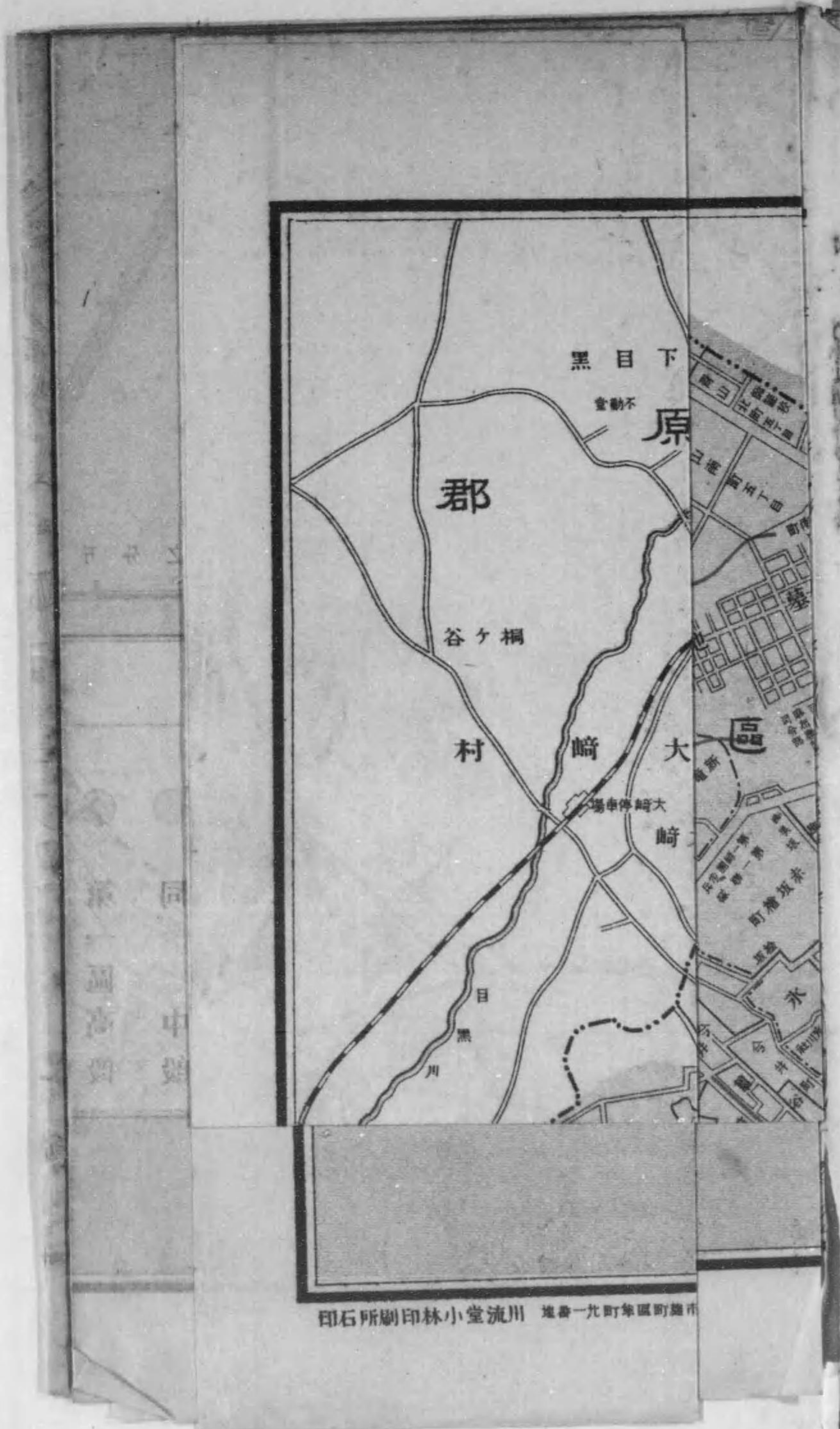
總

工費

第一區工費

- 高段工費
- 中段工費
- 低段工費
- 芝浦吐口伏越工費
- 第二區工費
- 第三區工費
- 第一區工費

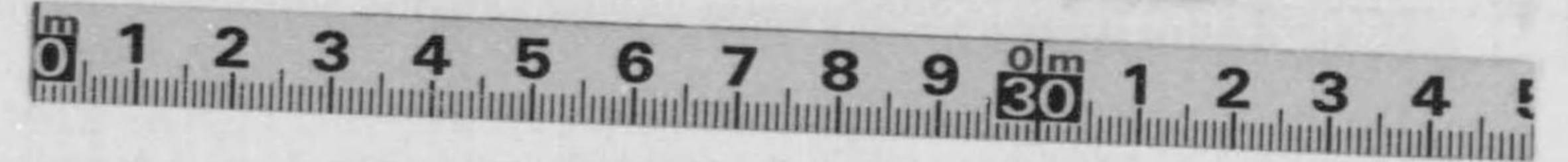
欠



川流堂小印林刷所石印 川流堂小印林刷所石印

欠

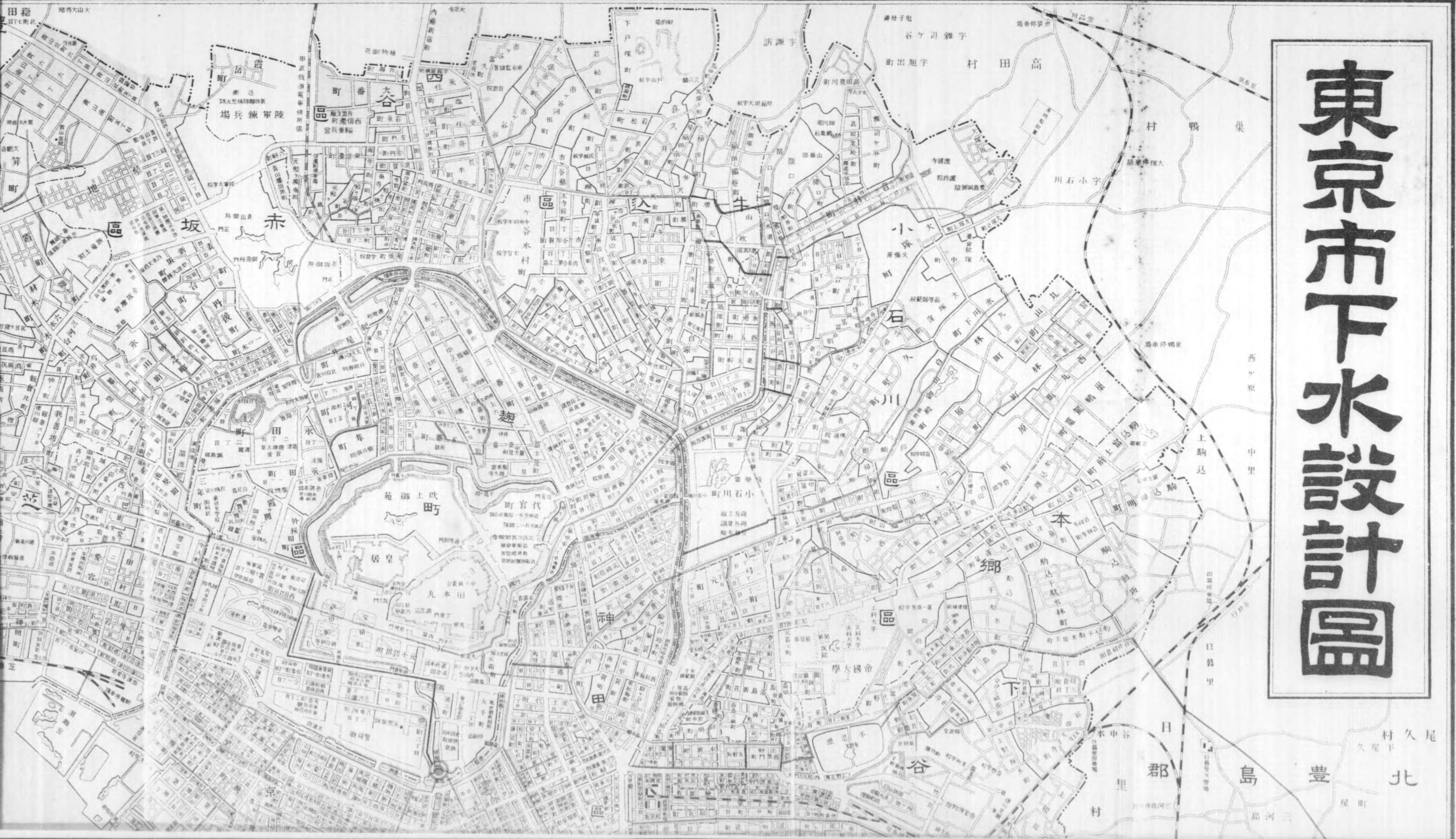
露光量違いの為重複撮影



東京市下水設計圖

尾久村
下尾久
北
島
豐
里
郡
谷
村

露光量違いの為重複撮影



東京市下水設計圖

村久尾
久尾下
北
島
豊
郡
谷
里
村
日
谷
中
水
谷
里
島
豊
北
屋
町
星
町

露光量違いの為重複撮影

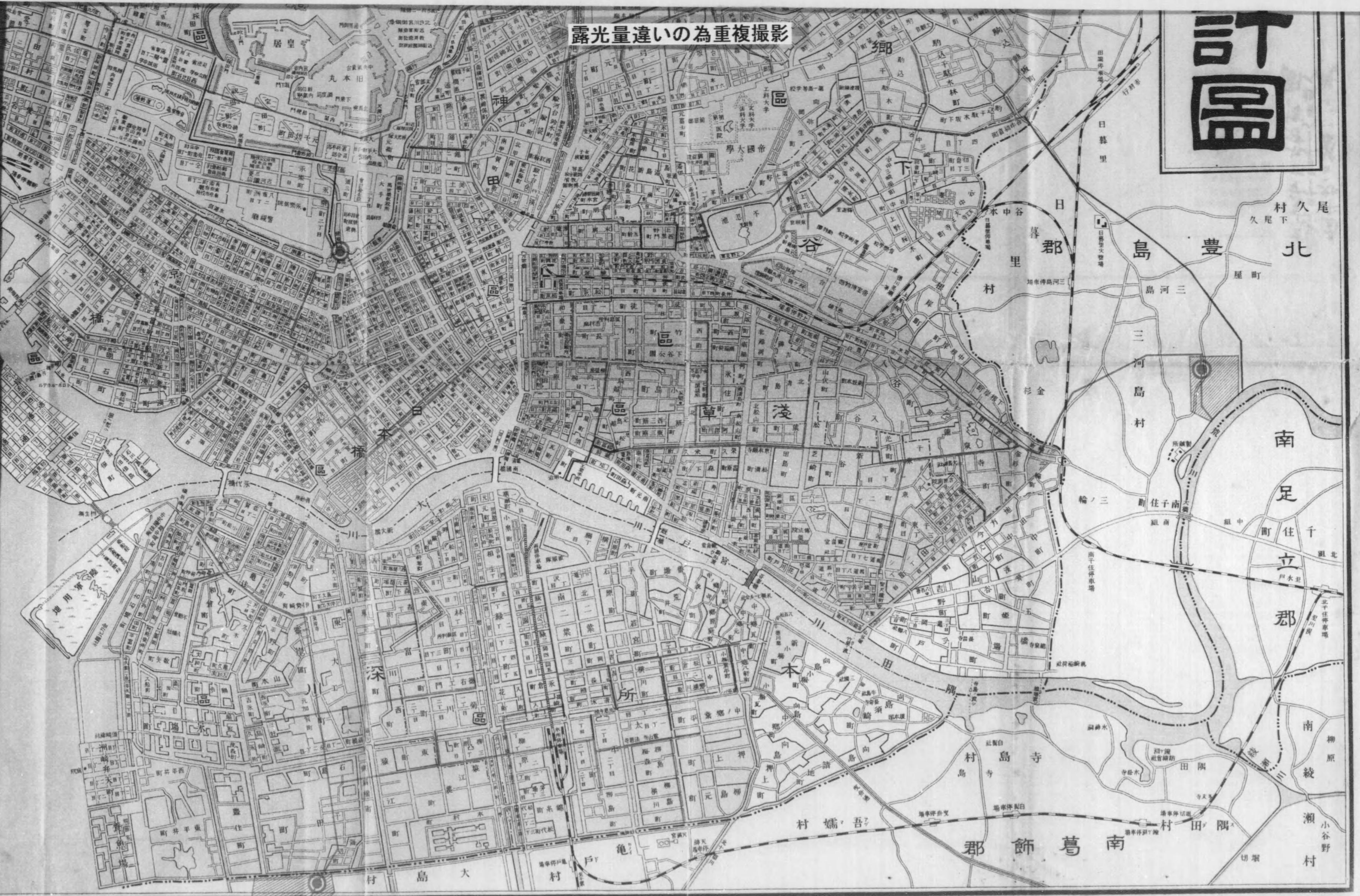


露光量違いの為重複撮影



露光量違いの為重複撮影

訂圖



村久尾
久尾下

島豊北

屋町

島河三

三河島村

南足立郡

町住千

北

南柳原
綾
小谷野
村

郡飾葛南

村婦吾

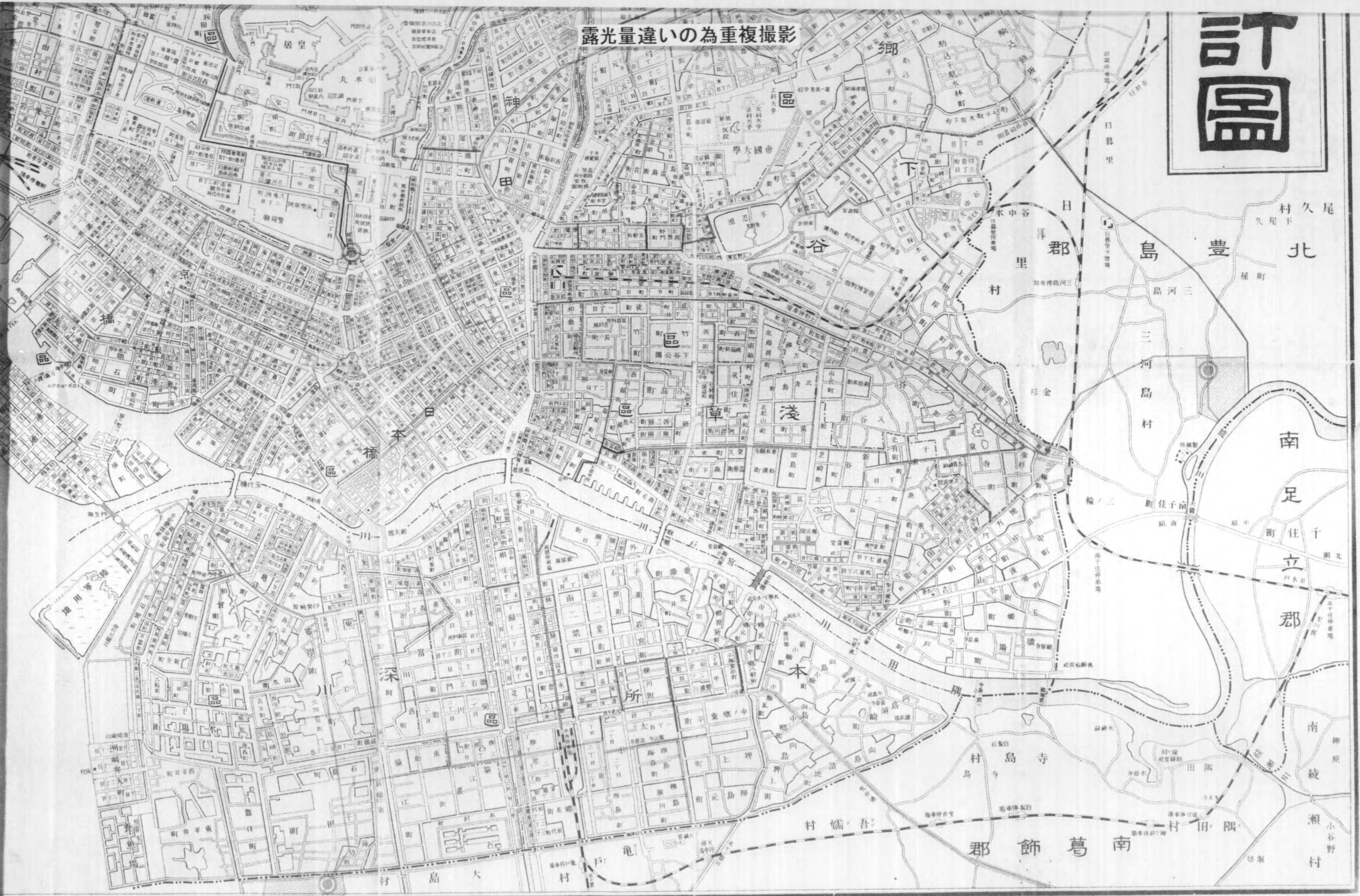
村田隅

村島大

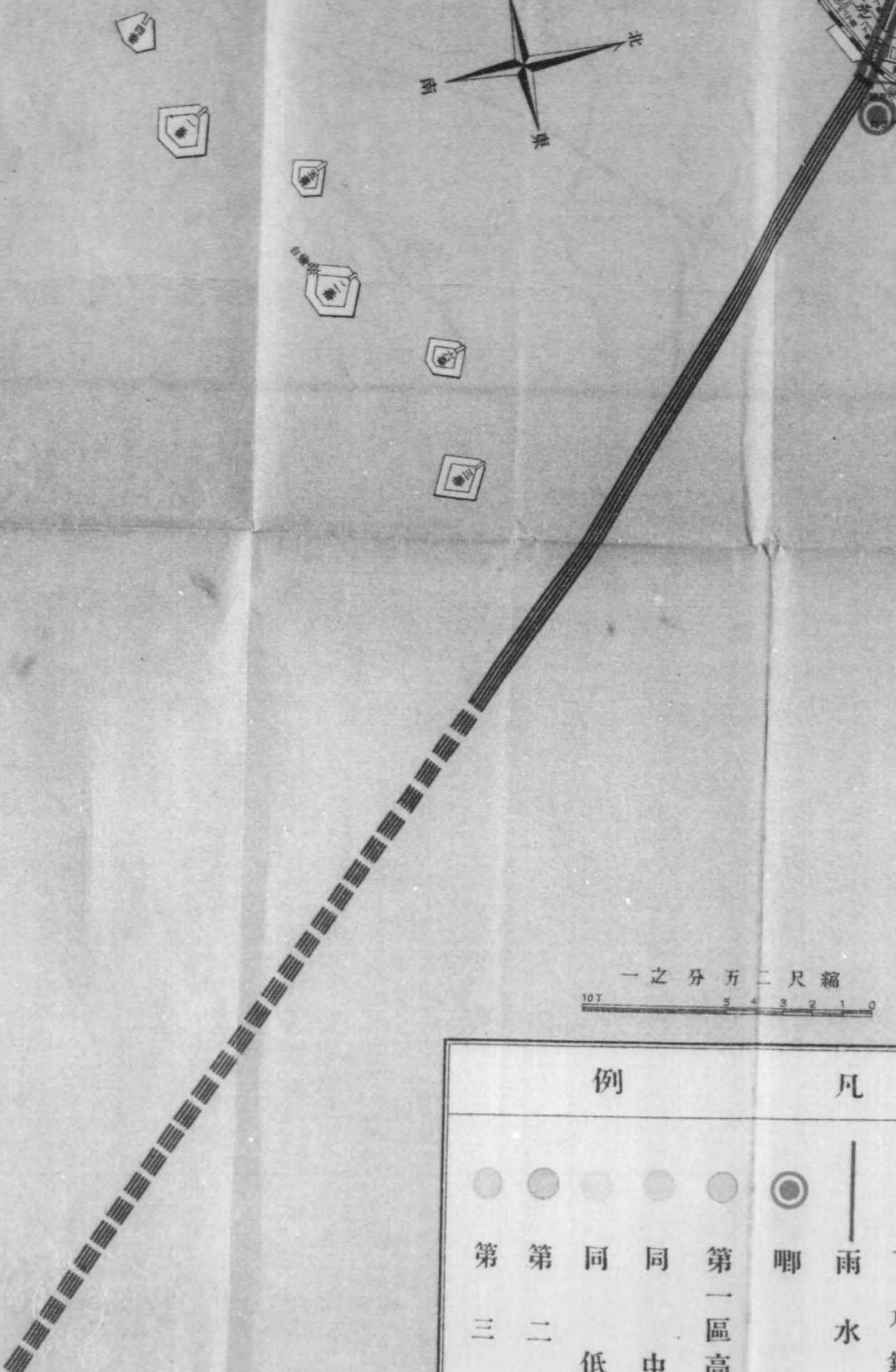
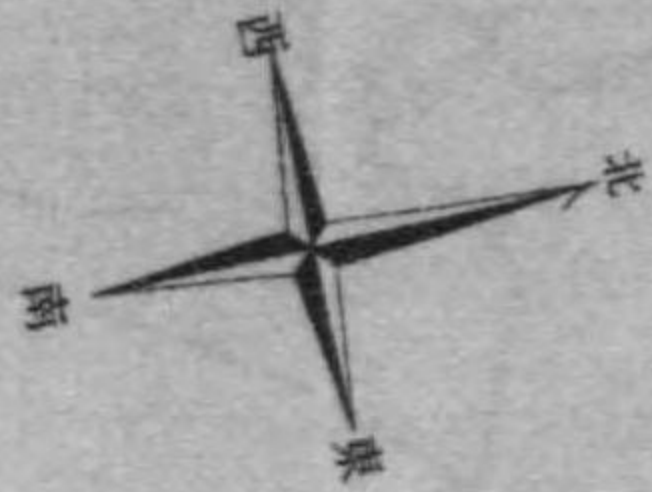
村

露光量違いの為重複撮影

訂圖

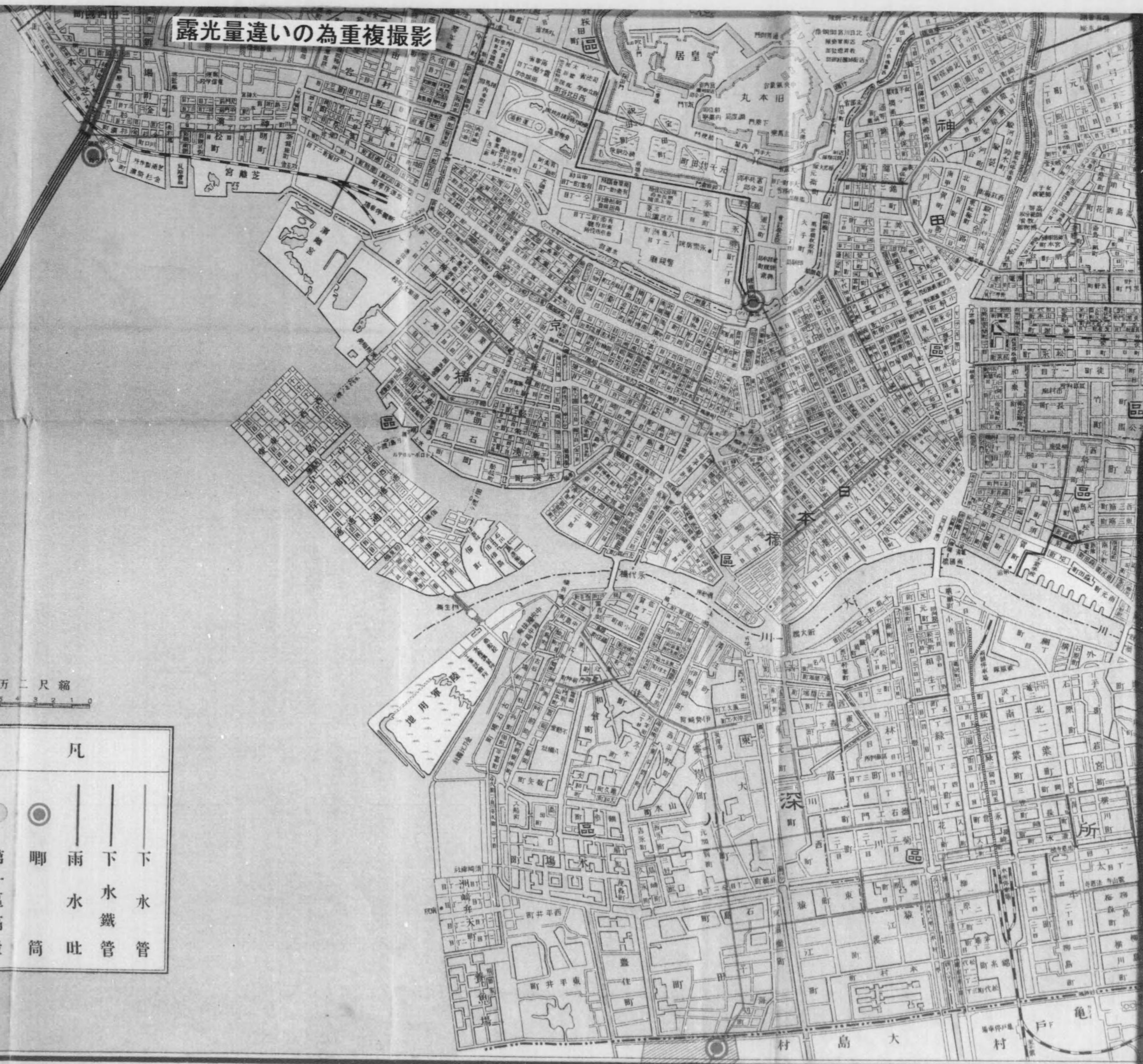


露光量違いの為重複撮影



一之分五二尺縮

例	凡
● ● ● ● ●	○
第三區	第一區
第二區	第二區
同低段	同中段
同中段	同高段
●	唧筒
—	雨水吐
—	下水鐵管
—	下水管

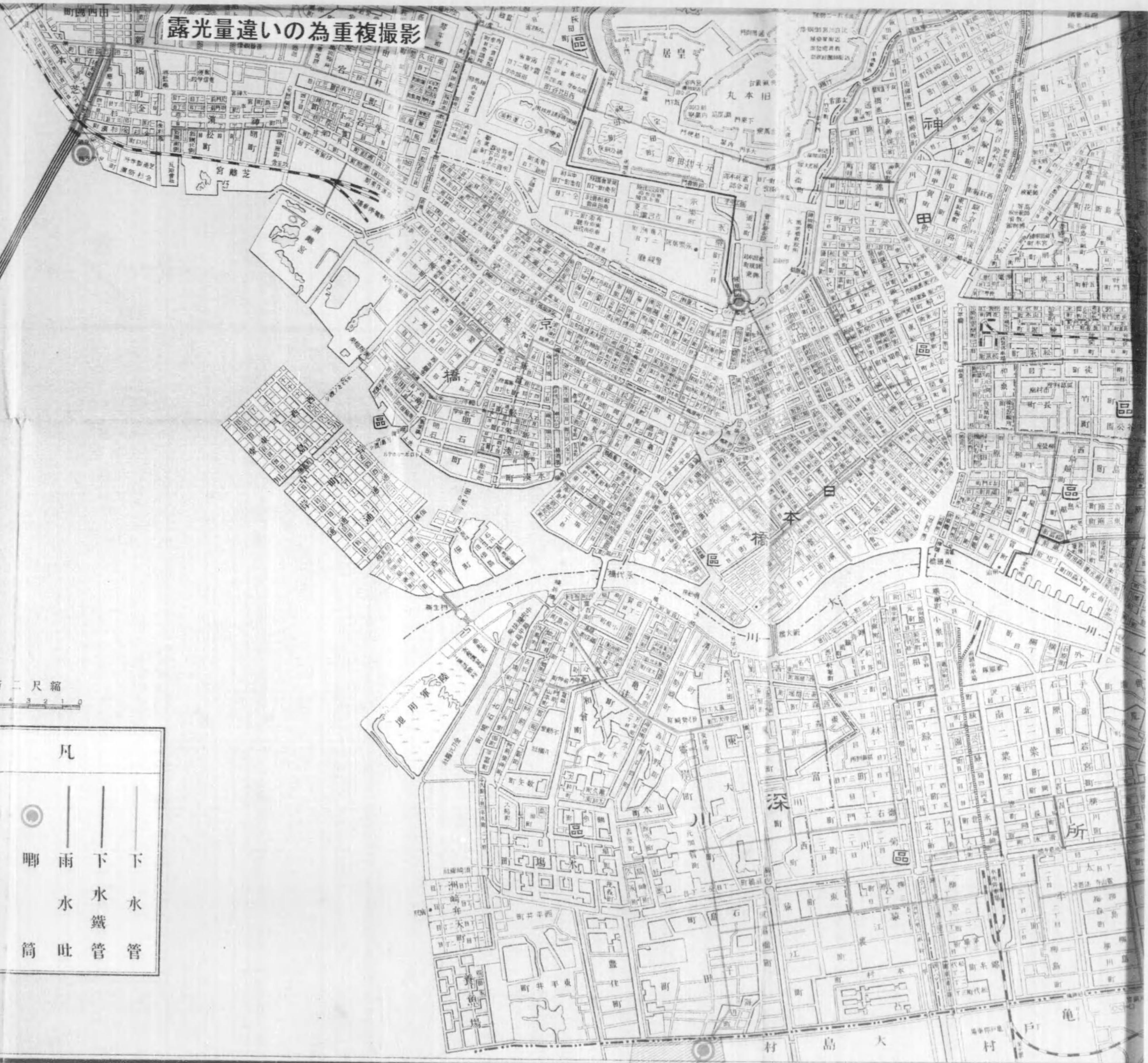


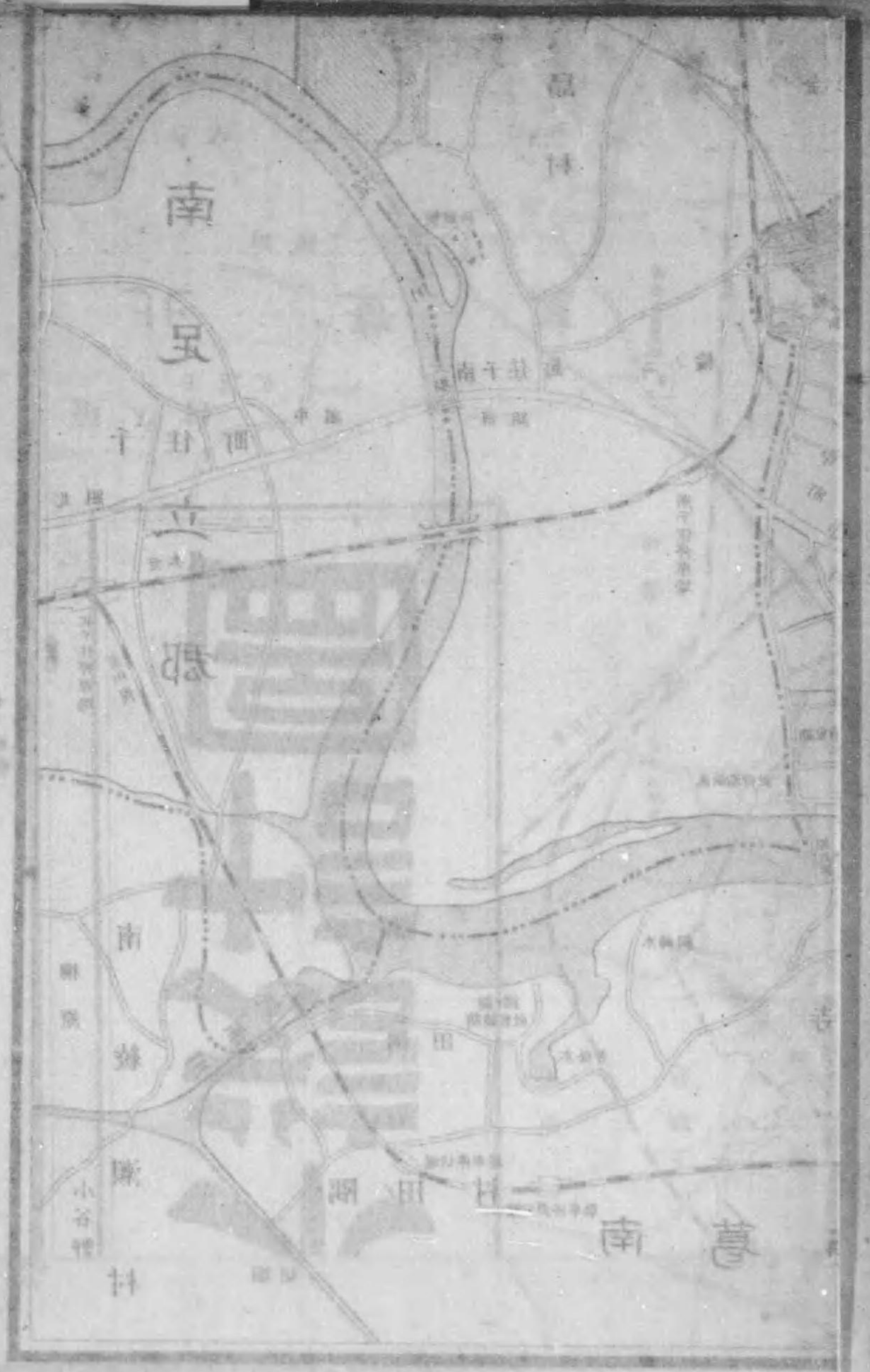
露光量違いの為重複撮影



縮尺二万分一
107 5 4 3 2 1 0

例		凡	
●	○	●	○
第三區	第二區	第一區	第一區
低段	中段	高段	高段
●	○	○	○
雨水	下水	下水	下水
管	管	管	管
○	○	○	○
雨水	下水	下水	下水
管	管	管	管
○	○	○	○
雨水	下水	下水	下水
管	管	管	管





計
 材料及工事費 一、五六三、〇七八
 諸色損料及雜費 七八、一五四
 土地買收費 五三〇、〇〇〇

下水道布設費
 第三區工費內譯 四、七〇三、三七七
 材料及工事費 二、一三四、八二三
 諸色損料及雜費 一〇六、七四一
 土地買收費 二八七、一六〇

汚水處分工場
 材料及工事費 一、九九〇、二三七
 諸色損料及雜費 一、五〇四、九八八
 土地買收費 四一〇、〇〇〇

計
 事務所費內譯 四、五一八、九六一
 一、五〇〇、〇〇〇

事務所費
 俸給及報酬 八〇〇、〇〇〇
 旅費賞與及手當 三〇〇、〇〇〇
 聽 費 一五〇、〇〇〇
 雜給雜費 一五〇、〇〇〇
 測量及試驗費 一〇〇、〇〇〇

(註) 本誌ニハ本設計添付圖書中二萬分一設計平面圖ノミチ添付ス
 下水道施設ノ準備調査
 一七一

第十五節 角田臨時市區改正局長提出意見書

四十年五月二十八日臨時市區改正局長角田眞平ハ下水改良ニ關スル意見書ヲ提出シタリ主トシテ財源ニ關スルモノニシテ糞尿市營益金及國庫補助金ヲ以テ之ニ充當シ不足額ハ之ヲ市債募集ニ仰カントスルモノニシテ其計算表ヲ添付シ且第一區低段若クハ第二區ヲ第一ニ着手シ度キ希望ニモ論及セリ今其全文ヲ舉レハ左ノ如シ

意見書

東京市ノ下水改良ハ刻下ノ急務ニシテ衛生上ハ勿論交通外觀ノ上ニ於テモ難棄置事業タルヤ言ヲ俟タス曩キニ東京市區改正委員會ニ於テハ之カ設計ニ從事シ今ヤ全部ノ調査完了ヲ告ケ近ク該委員會ノ審議ニ上ラントセリ
本設計ニシテ確定セハ之カ實行ヲ爲スハ本市ノ經營ニ屬スルヲ以テ本事業ニ要スル多大ノ工費ヲ處辨スルノ途ヲ講セサルヘカラス依テ其財源ノ調ヲナシタル處目下其筋ヘ内申ニ係ル糞尿處分ヲ本市ノ經營トナシ依テ生スヘキ毎年度ノ純益金ヲ以テ之ニ充テ尙不足額ハ市債ヲ募集スルモノトシ其償還方法ハ本事業ニ對シ請願ヲ爲スヘキ國庫ノ補助金額及事業完成後ニ於ケル糞尿賣却益金ヲ以テ支辨スルヲ最モ適當ナル方法ト思料仕候ニ付速カニ實施ノ御詮議相成度別紙計算書相添意

見書提出仕候

追テ本市經濟上ノ都合ニ依リ此際全部ノ御施行不相叶候得者最モ必要ト認ムル場所即チ第一區低段(區域ハ市區改正委員會下水設計調査報告書ニ依ル)若クハ第二區等ヲ選擇シ先以テ御施行相成候様致度爲念此兩點ノ收支計算書モ添付仕候

明治四十年五月二十八日

臨時市區改正局長 角田眞平

東京市參事會

東京市長 尾崎行雄殿

△印ノ欄ハ朱書

市公債募集及償還年次内譯表

年	數	支		收			入	殘額
		公債利子	償還金	國庫補助金	糞尿拂代	預金利子		
一	四九〇五六〇〇	二九四三三六	〇	一〇,一〇,〇六六	〇	〇	七五七三〇〇〇	
二	四九〇五六〇〇	二九四三三六	〇	一〇,一〇,〇六六	〇	〇	一六三四六〇八五〇	
三	四一〇五六〇〇	二九四三三六	〇	一〇,一〇,〇六六	〇	〇	一七二四二八四八八	
四	八二二,二〇〇	五四〇,六七二	八〇〇,〇〇〇	一〇,一〇,〇六六	〇	〇	一四八〇,九四六三九四	

下水道施設ノ準備調査

計	九、三九四、二六三、五二〇、〇〇〇	一〇、二〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一、八〇五、〇〇〇、〇〇〇	一、四〇四、九四九、五〇〇	一、六九九、二六三、七七八
五	七、四二二、二〇〇、〇〇〇	八、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一、〇一〇、〇〇〇、〇〇〇	〇	二、六八一〇、五八七
六	六、六二二、一〇〇、〇〇〇	八、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一、〇一〇、〇〇〇、〇〇〇	〇	一、四三五、一五〇、九八一
七	三、三三三、〇〇〇、〇〇〇	八、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一、〇一〇、〇〇〇、〇〇〇	〇	一、三六五、五八七、七五
八	二、五五二、〇〇〇、〇〇〇	八、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一、〇一〇、〇〇〇、〇〇〇	〇	一、二六三、九三二、一三四
九	一、〇七五、二〇〇、〇〇〇	八、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一、〇一〇、〇〇〇、〇〇〇	〇	九八二、六三二、〇三五
十	九、九五二、〇〇〇、〇〇〇	八、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一、〇一〇、〇〇〇、〇〇〇	〇	七〇五、九一三、四三二
十一	九、二〇一、〇〇〇、〇〇〇	八、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一、〇一〇、〇〇〇、〇〇〇	〇	三八九、五八四、五三五
十二	八、四五二、〇〇〇、〇〇〇	七、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇	〇	〇	二七四、九九五、八三九
十三	七、七〇二、〇〇〇、〇〇〇	七、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇	〇	〇	二〇〇、二五〇、六五一
十四	六、九五二、〇〇〇、〇〇〇	七、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇	〇	〇	一六七、一四二、九三〇
十五	六、二〇二、〇〇〇、〇〇〇	七、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇	〇	〇	一七五、四三三、一六
十六	五、四五二、〇〇〇、〇〇〇	七、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇	〇	〇	二二五、二九六、三三九
十七	四、七〇二、〇〇〇、〇〇〇	七、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇	〇	〇	二四一、三六四、六七四
十八	三、九五二、〇〇〇、〇〇〇	七、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇	〇	〇	二二五、二九六、三三九
十九	三、二〇二、〇〇〇、〇〇〇	七、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇	〇	〇	三三三、六六〇、八八四
二十	二、四五二、〇〇〇、〇〇〇	七、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇	〇	〇	四三四、〇九八、三五七
二十一	一、七〇二、〇〇〇、〇〇〇	七、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇	〇	〇	六〇五、〇二七、八三三
二十二	一、〇七五、二〇〇、〇〇〇	七、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇	〇	〇	七一九、二六八、三五八
二十三	九、九五二、〇〇〇、〇〇〇	七、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇	〇	〇	八八三、六六五、四三四
二十四	九、二〇一、〇〇〇、〇〇〇	七、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇	〇	〇	八九八、四六〇、三七八

東京市下水道改良費收支概算書

歳入

一金千四百貳拾五萬圓也

但拾ヶ年分ノ賣却益金ニシテ初年ヨリ五年迄ハ壹ヶ年百五拾萬圓トシ爾後六年ヨリ拾年迄ハ

壹割減即チ百參拾五萬圓ト見積リ積算ス

一金千六百參拾五萬貳千圓也

但拾ヶ年繼續事業ニ對スル不足額ニ付三回ニ募集スルモノトシ第壹回ハ初年第貳回ハ四年目

第三回ハ七年目トス

合計金參千六拾萬二千圓也

歳出

一金貳千六百四拾五萬六千圓

一金貳百六拾四萬六千圓

一金百五拾萬圓

合計金參千六拾萬貳千圓

但拾ヶ年繼續事業ノ計畫ニ付毎年度支出額金參百六萬貳百圓トナル

下水道施設ノ準備調査

糞尿賣却益金

市公債募集金

總工費
豫備費
事務費

備考

本事業ニ對スル國庫補助金ハ假ニ總費額三分ノ一ト見積リタルモ財源不足ノ爲メ公債募集ニ付之カ償還及利子ニ充テ別途ニ計算スルモシノトテ本計算ニハ編入セス
市公債募集及償還方法

收入

一金千貳拾萬六千六百六拾圓

國庫補助金

但事業費總額ノ三分ノ一ニシテ一ケ年百貳萬六千六百六拾圓ノ割ニテ拾ケ年間ニ於テ收入スヘキ豫定ナリ

一金百六拾九萬四千貳百六拾六圓參拾七錢八厘

預金利子

但利率ハ年四朱五厘トス(日步壹錢貳厘參毛)

一金千四百四拾九萬四千九百五拾圓

糞尿賣却益金

但事業完成後即チ拾壹年目ヨリ二十三年目ニ至ル十三ケ年度ノ純益ニシテ當初五ケ年間ハ毎年度金百貳拾壹萬五千圓トシ爾後五ケ年毎ニ壹割減ノ割ヲ以テ計算セリ

合計金貳千六百參拾八萬九千八百七拾六圓參拾七錢八厘

支出

一金九百拾參萬九千四百拾六圓

公債利子

但募集期ヨリ償還期ニ至ル二十三ケ年間ノ利子ニシテ利率ハ年六朱トス

一金千六百參拾五萬貳千圓

償還金

但三年目ヨリ償還スルモノトシ拾年目迄ハ毎年度八拾萬圓宛拾壹年目ヨリ貳拾貳年目迄ハ毎年度七拾五萬圓宛、貳拾參年目ニ於テ殘額九拾五萬貳千圓ヲ償還ス

合計金貳千五百四拾九萬千四百拾六圓

差引金八拾九萬八千四百六拾圓參拾七錢八厘

東京市下水改良費中速成費概算書(第一區低段工事費)

歳入

糞尿賣却益金

一金六百萬圓

但四ケ年分ノ賣却益金ニシテ一ケ年百五拾萬圓ノ割合ヲ以テ計算セリ

一金五百六拾參萬千參百圓

市公債募集金

但四ケ年繼續事業ニ對スル不足額ニ付二回ニ募集スルモノトシ第壹回ハ初年第二回ハ三年目トス

合計金千六百六拾參萬千參百圓

下水道施設ノ準備調査

歳出

- 一金參百九拾壹萬九千九百六拾五圓
 - 一金參拾八萬五千七百四拾九圓八拾貳錢貳厘
 - 一金四百七拾萬參千參百七拾七圓
 - 一金百拾萬五千參拾九圓八拾貳錢九厘
 - 一金百壹萬四千四百拾參圓
 - 一金五拾萬五千七百七圓
- 第一區低段工費
同上附帶工費(中段工費中)
芝浦伏越工費
全區雨水吐工費
豫備費
事務費

但四ヶ年繼續事業ノ計畫ニ付毎年度支出額ハ金貳百九拾萬七千八百拾貳圓九拾錢七厘餘トナ
ル
合計金千六百六拾參萬千貳百五拾壹圓六拾參錢壹厘
差引

金四拾八圓參拾六錢九厘

備考

本事業ニ對スル國庫補助金ハ假ニ總費額三分ノ一ト見積リタルモ財源不足ノ爲メ公債募集ニ付之カ償還及利子ニ充テ別途ニ計算スルモノトシテ本計算ニ編入セス

市公債募集償還方法

(第一區低段之分)

收入

- 一金參百八拾七萬七千八拾參圓八拾七錢六厘
- 但事業費總額三分ノ一ニシテ一ヶ年九拾六萬九千貳百七拾圓九拾六錢九厘ノ割ニテ四ヶ年間
收入スヘキ豫定ナリ
- 預金利子
- 一金五拾壹萬五千參百七拾五圓六拾錢六厘
- 但利率ハ年四朱五厘トシ六ヶ年間ノ利子ヲ積算ス
- 糞尿賣却益金
- 一金貳百八拾五萬圓
- 但事業完成後即チ五ヶ年目及六ヶ年目ノ兩年度ニ於ケル純益ニシテ初年度ハ百五拾萬圓次年
度ハ一割減百參拾五萬圓ノ割ヲ以テ計算セリ
- 市公債募集剩餘金
- 一金四拾八圓參拾六錢九厘
- 合計金七百貳拾四萬貳千五百七圓八拾五錢壹厘

支出

- 一金百四拾四萬九千參百九拾圓
- 公債利子
- 但募集初年ヨリ償還期ニ至ル六ヶ年間ノ利子ニシテ利率ハ年六朱トス

下水道施設ノ準備調査

一金五百六拾參萬千參百圓

償還金

但事業完成後五ヶ年目及六ヶ年目ノ二ヶ年度ニ於テ償還スルモノトシ初年ニ於テ金四百萬圓
次年ニ於テ金百六拾參萬千參百圓トス

合計金七百八萬六千九拾圓

差引金拾六萬千八百拾七圓八拾五錢壹厘

東京市下水改良速成費概算書

(第二區工事費)

歳入

一金四百五拾萬圓

糞尿賣却益金

但三ヶ年分ノ賣却益金ニシテ一ヶ年百五拾萬圓ノ割ヲ以テ計算セリ

一金貳百七萬四百圓

市公債募集金

合計金六百五拾七萬四百圓也

歳出

一金四百七拾萬參千參百七拾七圓

第二區工費

一金百萬九千九百七拾七圓九拾六錢參厘

全區雨水吐工費

一金五拾七萬壹千參百參拾五圓

豫備費

一金貳拾八萬五千六百六拾八圓

事務費

但三ヶ年繼續事業ノ計畫ニ付毎年度支出額ハ貳百拾九萬百拾九圓參拾貳錢壹厘トナル

合計金六百五拾七萬參百五拾七圓九拾六錢參厘

差引

金四拾貳圓參錢七厘

備考

本事業ニ對スル國庫補助金ハ假ニ總費額三分ノ一ト見積リタルモ財源不足ノ爲メ公債募集ニ
付之カ償還及利息ニ充テ別途ニ計算スルモノトシテ本計算ニハ編入セス

東京市公債募集及償還方法 (第二區之分)

收入

一金貳百拾九萬百拾九圓參拾貳錢壹厘

國庫補助金

但事業費總額三分ノ一ニシテ一ヶ年金七拾參萬參拾九圓七拾七錢參厘ノ割ニテ三ヶ年間收入

スヘキ豫定ナリ

一金貳拾六萬八千八百拾七圓八拾四錢六厘

預金利息

但利率ハ年四朱五厘トシ四ヶ年間ノ利子ヲ積算ス

下水道施設ノ準備調査

一金百五十拾萬圓

但事業完成後即チ四年目ニ於ケル一ヶ年度ノ純益ナリ

一金四拾貳圓參錢七厘

合計金參百九拾五萬八千九百七拾九圓貳拾錢四厘

支 出

一金四拾九萬六千八百九拾六圓

但募集初年ヨリ償還期ニ至ル四年間ノ利子ニシテ利率ハ年六朱トス

一金貳百七萬四百圓

但事業完成後即チ募集初年ヨリ四ヶ年目ニ於テ償還スルモノトス

合計金貳百五拾六萬七千貳百九拾六圓

差引金百參拾九萬千六百八拾參圓貳拾錢四厘

市公債募集及償還年次内譯表

第一區低段ノ分

(△印ノ欄ハ朱書)

糞尿賣却益金

市公債募集剩餘金

公債利子

償還金

年數	債 額		支 出		收 入		殘 額
	公債利子	償還金	國庫補助金	糞尿拂代	預金利子	募集金事業 費充當差額	
一	二八五、六五〇	〇	一六八、九三九	〇	〇	〇	八〇〇、三三二
二	二八五、六五〇	〇	一六八、九三九	〇	九三、三六七	〇	五〇五
三	五、六三一、三〇〇	〇	三三、七八八	〇	七、五〇二	〇	〇
四	五、六三一、三〇〇	〇	三三、七八八	〇	一、七二〇	〇	〇
五	一、六二一、三〇〇	〇	三三、七八八	〇	一、四四九	〇	〇
六	〇	〇	九七、八七八	〇	二、三二九	〇	〇
計	一、四九三、九〇〇	〇	五、六二一、三〇〇	〇	五、五三三、六〇〇	〇	一、六二一、三〇〇

年數	債 額		支 出		收 入		殘 額
	公債利子	償還金	國庫補助金	糞尿拂代	預金利子	募集金事業 費充當差額	
一	一、〇七〇、四〇〇	〇	一、〇七〇、四〇〇	〇	〇	〇	〇
二	一、〇七〇、四〇〇	〇	一、〇七〇、四〇〇	〇	〇	〇	〇
三	一、〇七〇、四〇〇	〇	一、〇七〇、四〇〇	〇	〇	〇	〇
四	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
計	三、二一〇、八〇〇	〇	三、二一〇、八〇〇	〇	〇	〇	〇

(第二區ノ分)

一	七三〇、〇三九	〇	七三〇、〇三九	〇	〇	〇	〇
二	七三〇、〇三九	〇	七三〇、〇三九	〇	〇	〇	〇
三	七三〇、〇三九	〇	七三〇、〇三九	〇	〇	〇	〇
四	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
計	二、一九〇、一〇九	〇	二、一九〇、一〇九	〇	〇	〇	〇

第十六節 東京市區改正委員會ニ於ケル中
島工學博士下水設計案ノ審査着手

四十年五月三十一日東京市區改正委員會ニ於テ東京市下水設計調査ノ義ニ關シ討議アリ其要領左ノ如シ

吉原委員長ハ「下水設計報告書」ニ付意見ヲ求メ調査主任者タル中島工學博士ハ目下出張中ナレハ説明ヲ求ムルニ由ナキ旨ヲ辯ス河田委員ハ七名ノ委員ニ附託スルコトヲ動議ス角田委員ハ事件ノ來歴内容ノ重大且ツ緻密ニシテ篤ト講究ヲ要スルヲ以テ内務省警視廳東京市等各方面ヨリ選ムトシ十名十二名或ハ更ニ多數ノ委員ヲ選定セント主唱ス委員長ハ委員ノ數ヲ一定シテ提案スルコトヲ望ミ窪田委員ハ衛生學者ヲ之ニ參加セシムルノ必要ヲ説キ小松委員ハ地下關係上各種ノ方面ニ涉リ可成多數ノ委員ヲ舉クルヲ相當トシ十五名説ヲ提出シ佐々木角田兩委員之ニ贊ス日下部委員ハ又之ニ贊スルモ先年家屋建築條例調査ノ際委員外ノ人ヲ調査委員ニ加ヘタルハ事實ナリシヤヲ番外ニ質サント述フ小橋番外ハ東京市區改正條例ノ規定ニヨリ委員長ヨリ特ニ委員外ノ者ニ對シ調査ヲ囑托シタルコトアルヤニ記憶スト答フ窪田委員ハ家屋建築條例ノ調査ニ付市區改正委員外ノモノニ調査囑托シタリシハ蓋シ成案以前ノ事ナラン本件ノ如ク既設ノモノハ委員中ニ就キ調査ヲ命スルノ外ナシ

故ニ衛生學者ヲ委員トシテ之ニ加フルヲ可トスト述フ吉原委員長曰ク調査委員ハ委員會ノ決議ヲ以テ置クモノナレハ委員中ヨリ舉クヘキモノナリ而シテ臨時委員ハ内閣ニ於テ命スルモノナレハ本會ニ於テ如何トモスルニ由ナシト窪田委員ハ本會ノ決議ヲ以テ臨時委員ノ任命ヲ求ムルコトハ不可ナルヘキモ幸ニ内閣ニ於テ臨時委員ヲ命セラル、ノ舉アラハ其委員中ニ衛生學者ヲ加ヘラレンコト望ムモノナリト陳ス委員長ハ窪田委員ノ意見ハ政府ニ於テ臨時委員ノ必要ヲ認メ衛生學者ニ委員ヲ命セラレタル曉ニハ該委員ヲ調査委員ニ加ヘントノ希望ナリヤト問ヒ窪田委員然リト答フ茲ニ於テ委員長ハ採決ヲ宣シ十五名委員說多數ニテ可決セラル尙吉原委員長ハ若シ内閣ニ於テ衛生專家ニ臨時委員ヲ命スルコトアレハ之ヲ調査委員ニ加フルコトトシ委員ハ追テ指名ノ上通知セント述テ閉會ス四十年六月十八日市區改正委員會ハ中島工學博士ノ設計ヲ審査セシムル爲十五名ノ特別委員ヲ舉ケタルコトヲ報告ス此氏名左ノ如シ

- | | | |
|--------|--------|---------|
| 床次 竹二郎 | 犬塚 勝太郎 | 日下部 辨二郎 |
| 稻延 利兵衛 | 中 鉢 美明 | 窪田 靜太郎 |
| 小濱 松次郎 | 中 野 武營 | 北里 柴三郎 |
| 小松 謙次郎 | 五十嵐 秀助 | 緒 方 正規 |
| 安 藤 兼吉 | 角 田 眞平 | 吉川 仙太郎 |

下水道施設ノ準備調査

第十七節 東京市會ニ於ケル中島工學博士下水設計調査委員設置ノ

建議

四十年七月十八日東京市會下水道路河川ニ關スル調査委員ノ意見報告アリ報告書左ノ如シ
下水道路河川ニ關スル調査委員ノ意見報告

委員ハ屢々集會審査ノ末下水ニ關シテハ目下東京市區改正委員會ニ於テ設計成案ノ調査中ニ係ルヲ以テ委員ノ任務ハ茲ニ終リシモ更ニ本下水設計ニ關スル調査委員設置ノ建議ヲ提出セリ又道路河川ニ關シテハ(別紙參考書ノ如ク)當事者ノ意見ヲ徵シアルヲ以テ委員ハ暫ク之ニ讓リ他日之カ提案ニ際シ相當調査ヲ遂クヘキモノト議決セリ其詳細ハ口頭ヲ以テ陳述スヘシ
右及報告候也

尙參考トシテ東京市道路設計書及市内河川改良意見書ヲ添付ス

明治四十年七月十八日

調査委員

- 青木庄太郎
- 松下善太郎
- 坪谷善四郎
- 大岡育造
- 福田又一
- 伊東東靖

- 城數馬
- 武智直道
- 芳野世經

- 今井喜八
- 東邨守一郎
- 下村四郎

- 秋虎太郎
- 石川顯一郎
- 野々山幸吉

東京市會議長 中澤彦 吉殿

(註) 本件添付參考書略

同時ニ下水設計ニ關スル調査委員設置ノ建議ヲナス左ノ如シ

下水設計ニ關スル調査委員設置ノ建議

下水ノ設計ハ東京市區改正委員會ニ於テ調査中ナルニヨリ本會ニ於テモ之カ調査ノ爲委員十五名ヲ設置シ相當調査ヲ遂クルモノトス
右提出候也

明治四十年七月十八日

提出者

(前項調査委員十五名ノ連署)

東京市會議長 中澤彦 吉殿

下水道施設ノ準備調査

第十八節 東京市區改正委員會ノ下水設計主査委員ノ審査報告

四十年七月及十月其報告アリ左ノ如シ

(設計ノ部)

- 東京市下水調査設計ニ關スル件審査ノ結果本設計ハ尙調査研究ヲ要スルモノアルヲ認ムルニ依リ更ニ適當ノ機關ヲシテ設計審査セシメラレシコトヲ望ム試ミニ其重ナル點ヲ舉クレハ左ノ如シ
- 一、第一區ニ屬スル汚水排除ニ河海放流法ヲ採用シ芝浦ヨリ鐵管ヲ以テ遠ク海中ニ放流スル設計ノ如キハ莫大ノ費用ヲ要スルノミナラス工事ノ施行亦容易ナラサルヘク然ルニ尙衛生上芝浦附近ニ一大沈澱池ヲ設置スルノ要アリト云フモ之レ容易ナラサルナリ依テ他ニ方法ナキヤ調査スルコト
 - 二、第三區本所深川ノ低地ニアリテハ洪水時ニ際シテ其効力ヲ完カラシムル能ハサルヘキヲ以テ兩區ヲ圍ラスニ堤防ヲ以テスルカ又ハ適當ノ位置ニ閘門等ヲ設クルコト
 - 三、三河島砂村兩所ニ設クル「セブチツクタンク」處理法ニ關シ其渣滓處分法ヲ考究スルコト
 - 四、錢瓶橋附近ニ「ポンプ」所ヲ設クルハ將來市ノ最モ繁華ナル場所ナルヘキニヨリ面白カラス多額ノ費用ヲ投セス他ニ移轉スル方法ナキヤ
 - 五、錢瓶橋ヨリ櫻田門外ノ送水管其他河海伏越等ノ個所ニ敷設スヘキ鐵管ハ汚水通過ノ爲メ腐蝕

ノ虞アリ之カ修繕方法ニ付研究スルコト

- 六、下水ハ電信電話電燈電力ノ地下線路及瓦斯管水道管等地下工作物ノ其上部ヲ交叉布設シ得ル様成ルヘク地下約五尺以上ニ埋設スルコト斯ノ如クスレハ水頭下リ衛生上ニモ利益アルノミナラス屋內地下室ヲモ造リ得ルニ至ルヘシ
 - 七、凡テ開渠ヲ廢スルコト
 - 八、將來電氣鐵道布設アル道路ニ埋設スヘキ下水ハ其上部ニ平行又ハ交叉シテ軌道ヲ布設シ車輛ヲ運轉スルモ支障ヲ生セサル様設計スルコト
 - 九、下水竣工後ノ維持方法及其費用等ヲ調査スルコト
- 右及報告候也

明治四十年七月

調査委員

- 安藤兼吉
 稻延利兵衛
 小松謙次郎
 日下部辨二郎
 五十嵐秀助

調査委員長 床次竹二郎殿

(衛生ノ部)

下水設計主査委員報告

東京市下水設計調査衛生ニ關スル件審査ノ結果

一、衛生上此設計ニテ差支ナシ但左ノ事項ハ實施ヲ要スト認ム

(イ)各戸ヨリ公共下水道ニ達スル線路ニ付テハ其工費ハ個人ノ負擔ニ屬スルモ工事ハ市ニテ設計施行スルコト(第二章第十三)

(ロ)芝浦吐口適宜ノ所ニ沈澱池ヲ設ケ汚水ノ放流ハ干潮時ニ於テスル事但吐口鐵管ハ多少短縮スルモ妨ナカルヘシ(第二章第十七)

理由

一、汚水ヲ其儘ニ放流スルトキハ海水ヲ汚シ延テ海岸ニ汚物ノ沈澱ヲ爲ス等衛生上危害ノ虞ナキニ非ス依テ沈澱池ノ設置ヲ要ス加之沈澱池ヲ設クレハ傳染病流行時其他必要ノ場合ニハ消毒防臭等ヲ爲スコトヲ得ヘシ

二、三河島村及砂村ニ於テ汚水ヲ隅田川及中川ニ放流ヘルハ衛生上注意ヲ要スルヲ以テ充分審査ヲ遂クルニ同所ニ於ケル濾過池等ノ構造其當ヲ得ルニ於テハ衛生上差支ナシト認ム

右及報告候也

明治四十年七月

主査委員

吉川仙太郎

小濱松次郎

窪田靜太郎

北里柴三郎

緒方正規

調査委員長 床次竹二郎殿

(財源ノ部)

報告

東京市下水調査財源ニ關スル件審査ノ結果

東京市民ノ現在負擔(府稅市稅)ハ一戸平均拾圓貳拾參錢ニシテ之ヲ橫濱市(一戸平均九圓拾壹錢七厘)名古屋(一戸平均九圓貳拾六錢)ニ比スレハ聊カ重キカ如シト雖モ京都市(一戸平均拾五圓六拾參錢五厘)大坂市(一戸平均拾四圓五拾錢七厘)神戸市(一戸平均拾壹圓六拾七錢七厘)ニ比ス

下水道施設ノ準備調査

レハ尙ホ其負擔ヲ増加スルコトヲ得ヘシ假リニ京都市ト同一程度ノ負擔トセハ更ラニ貳百拾壹萬七千餘圓ヲ得ヘク大阪市ト同一程度ノモノトセハ百八拾九萬餘圓ノ增收ヲ得ヘシト雖モ東京市ニ於テハ將來諸般事業ノ經營ヲ要スルモノ多ク獨リ下水改良事業ニ其全部ヲ舉ケテ投シ難キ趨勢ナルヲ以テ現在負擔ノ幾分ヲ増加スルコト、新ニ下水稅ヲ起シ土地ノ貸賃價格ヲ標準トシテ徵收スルノ外左記ノ財源ニ依ルヲ相當ト認ム

一、國庫ノ補助ハ帝國ノ首府ナルヲ以テ特ニ其半額ヲ要求スルコト

一、市區改正所屬河岸地ハ其地料ヲ増徴スルカ若クハ之ヲ賣却スルコト

一、上水使用料ハ現在率ニ二割ヲ増加シ其總收入ヨリ事業公債償還基金及水道擴張工費ヲ差引其殘額ヲ繰入ル、コト

以上ノ財源ノ外汚物ノ處分ニ依ル益金ヲ雜收入トシ市民ノ負擔ヲ輕減スルコト

依テ參考書類相添此段及報告候也

明治四十年十月

主査委員

床次竹二郎
犬塚勝太郎

東京市下水調査委員長

床次竹二郎殿

中鉢美明
中野武營
角田眞平

參考書ノ一

四十年度東京市稅課率

區別	稅目	市稅	特別稅	計
國稅	地租	十分ノ三	十分ノ十	十分ノ十三
	所得稅	百分ノ二十	—	百分ノ二十
府稅	營業稅	百分ノ十八	百分ノ二十七	百分ノ四十五
	家屋稅	百分ノ四十八	百分ノ十三	百分ノ六十一
	營業稅及雜種稅割	百分ノ四十五	百分ノ二十六	百分ノ七十一

(備考) 特別稅トハ市區改正稅ナリ

區費ハ所得稅及營業稅ニ對シテ各區其課率ヲ異ニスルモ市稅ト通率スルトキハ殆ト法定ノ制限ニ達シ增收ノ餘地ナシ

増課シ得ル金額

下水道施設ノ準備調査

區別	稅目	金額		及特別稅		課率	
		市稅	課率	特別稅	課率		
國稅	地租	八五、〇〇〇	百分ノ十	—	—	八五、〇〇〇	—
	所得稅	—	—	—	—	—	—
府稅	營業稅	一四、〇〇〇	百分ノ十二	—	—	一四、〇〇〇	—
	家屋稅	—	—	—	—	—	—
府稅	營業稅及雜種稅	—	—	—	—	—	—
	營業稅及雜種稅	—	—	—	—	—	—
合計		三三九、〇〇〇	—	—	—	三三九、〇〇〇	—

(備考) 府稅ニ對スル市稅ノ附加ハ割限ナシ

參考書ノ二

各市負擔比較表

市名	市稅	區稅	府稅	合計
東京	一、三四五	一、八三四	二、九七二	一〇、三三〇
京都	一、二七八	三、六六七	—	一五、六三五
大阪	六、六三三	四、一七六	—	一四、五〇七
神戶	七、五八九	一、五五八	—	九、一七二
名古屋	八、六三四	三、〇四七	—	一一、六八七
名古屋	九、二六〇	二、一〇九	—	一一、三六九

參考書ノ三

民有地賃賃價格調

- 一 民有地坪一千四百四十九萬七千九百七十八坪一合七勺
- 一 賃賃價格金八拾五萬五千六百六拾六圓六拾六錢四厘
- 但一ヶ月賃賃料一坪金七錢四厘餘
- 一 賃賃料金壹圓ニ付一ヶ月金貳錢五厘ヲ課スルモノ左ノ如シ
- 金貳萬千參百九拾壹圓六拾六錢六厘
- 此一ヶ年金貳拾五萬六千六百九拾九圓九拾九錢貳厘
- 一 賃賃料金壹圓ニ付一ヶ月金五錢ヲ課スルモノ左ノ如シ
- 金四萬貳千七百八拾參圓參拾參錢參厘
- 此一ヶ年分金五拾壹萬參千參百九拾九圓九拾九錢六厘

參考書ノ四

市區改正所屬河岸地使用料增徴調

- 一 河岸地總地坪 十八萬六千餘坪
- 無地料
- 內二萬一千餘坪

下水道施設ノ準備調査

十六萬四千餘坪

一現在河岸地收入 金貳拾參萬八千餘圓

一附近民有地使用料ニ比準シ相當使用料ヲ徵スルモノトスルトキハ貳拾七萬四千圓餘ノ收入ヲ得ヘク即チ現收入ニ對シ一割五分強ニ當ル

參考書ノ五

市區改正所屬河岸地賣却調

區名	地坪	金額	平均單價
麴町區	四、〇四七・二三〇	一二九、五一・三六〇	三二・〇〇〇
神田區	一六、六五八・二七九	七三〇、五三七・九五九	四三・八五〇
日本橋區	三五、二六〇・三八二	三七〇、一七二・一三四	一〇四・九二八
京橋區	三一、六一七・四七〇	一、八四八、六六六・〇二〇	五八・四六九
芝布區	七、六六四・六九〇	二三〇、五三六・三六〇	三〇・〇七七
麻込區	一、七〇八・一一〇	六七、四八七・七〇〇	三九・五一〇
牛込區	〇・〇	〇・〇	〇・〇
小石川區	一、九六二・一二〇	三五、三一八・一六〇	一八・〇〇〇
淺草區	一三、五五五・五七〇	四五七、九七二・八四〇	三三・七八四
本所區	三五、九九八・三二〇	六九六、四六四・七〇〇	一九・三四七

有地料

深川區	一九、三六六・二二〇	三六九、八五七・一二〇	一九・〇九八
總計	一六七、八三八・三九一	八、二六八、〇六三・三五三	四九・二六二餘

下水費收支調(十ヶ年計畫)

總工費

一金參千參百六拾六萬圓

但中島博士設計額金參千六拾萬圓ニ一割ヲ增加セリ

財源

- 一、國庫ノ補助金ハ總工費ノ半額金千六百八拾參萬圓ヲ請願スルコト
- 一、河岸地ヲ賣却シテ金八百萬圓ヲ得ルコト
- 一、下水稅ヲ起シ其方法ハ土地ノ賃貸價格ニ依リ壹圓ニ付金貳錢五厘ヲ賦課スルコト
- 一、現在水料率ニ二割ヲ增加シ總收入ヨリ事業公債償還基金及水道擴張工費ヲ差引殘額ヲ組入ル、コト

一、糞尿市營ヨリ生スル益金ノ内毎年金拾五萬圓ヲ組入ル、コト

一、前記ノ財源ヲ充テ尙不足額ハ公債ヲ募集スルコト

以上ニヨリ詳細ノ計算ハ別表ノ如シ

下水道施設ノ準備調査

東京市下水道改良費收支計算表

年次	債額	支出				収入				預金額	償還額
		事業費	公債	補助金	河岸地	下水税	水料	糞尿益金	預金		
一	0	3,566,000	0	1,683,000	1,683,000	2,567,000	1,840,000	150,000	0	5,057,000	0
二	0	3,566,000	0	1,683,000	1,683,000	2,567,000	1,840,000	150,000	0	5,057,000	0
三	0	3,566,000	0	1,683,000	1,683,000	2,567,000	1,840,000	150,000	0	5,057,000	0
四	0	3,566,000	0	1,683,000	1,683,000	2,567,000	1,840,000	150,000	0	5,057,000	0
五	0	3,566,000	0	1,683,000	1,683,000	2,567,000	1,840,000	150,000	0	5,057,000	0
六	0	3,566,000	0	1,683,000	1,683,000	2,567,000	1,840,000	150,000	0	5,057,000	0
七	0	3,566,000	0	1,683,000	1,683,000	2,567,000	1,840,000	150,000	0	5,057,000	0
八	0	3,566,000	0	1,683,000	1,683,000	2,567,000	1,840,000	150,000	0	5,057,000	0
九	2,050,000	3,566,000	1,300,000	1,683,000	1,683,000	2,567,000	1,840,000	150,000	4,081,291	1,012,295,744	0
〇	2,050,000	3,566,000	1,300,000	1,683,000	1,683,000	2,567,000	1,840,000	150,000	4,081,291	1,012,295,744	0
一	2,050,000	3,566,000	1,300,000	1,683,000	1,683,000	2,567,000	1,840,000	150,000	4,081,291	1,012,295,744	0
二	2,050,000	3,566,000	1,300,000	1,683,000	1,683,000	2,567,000	1,840,000	150,000	4,081,291	1,012,295,744	0
三	2,050,000	3,566,000	1,300,000	1,683,000	1,683,000	2,567,000	1,840,000	150,000	4,081,291	1,012,295,744	0
四	2,050,000	3,566,000	1,300,000	1,683,000	1,683,000	2,567,000	1,840,000	150,000	4,081,291	1,012,295,744	0
五	2,050,000	3,566,000	1,300,000	1,683,000	1,683,000	2,567,000	1,840,000	150,000	4,081,291	1,012,295,744	0
計	110,000	3,566,000	7,220,000	6,100,000	6,100,000	2,567,000	1,840,000	150,000	5,566,606,976	110,000	110,000

(備考)

一、公債ハ當初ヨリ九年目ニ於テ募集シ三ヶ年据置其翌年ヨリ四ヶ年間ニ償還ス

一、公債ノ利子ハ年六分ノ割合ニテ計算ス

一、毎年收支差引殘金ハ之レヲ預金トシ年四分ノ利子ヲ得ハキ計算トス

参考書ノ六ノ乙

下水費收支調(十ヶ年計畫)

總工費

一、金參千參百六拾六萬圓

但中島博士設計額金參千六拾萬圓ニ一割ヲ増加セリ

財源

一、國庫ノ補助金ハ總工費ノ半額金千六百八拾參萬圓ヲ請願スルコト

一、河岸地貸地料ハ現在率ニ五割ヲ増加スルコト

一、下水税ヲ起シ其方法ハ土地ノ賃貸價格ニ依リ壹圓ニ付金五錢ヲ賦課スルコト

一、現在水料率ニ二割ヲ増加シ總收入ヨリ事業公債償還基金及水道擴張工費ヲ差引其殘額ヲ組

入ル、コト

一、糞尿市營ヨリ生スル益金ノ内毎年金拾五萬圓ヲ組入ル、コト

下水道施設ノ準備調査

一、前記ノ財源ヲ充テ尙不足額ハ公債ヲ募集スルコト
以上ニヨル詳細ノ計算ハ別表ノ如シ

東京市下水改良費支辨計算表

年次	債額		支		出		收		入		預金額	償還額
	事業費	公債利子	補助金	河岸地賃地料	下水税	水料	糞尿基金	預金利子	預金額			
一	11,000,000	0	11,000,000	0	11,000,000	0	0	0	0	0	0	0
二	11,000,000	0	11,000,000	0	11,000,000	0	0	0	0	0	0	0
三	11,000,000	0	11,000,000	0	11,000,000	0	0	0	0	0	0	0
四	11,000,000	0	11,000,000	0	11,000,000	0	0	0	0	0	0	0
五	11,000,000	0	11,000,000	0	11,000,000	0	0	0	0	0	0	0
六	11,000,000	0	11,000,000	0	11,000,000	0	0	0	0	0	0	0
七	11,000,000	0	11,000,000	0	11,000,000	0	0	0	0	0	0	0
八	11,000,000	0	11,000,000	0	11,000,000	0	0	0	0	0	0	0
九	11,000,000	0	11,000,000	0	11,000,000	0	0	0	0	0	0	0
一〇	11,000,000	0	11,000,000	0	11,000,000	0	0	0	0	0	0	0
一一	11,000,000	0	11,000,000	0	11,000,000	0	0	0	0	0	0	0
一二	11,000,000	0	11,000,000	0	11,000,000	0	0	0	0	0	0	0
一三	11,000,000	0	11,000,000	0	11,000,000	0	0	0	0	0	0	0
一四	11,000,000	0	11,000,000	0	11,000,000	0	0	0	0	0	0	0

(備考)

- 一、公債ハ當初ヨリ四年目迄各貳百萬圓及五年目ニ參百萬圓合計千百萬圓ヲ募集シ六ヶ年据置キ其翌年ヨリ十五ヶ年ニ償還スルモノトス
- 一、公債ノ利子ハ年六分ノ割合ヲ以テ計算ス
- 一、毎年收支差引預金ハ之ヲ預金トシ年四分ノ利子ヲ得ヘキ計算トス

年次	計	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四
債額	110,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000
支	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
出	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
收	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
預金額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
償還額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

第十九節 東京市區改正委員會本會議ニ於ケル下水設計案審議及東京市會ニ於ケル下水設計及財源ニ關スル調査建議並ニ市區改正委員長ノ下水設計具申

四十年十一月十一日東京市區改正委員會ノ特別委員ハ委員總會ニ對シ調査ノ結果ヲ報告ス報告書及議事要領左ノ如シ

東京市區改正委員

東京市下水調査報告

報告

- 東京市下水調査ニ關スル件審査ヲ遂ケ候處其結果左記ノ通ニ候
- 一本設計ハ大體ニ於テ差支ナシ但シ第一區ニ屬スル汚水排除ニ河海放流法ヲ採用シ芝浦ヨリ鐵管ヲ以テ遠ク海中ニ放流スルノ設計ハ衛生上危害ノ虞アリト認ムルヲ以テ吐口ニ於ケル適所ニ沈澱池ヲ設ケ汚水ノ放流ハ干潮時ニ於テ衛生上遺憾ナカラシムル事
 - 一實施ニ當リ左記ノ事項ニ付相當注意セシメラレントヲ望ム
 - (一)第三區本所深川ノ低地ハ洪水防禦ノ爲メ堤防ヲ圍繞スルカ又ハ適所ニ閘門ヲ設クル事
 - (二)三河島村砂村兩所ニ設クル「セブチツクタンク」又濾過池等ノ構造ハ衛生上遺憾ナカラシメ

又其渣滓處分ノ方法ヲ調査スル事

- (三)錢瓶橋附近ニ設クル唧筒場ハ他ニ比較ノ調査ヲ試ムル事
 - (四)錢瓶橋ヨリ櫻田門外ヘ至ル送水管其他河海伏越等ノ個所ニ敷設スヘキ鐵管ハ汚水通過ノ爲メ腐蝕ノ虞アリ其修繕方法ヲ調査スル事
 - (五)下水道ハ電信、電話、電燈、電力ノ地下線路及瓦斯管、水道管等ノ其上部ヲ交叉敷設シ得ル爲メ成ルヘク地下約五尺以上ニ埋設セシムル事
 - (六)可成開渠ヲ設ケサル事
 - (七)將來電氣鐵道敷設ノ見込アル道路ニ埋設スヘキ下水道ハ其上部ニ並行又ハ交叉シテ軌道ヲ敷設スルモ支障ナカラシムル事
 - (八)各戸ヨリ公共下水道ニ達スル線路ニ付テハ其工費ハ個人ノ負擔ニ屬スルモ市ニテ設計施行スル事
 - (九)下水竣工後ノ維持方法及費用等ヲ豫メ調査スル事
- 一東京市民ノ現在負擔(府稅市稅)ハ一戸平均拾圓貳拾參錢ニシテ之ヲ橫濱市(一戸平均九圓拾壹錢七厘)名古屋市(一戸平均九圓貳拾六錢)ニ比スレハ聊カ重キカ如シト雖モ京都市(一戸平均拾

五圓六拾參錢五厘)大阪市(一戸平均拾四圓五拾錢七厘)神戸市(一戸平均拾壹圓六拾七錢七厘)ニ比スレハ尙ホ其負擔ヲ増加スルコトヲ得ヘシ假リニ京都市ト同一程度ノ負擔トセハ更ラニ貳百拾壹萬七千餘圓ヲ得ヘク大阪市ト同一程度ノモノトセハ百八拾九萬餘圓ノ增收ヲ得ルト雖モ東京市ニ於テハ將來諸般事業ノ經營ヲ要スルモノ多ク獨リ下水改良事業ニ其全部ヲ舉ケテ投シ難キ趨勢ナルヲ以テ現在負擔ノ幾分ヲ増加スルコト、シ市區改正特別稅中新ニ下水稅ヲ起シ土地ノ賃賃價格ヲ標準トシテ徵收スルノ外左記ノ財源ニ依リテ事業ヲ進行シ必要ノ場合ハ公債ヲ募集シテ其費途ニ充テ之等ノ財源ヨリ漸次償還スルノ方法ヲ採ルヲ相當ト認ム而シテ之カ實施ニ付テハ東京市區改正條例中改正ヲ要スルハ勿論トス

- (一)國庫ノ補助ハ帝國ノ首府ナルヲ以テ特ニ其半額ヲ要求スル事
- (二)市區改正所屬河岸地ハ其地料ヲ増徴スルカ若クハ之ヲ賣却スル事
- (三)上水使用料ハ現在率ニ二割ヲ増加シ其總收入ヨリ事業公債償還金及水道擴張工費ヲ差引其殘額ヲ繰入ル、事

以上財源ノ外汚物ノ處分ニ依ル益金ヲ雜收トシ市民ノ負擔ヲ輕減スル事
依テ參考書類相添此段及報告候也

明治四十年十一月十一日

一番	床次竹次郎
二番	安藤兼吉
四番	稻延利兵衛
十四番	吉川仙太郎
十八番	小濱松次郎
二十番	犬塚勝太郎
二十一番	小松謙次郎
二十五番	中鉢美明
二十九番	中野武營
三十三番	日下部辨二郎
三十四番	五十嵐秀助
三十五番	窪田靜太郎
三十七番	角田眞平

三十八番 北里柴三郎
三十九番 緒方正規

東京市區改正委員長吉原三郎殿

参考書ノ一

四十年度東京市税課率

税目	市課税		特別税	計率
	市	課		
地租割	十分ノ三		十分ノ十	十分ノ十三
國稅所得稅割	百分ノ二十			百分ノ二十
營業稅割	百分ノ十八		百分ノ廿七	百分ノ四十五
家屋稅割	百分ノ四十八		百分ノ十三	百分ノ六十一
府稅營業稅割及雜種稅割	百分ノ四十四		百分ノ廿六	百分ノ七十一

備考 特別税トハ市區改正税ナリ

區費ハ所得稅及營業稅ニ對シテ各區其課率ヲ異ニスルモ市税ト通率スルトキハ殆ント

法定ノ制限ニ達シ增收ノ餘地ナシ

参考書ノ二

各市負擔比較表

市名	市税		區税		府税		計	
	一戸	一人	一戸	一人	一戸	一人	一戸	一人
東京	五、四二五	一、三四五	一、八三四	四、八〇〇	二、九七二	七、三七	一〇、三三〇	二、五六一
京都	二、七七八	二、一九八	三、六六七	七、三三			一、五六三	二、九二〇
大阪	六、六八三	一、五五五	四、一七六	九、九	三、六四六	八、五四	一、四五〇	三、三九八
横濱	七、五九九	一、四二四	一、五五	二、六七			九、一七	一、七二
神戶	八、三三四	二、一九四	三、〇四七	七、四			一、二六七	二、九八
名古屋	九、二六〇	二、二〇九					九、二六〇	二、二〇九

参考書ノ三

民有地賃貸價格調

- 一 民有地坪 一千百四十九萬七千九百七十八坪一合七勺
- 一 賃貸價格 金八拾五萬五千六百六拾六圓六拾六錢四厘
- 但シ一ヶ月賃貸料一坪金七錢四厘餘

下水道施設ノ準備調査

一 賃貸料 金壹圓ニ付一ヶ月金貳錢五厘ヲ課スルモノトセハ左ノ如シ

金貳萬千參百九拾壹圓六拾六錢六厘

此一ヶ年分金貳拾五萬六千六百九拾九圓九拾九錢貳厘

一 賃貸料金壹圓ニ付一ヶ月金五錢ヲ課スルモノトセハ左ノ如シ

金四萬貳千七百八拾參圓參拾參錢參厘

此一ヶ年分金五拾壹萬參千參百九拾九圓九拾九錢六厘

參考書ノ四

市區改正所屬河岸地使用料増徴調

一 河岸地總地坪 十八萬六千餘坪

內 貳萬壹千餘坪 無地料
拾六萬四千餘坪 有地料

一 現在河岸地收入 金貳拾參萬八千餘圓

一 附近民有地使用料ニ比準シ相當使用料ヲ徴スルモノトスルトキハ貳拾七萬四千圓餘ノ收入ヲ得ヘク即チ現收入ニ對シ一割五分強ニ當ル

參考書ノ五

市區改正所屬河岸地賣却調

區名	地坪	金額	平均單價
總町區	四、〇四七・二三〇	一二九、五一・三六〇	三二・〇〇〇
神田區	一六、六五八・二七九	七三〇、五三七・九五九	四三・八五〇
日本橋區	三五、二六〇・三八二	三、七〇一、七一・一三四	一〇四・九二八
京橋區	三一、六一七・四七〇	一、八四八、六六六・〇二〇	五八・四六九
芝布區	七、六六四・六九〇	二三〇、五三六・三六〇	三〇・〇七七
麻込區	一、七〇八・一一〇	六七、四八七・七〇〇	三九・五一〇
牛込區	〇	〇	〇
小石川區	一、九六二・一二〇	三五、三一八・一六〇	一八・〇〇〇
淺草區	一三、五五五・五七〇	四五七、九七二・八四〇	三三・七八四
本所區	三五、九九八・三二〇	六九六、四六四・七〇〇	一九・三四七
深川區	一九、三六六・二二〇	三六九、八五七・一二〇	一九・〇九八
總計	一六七、八三八・三九一	八、二六八、〇六三・三五三	四九・二六二餘

參考書ノ六ノ甲

下水費收支調 (十ヶ年計畫)

總工費

一金參千參百六拾六萬圓

但中島博士設計額金參千六拾萬圓ニ一割ヲ增加セリ

下水道施設ノ準備調査

財源

- 一、國庫ノ補助金ハ總工費ノ半額金千六百八拾參萬圓ヲ請願スルコト
- 一、河岸地ヲ賣却シテ金八百萬圓ヲ得ルコト
- 一、下水稅ヲ起シ其方法ハ土地ノ賃貸價格ニ依リ壹圓ニ付金貳錢五厘ヲ賦課スルコト
- 一、現在水料率ニ二割ヲ増加シ總收入ヨリ事業公債償還基金及水道擴張工費ヲ差引其殘額ヲ組入ル、コト
- 一、糞尿市營ヨリ生スル益金ノ内毎年金拾五萬圓ヲ組入ル、コト
- 一、前記ノ財源ヲ充テ尙不足額ハ公債ヲ募集スルコト

以上ニ依ル詳細ノ計算ハ別表ノ如シ

東京市下水道改良費收支計算表

次 年	支 出		收 入					預金額	償還額
	事業費	公債利子	國庫補助金	河岸地賣却代	下水稅	水料	糞尿益金		
一	0	0	1,683,000	0	2,570,000	1,800,000	150,000	0	0
二	0	0	1,683,000	0	2,570,000	1,800,000	150,000	0	0
三	0	0	1,683,000	0	2,570,000	1,800,000	150,000	0	0
四	0	0	1,683,000	0	2,570,000	1,800,000	150,000	0	0
五	0	0	1,683,000	0	2,570,000	1,800,000	150,000	0	0

次 年	支 出		收 入					預金額	償還額
	事業費	公債利子	國庫補助金	河岸地賣却代	下水稅	水料	糞尿益金		
一	0	0	1,683,000	0	2,570,000	1,800,000	150,000	0	0
二	0	0	1,683,000	0	2,570,000	1,800,000	150,000	0	0
三	0	0	1,683,000	0	2,570,000	1,800,000	150,000	0	0
四	0	0	1,683,000	0	2,570,000	1,800,000	150,000	0	0
五	0	0	1,683,000	0	2,570,000	1,800,000	150,000	0	0
計	0	0	8,415,000	0	12,850,000	9,000,000	750,000	0	0

備考 一、公債ハ當初ヨリ九年目ニ於テ募集三ヶ年据置キ其翌年ヨリ四ヶ年間ニ償還ス

一、公債ノ利子ハ年六分ノ割合ヲ以テ計算ス

一、毎年收支差引殘金ハ之ヲ預金トシ年四分ノ利子ヲ得ヘキ計算トス

參考書ノ六ノ乙

下水費收支調

總工費

一金參千參百六拾六萬圓

水道施設ノ準備調査

但中島博士設計額金參千六拾萬圓ニ一割ヲ増加セリ

財源

- 一 國庫ノ補助金ハ總工費ノ半額金千六百八拾參萬圓ヲ請願スルコト
- 一 河岸地貸地料ハ現在率ニ五割ヲ増加スルコト
- 一 下水稅ヲ起シ其方法ハ土地ノ賃貸價格ニ依リ壹圓ニ付金五錢ヲ賦課スルコト
- 一 現在水料率ニ二割ヲ増加シ總收入ヨリ事業公債償還基金及水道擴張工費ヲ差引其殘額ヲ組入ル、コト
- 一 糞尿市營ヨリ生スル益金ノ内毎年金拾五萬圓ヲ組入ル、コト
- 一 前記ノ財源ヲ充テ尙不足額ハ公債ヲ募集スルコト

以上ニ依ル詳細ノ計算ハ別表ノ如シ

東京市下水改良費支辨計算表

次 年	支 出		收 入				預金額	償還額
	事業費	公債利子	國庫補助金	河岸地貸地料	下水稅	水料		
三	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	513,000,000	187,000,000	150,000,000	0
二	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	513,000,000	187,000,000	150,000,000	0
一	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	513,000,000	187,000,000	150,000,000	0
計	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	1,539,000,000	561,000,000	450,000,000	0

下水道施設ノ準備調査

年	三	二	一	計	三	二	一	計	三	二	一	計	三	二	一	計
支	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000
出	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000
收	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000
入	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000
預金額	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000
償還額	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000	000,000,000

備考

一、公債ハ當初ヨリ四年目迄各貳百萬圓及五年目ニ參百萬圓合計千百萬圓ヲ募集シ六ヶ年据置キ其翌年ヨリ十五ヶ年ニ償還スルモノトス

一、公債ノ利子ハ年六分ノ割合ヲ以テ計算ス

一、毎年收支差引殘金ハ之ヲ預金トシ年四分ノ利子ヲ得可キ計算トス

當日ノ議事左ニ

床次委員曰ク下水ノ設計調査ニ關シテハ今朗讀セル所ノ如シ委員ハ本會ノ委托ヲ受クルヤ之ヲ財源設計衛生ノ三部ニ分チ專ラ此三點ニ付分擔調査ヲ爲シタリ第一區ニ屬スル汚水ノ排除ニ付テハ芝浦ヨリ汚水ヲ直ニ之ヲ海中ニ放流スルハ衛生上頗ル危險ノ虞アルヲ以テ沈澱ノ上之ヲ放流スルヲ可ナリト認メ之ヲ改ムルコトトナセリ但此ノ如キ大事業ハ他日設計變更ヲ要スルコトアルヘキモ夫等ハ執行ニ際シ相當措置セシムルヲ可ト認メタリ調査ノ際委員ニ於テ注意シタル點ハ報告書ニ列記シ置キタルモ此類ノ事ハ尙少ナカサルヘシ要スルニ本設計ハ速カニ之ヲ定ムル要アレハ必要ニ應シ他日又變更スルヲ得ルコトトシ先ツ設計ノ大體ヲ茲ニ確定セントスルニアリ次ニ財源ニ關スルコトナリ中島博士ノ調査ニヨレハ本工事ノ爲ニ要スル費額ハ參千餘萬圓ナルモ更ニ沈澱池ヲ設クルコトトセハ尙幾分費用ノ増加ハ免レサルヘキモ大體ニ於テハ報告書ノ通東京市ニ於テハ負擔ノ餘地アリト認メタリ但新税目ヲ起シ又ハ一時借入金ヲナシ又ハ水道使用料ノ幾分ヲ充用ス

ル等ノ事ハ已ムヲ得サルヘシ其詳細ハ更ニ各主査ヨリ答辨スヘシ尙東京市ニ於ケル下水速成ノコトハ調査委員一致ノ希望ナレハ本會ニ於テ速カニ本案ヲ可決セラレンコトヲ望ム且可決ノ上内務大臣ヘノ具申書ハ委員長限リ專決ヲ認メラレンコトヲ望ムト福田委員ハ糞尿市營益金ノ内毎年金十五萬圓ヲ組入ル、コトノ計算ノ出所ヲ問フ角田委員說イテ曰ク此報告書ノ末ニ以上財源ノ外汚物ノ處分ニ依ル益金ヲ雜收入トシ市民ノ負擔ヲ輕減スルコト、アリ彼ノ水道使用料ノ如キハ下水ノ財源トシテハ固ヨリ適當ナルヘシト雖モ爲ニ其ノ料金ヲ高ムルカ如キハ望マシカラサルコトナルヲ以テ僅ニ其二割ヲ増加シ以テ其總收入中事業公債償還基金及水道擴張工費ヲ引去リ其殘額ヲ之ニ充ツルコトトナシタリ汚物ノ收利ニ至ツテハ市自ラ之カ汲取ヲ爲スト又請負人ヲシテ之ヲ汲取ラシムルコトト爲スト其方法ノ何レニ依ルヲ問ハス收利ハ最モ少キモノトシテ之ヲ計算シタリ而シテ其計算ニ付テハ大體之ヲ三個ノ方法ニ區別スルヲ得ヘシ即チ其第一ハ從來一個人ノ汲取リタル方法ヨリ一層丁寧ニ掃除シ且ツ賣手ノ方ニ對シテモ從前ニ比シ成ルヘク損耗ヲ與ヘサルコトトシ而シテ其汲取リタル儘ノ分量ニテ一荷幾何ト其價ヲ定テ計算スルノ方法第二ハ肥料トシテ最モ効果アル豆粕ヲ絞リタルモノト價ヲ比例シテ計算スルノ方法第三ハ拾參萬貳千七百餘圓ノ純益ヲ得ヘク第二ニヨレハ四拾九萬六千九百餘圓ノ純益ヲ得ヘシ而シテ第三ハ目下肥

料業者ノ現ニ行ヒツツアル賣買ノ方法即其ノ汲取リタル肥料ニ割水ヲ爲シ以テ賣却スルモノニシテ此方法ニ依ルキハ百六拾八萬千六百餘圓ノ純益ヲ得ヘク而モ此方法ニヨレハ原料ノ増加スルニ從ヒテ其純益モ亦愈々多キヲ見ルニ至ルヘシト雖是レ固ヨリ穩當ヲ缺クノ方法ナルヲ以テ市カ之ヲ經營スルニ當テハ此方法ニ倣フコトヲ得ス則チ賣手ニ對シテハ可成満足ヲ與フルニカムルト同時ニ買手ニ對シテモ亦満足ノ方法ヲ探ラサルヘカラス依テ本員等ハ汚物ノ收利ハ先ツ之ヲ參拾萬圓ト見做シ而シテ毎年其半ヲ以テ起業費百貳拾八萬餘圓ノ返濟ニ充テ其ノ余ノ拾五萬圓ヲ以テ直營又ハ請負ニテ之ヲ經營セントスルノ趣旨ニテ計算シタリ尤モ其詳細ニ至リテハ頗ル煩雜ナルヲ以テ單ニ計算ノ要旨ノミヲ述フト東村委員曰ク調査委員ノ報告ニヨレハ芝浦ニ沈澱池ヲ設ケ汚水ハ之ヲ濾過セシ上放流セントスルニアルカ如シ原設計ノ土工費ハ如何ニ變化スルカト中島委員ハ鐵管ヲ短縮シ原設計ノ如キ長管ハ要セスト答フ東村委員又芝浦沈澱池ト鐵管トノ關係ヲ問フ中島委員ハ沈澱池ニ至ル迄ノ間ハ鐵管ヲ必要トスルモ沈澱池ヨリ先キハ別ニ鐵管ヲ要セス但原設計以上ニ更ニ土工費ヲ要スルハ勿論ナリト答フ東村委員又問フテ曰ク曩キニ東京市ニテ調査ノ際中島氏ハ鐵管ノ命脈ヲ十年間ト説明セラレタリト傳ヘラルルカ十年毎ノ伏換ハ甚タ容易ナラサルヘシ如何ト中島委員ハ斯カク短命ノモノニアラス現ニ伯林ニ於ケルモノノ如キ卅年前ニ布設シタルモノナルモ今尙使用ニ堪ユ彼我排水法ニ相違アレハ同一ニ論定スヘカラサルモ兎角十年廿年ノ如キ

短命ナルモノニアラスト答フ佐々木委員ハ本件下水設計調査ニ付調査委員ノ勞ヲ謝シ本件カ事専門技術且大事業ナレハ今逐一其當否ヲ定ムルコトトナサス一面議會―國庫補助ノ關係アレハ大體ニ就テ急速議定シ置クヲ可ト認メ床次委員カ本案ニ關スル具申書ヲ委員長ニ一任セントノ動機ニ贊スル旨ヲ述フ茲ニ於テ委員長ハ下水設計案ハ數年前中島委員ニ於テ調査セラレ本年三月同委員ヨリ本會ニ報告セラレタルモノニ係リ事重大ナル案件ナレハ當時ニ於テ一應調査委員ヲ置キ之ニ調査ヲ托スルコトニ決シ五月三十一日十五名ノ調査委員ヲ置キ今日ノ報告ニ至リシ所以ナリト前説シ第一ニ調査委員ノ報告ニ付第二ニ中島委員報告ノ可否ニ付採決スヘシ但之ニ先チ一應調査委員ニ尋スル所アルヘシソハ此報告書中ニ「條例改正」トアルハ税目ノミニ關スルカ將タ其外ニ涉ルモノナリヤ又改正ハ之ヲ本會ヨリ建議セントスルモノナリヤ此也ト床次委員ハ之ニ答フルニ條例改正ハ特別税ト百萬圓ノ制限ニ關スル二點ニアリ而シテ其改正ニ設計認可ノ上ニテ建議シ可然今次ニ於テハ先ツ設計認可ノ事ニ付措置セントスル見込ナルヲ以テ委員長ハ又重ネテ問フ此ノ財源ノ事ハ大體ノ意見ト思惟セラレ報告書中糞尿代云々トアルモ今日ハ法律關係上市ニ於テ之ヲ收得スルヲ得ス如何ト床次委員長說ノ通ナリト述フ窪田委員ハ委員長カ二段ニ決ヲ採ラントスルニアルモ調査委員ノ報告ハ中島委員ノ意見ニ附帶シ居ルニ二段ニ採決セントスルハ異様ニアラスヤト述フ委員長ハ異議ナクハ一回ニテ決ヲ採ルニ差支ナキモ會議ノ順序トシテ先ツ修正說ニ付決ヲ

探り次ニ原案ニ及ハントスルニアリト辯シ第一段調査委員報告ニ付裁決シ次ニ第二段中島委員報告ニ調査委員修正通可決シタルモノト認ムヘキヤニ付採決シ共ニ可決シ更ニ床次委員ヨリ設計具申書ハ委員ニ一任ストノ動機ニ關シ採決シ次ニ佐々木委員ノ動議ニカカル中島案ニ修正方委員長ニ一任セントノ件ヲ採決シ共ニ可決セラル

四十年十一月二十二日東京市會ノ下水設計ニ關スル特別委員ハ市區改正委員會ノ決議セル具體的成案ニ基キ改メテ調査ヲナスノ必要ヲ認メ市會ニ向テ下水設計及財源ニ關スル調査委員設置ノ建議案ヲ提出シ市會ハ之ヲ可決シテ建議者十五名ヲ以テ其委員ニ擧ケタリ委員氏名及建議案左ノ如シ

下水設計及財源ニ關スル調査委員設置ノ建議

本市下水改良ニ關シ東京市區改正委員會ニ於テ調査中ノ處別紙參考書ノ通決議セルヲ以テ該決議書ニ基キ本市會ニ於テ更ニ調査ヲナスハ本市ノ利害上必要ト認ム依テ本市會ハ調査委員十五名ヲ設置セラレンコトヲ望ム

右提出候也

明治四十年十一月二十二日

- | | | | |
|-------|-------|-------|------|
| 青木庄太郎 | 松下善太郎 | 坪谷善四郎 | 大岡育造 |
| 福田又一 | 伊東靖 | 内山平三郎 | 城敷馬 |

- | | | | |
|------|-------|-------|------|
| 武智直道 | 芳野世經 | 今井喜八 | 東郷守節 |
| 秋虎太郎 | 石川顯一郎 | 野々山幸吉 | |

東京市會議長中澤彦吉殿

(註) 一、「別紙」ハ前示調査報告ナリ
二、設計財源ニ關スル主査左ノ如シ

設計ノ部	主査	野々山幸吉
財源ノ部	主査	秋虎太郎

四十年十二月十六日東京市區改正委員長ハ委員會ノ決議ニ基キ内閣ニ對シテ設計認可ノ具申ヲナセリ具申書左ノ如シ

東京市ニ於ケル下水改良ハ上水改良ト共ニ夙ニ其緊要ヲ認メ明治二十一年十月調査委員ヲ置キ故衛生工師「バルトン」主任トシテ設計調査ニ從事シ翌二十二年七月ニ至リ概略ノ設計成リ第一報告書ヲ提出セリ此設計ハ雨水ト汚水トヲ分派排除セントスルノ方法ヲ採レリ爾來本會ニ於テ審議ヲ盡クシ明治二十三年十一月ニ至リ愈々上水改良工事實施ノ爲巨額ノ改良費ヲ要シ同時ニ下水改良ニ充ツルノ餘裕ナキヲ以テ暫ク下水改良調査ヲ延期スルコトニ決定セリ

越テ明治三十二年ニ至リ上水改良工事略竣成ヲ告ケ茲ニ再ヒ下水改良ノ調査ヲ興シ同年五月ヨリ同三十七年三月ニ至リ約五ケ年間ニ於テ實地ノ測量及諸般ノ材料ヲ蒐集シ計畫ニ要スル準備整フ

下水道施設ノ準備調査

於是本會ハ工學博士中島銳治ニ囑託シ設計調査ヲナシム爾來銳意覈査ヲ遂ケ本年三月ニ至リ精密ナル報告書ヲ提出セリ依テ本會ニ於テハ更ニ調査委員ヲ置キ反覆審査ノ末同報告中第一區ニ屬スル汚水ヲ遠ク品海ニ放流セントスルノ設計ハ衛生上遺憾ナキヲ期スル爲第七臺場附近ニ「セブチツクタンク」ヲ設ケ充分沈澱シ干潮時ニ於テ放流スルモノト改メ別冊ノ通議定セリ今ヤ帝都ニ於ケル下水ノ改良ハ衛生上緊急ノ事業ニシテ一日ヲ緩フスヘカラサル時機ニ遭遇セリ冀クハ本設計ヲ速カニ採納アラントヲ

右東京市區改正條例第二條ニヨリ具申候也

明治四十年十二月十六日

東京市區改正委員長 吉原 三郎

内務大臣 原

敬殿

目錄

- 一 東京市下水設計
 - 一 東京市下水道豫算概要
 - 一 東京市下水設計調査報告書
- (註)「東京市下水道設計」ハ後出四十一年四月十一日東京市告示第二八號ニアリ「下水設計調査報告書」ハ前節ニ出テタルモノニ付茲ニ添付セス

東京市下水道豫算概要

一金貳千八百四拾五萬六千七圓

總 工 費

内

金壹千九百貳拾參萬參千六百七拾參圓

第一區 工 費

金貳百四拾四萬七千七百九拾七圓

高 段 工 費

金六百拾九萬壹千八百五拾八圓

中 段 工 費

金參百九拾壹萬九千九百六拾五圓

低 段 工 費

金四百六拾七萬四千五拾參圓

芝浦吐口伏越工費

金貳百萬圓

第七臺場附近「セブチツクタンク」工費

金四百七拾萬參千參百七拾七圓

第二區 工 費

金四百五拾壹萬八千九百六拾壹圓

第三區 工 費

金百五拾萬圓

事 務 所 費

一金貳百八拾四萬六千圓(總工費ニ對スル約一割)

豫 備 費

通計金參千貳百八拾萬圓(萬圓未満切捨)

下水道施設ノ準備調査

下水道布設費

第一區高段工費内譯

二、四四七、七九七^円

材料及工事費

二、一六一、二四一^円

諸色損料及雜費

一〇八、〇六二

土地買收費

一七八、四九四

第一區中段工費内譯

下水道布設費

五、一〇三、〇五七

材料及工事費

四、五二七、六一六

諸色損料及雜費

二二六、三八一

土地買收費

三四九、〇六〇

唧筒場設置費

七八三、八七四

材料及工事費

六〇八、八三二

諸色損料及雜費

三〇、四四二

土地買收費

一四四、六〇〇

附帶工事費

三〇四、九二七

護岸工費

九八、一二八

隧道工費

七〇、六六九

橋梁工費

八、〇一一

雜工費

六八〇

自駒込助坂至三河島村隅田川排水路
自板橋町千川至瀧ノ川排水路
自王子飛鳥山至隅田川排水路

以上三ヶ所分

芝浦ノ分

土工費
諸色損料及雜費
土地買收費

三九、〇九〇
一〇、八二九
七七、五二〇

計

六、一九一、八五八

第一區低段工費内譯

下水道布設費

二、九五八、九九五

材料及工事費

二、七九七、〇〇五

諸色損料及雜費

一三九、八五〇

土地買收費

二二一、一四〇

唧筒場設置費

九六〇、九七〇

材料及工事費

七八七、四九五

諸色損料及雜費

三九、三七五

土地買收費

一三四、一〇〇

錢瓶橋ノ分

計

三、九一九、九六五

第一區芝浦吐口伏越工費内譯

吐口伏越工費

四、六七四、〇五三

材料及工事費

四、四五一、五五三

諸色損料及雜費

二二二、五〇〇

第一區第七臺場附近「セブチックタンク」工費内譯

下水道施設ノ準備調査

セブチツクタ
ンク工費

二、〇〇〇、〇〇〇^円

二二四

材料及工事費
諸色損料及雜費

一、九六五、〇〇〇^円
三五、〇〇〇

下水道布設費

二、五三二、一四五

材料及工事費

二、三三五、三七一

諸色損料及雜費

一一六、七六九
八〇、〇〇五

污水處分工場
設置費

二、一七一、二三二

材料及工事費

一、五六三、〇七八

諸色損料及雜費

七八、一五四
五三〇、〇〇〇

土地買收費

四、七〇三、三七七

三河島ノ分

計

第三區工費内譯

下水道布設費

二、五二八、七二四

材料及工事費

二、一三四、八二三

諸色損料及雜費

一〇六、七四一
二八七、一六〇

污水處分工場
設置費

一、九九〇、〇〇〇

砂村ノ分

計

事務所費内譯

材料及工事費
諸色損料及雜費
土地買收費

四、五一八、九六一

一、五〇四、九八八

七五、二四九

四一〇、〇〇〇

事務所費

一、五〇〇、〇〇〇

俸給及報酬

八〇〇、〇〇〇

旅費賞與手當

三〇〇、〇〇〇

應給雜費

一五〇、〇〇〇

雜給雜費

一五〇、〇〇〇

測量及試驗費

一〇〇、〇〇〇

第二十節 東京市區改正委員會ノ具申ニ關スル閣議事情

四十二年一月十六日內務大臣原敬ハ東京市區改正委員長ノ具申ニ基キ閣議ヲ請求シタリ其辭令左ノ如シ

東京市區改正委員長ヨリ東京市下水道設計ノ件別冊ノ通具申セリ之ヲ審査スルニ排水區劃ヲ三區ニ大別シ合流法ニ依リ雨水ト汚水ヲ同一管渠ニ導キ雨所ハ適所ニ設クル雨水吐ニ據リ河川濠池等ニ排出シ汚水ハ清澄シテ之ヲ第一區ハ品川灣ニ第二區ハ隅田川ニ第三區ハ中川ニ放流セントスルモノニ有之實際工事ニ着手スルニ際シテハ多少設計ノ變更ヲ要スル場合モ可有之右ハ此種ノ工事

閣議提出

下水道施設ノ準備調査

二二五

性質上已ムヲ得サルモノト信スルモ大體ニ於テ適當ノ施設ト認ムルヲ以テ速ニ認可セラレンコトヲ欲ス

右閣議ヲ請フ

明治四十一年一月十六日

内務大臣 原

敬

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

四十一年二月二十八日宮内省ハ本件ニ關スル意見トシテ宮内次官子爵花房義質ノ名ヲ以テ内務次官吉原三郎ニ對シ別紙ノ照會ヲ爲シタリ

甲第七四號

東京市下水道布設ノ件閣議ニ提出相成候旨ヲ以テ御申越ノ趣大體ニ於テ別段意見無之候得共工事實施ニ際シテハ左ノ件ニ付特ニ考慮候様致度候間其筋ヘ豫テ御注意置相成度此段及照會候也

明治四十一年二月二十八日

宮内次官子爵

花房義質

内務次官 吉原三郎殿

一赤坂離宮貫通ノ現在下水ニ對シ疏通ニ勝ヘサル水量ヲ流下スル場合ニ在テハ下水ノ改造ヲ要スルコト

一同下水呑口塵芥及障礙物掃除方ニ就テハ相當ノ方法ヲ設クルヲ要スルコト

下水工事ニ對スル宮内省ノ希望

下水設計内閣認可

一同上下水吐口紀伊國坂電車軌道布設ノ際續足ノ箇所ニ於テ陥落噴違トナリタル部分アリ右ハ本工事實施ノ際改造ヲ要スルコト

一宮城前郭内新道沿ノ下水管布設ノ節ハ内苑寮ヘ打合ヲ要スルコト

一本郷線ニ於テ雨水ノ一部ヲ不忍池ニ放流スルニハ池水ヲ混濁セシメヌ又土砂ノ流入ヲ防止スル爲メ沈澄ノ設備ヲ要スルコト

一同上自然池域内ニ土砂ヲ流入シタルトキハ浚泄ヲ要スルコト

四十一年三月十六日下水道設計ノ件閣議ニ於テ内務大臣請議ノ通決定ノ旨内閣批第三二號ヲ以テ内閣總理大臣侯爵西園寺公望ヨリ内務大臣ニ通知アリ

四十一年三月二十六日内務大臣ハ市參事會ニ對シ下水道設計カ内閣ノ認可ヲ得タルニ付告示スヘキ旨訓令ヲ發セリ左ノ如シ

内務省訓令第二八七號

東京市參事會

東京市下水道設計別冊ノ通内閣ノ認可ヲ得タルニ付東京市區改正條例第二條ニ依リ告示スヘキ右訓令ス

明治四十一年三月二十六日

内務大臣 原

敬

下水道施設ノ準備調査

二二七

第二十一節 東京市下水道設計ノ告示及東京市區改正委員長ノ通牒

四十一年四月十一日東京市參事會ハ内務大臣原敬ノ訓令ニ基キ下水道設計決定ノ告示ヲ爲ス左ノ如シ

下水設計ノ告示

東京市告示第二八號

東京市區改正事業ノ内下水道設計左ノ通り定メラル

但圖面ハ本市役所ニ備置ク

右明治二十一年勅令第六十二號東京市區改正條例第二條ニ據リ告示ス

明治四十一年四月十一日

東京市參事會

東京市長 尾崎行雄

東京市下水道設計

下水ノ排除ハ合流法ニ依リ雨水及汚水ヲ同一ノ管渠ニ導キ雨水ハ適所ニ雨水吐ヲ設ケ河川濠池等ニ放出シ汚水ハ清澄シテ之ヲ品川灣隅田川及中川ニ放流ス

汚水量ハ全市ノ人口ヲ三百萬ト假定シ一人一日平均六立方尺ヲ八時間ニ排泄スルモノトシ雨水量ハ一時間ノ最大降量ヲ一時四分ノ一トセリ但一時間百分ノ一時雨水ハ汚水ト同一ニ之ヲ處分ス

排水區劃ヲ三區ニ分チ各區ニ於ケル面積下水道配布ノ延長及設備等大要左ノ如シ但實際工事ノ情況ニ依リ多少ノ變更ヲ見ルコトアルヘシ

第一區

第一區ハ芝、麻布、赤坂、麴町、四ッ谷、牛込、小石川、本郷、神田、日本橋、京橋ノ十一區及下谷ノ一部ニ亘リ地勢一樣ナラサルヲ以テ排水上更ニ之ヲ高段中段及低段ノ三部ニ分テリ

此區劃内ノ雨水ハ適所ニ設クル雨水吐ニヨリ河川溝渠ニ放流セシメ汚水及百分ノ一時ノ全部ハ之ヲ芝浦ニ集メ更ニ鐵管ニ據リテ第七臺場附近ニ設クル「セブチクタンク」ニ送り充分沈澄シ干潮時ニ於テ放流スルモノトス

高段

區域 麻布、赤坂ノ全部麴町芝四ッ谷ノ一部

面積 凡三百九十一萬九千坪

下水道延長 凡八萬六千間

本區劃ハ土地概ネ高燥ナルカ故ニ雨水ハ全部之ヲ河川溝渠内ニ放流シ得ルノミナラス自然勾配ニヨリ汚水及百分ノ一時雨水ノ全量ヲ優ニ芝浦ニ送り更ニ鑄鐵管ニヨリテ第七臺場附近ニ送致スルコトヲ得ヘシ

麴町ニ起ルモノハ雨水ヲ内濠内ニ放棄シ内濠土手ノ中腹ニ沿フテ設クル下水管ニヨリテ汚水及百分ノ一時雨水ノミヲ集メ櫻田門ニ至リ芝浦ニ達スル本管ニ合ス

四ツ谷、赤坂ヨリ起ルモノハ絞ケ橋谷町ニ布設スル本管ニヨリテ雨水及汚水ノ全部ヲ集合シ赤坂御所内既成排水管ニヨリテ紀ノ國坂ニ出テ溜池ニ至リ溜池排水溝ニ入り沿岸ノ雨水及汚水ヲ集メ虎ノ門ニ出テ芝浦ニ達スル本管ニ會ス但雨水ハ雨水吐ニヨリテ土橋ニ送リ新橋川ニ放流ス

青山方面ヨリ起ルモノハ雨水及汚水ノ全部ヲ集メ古川ニ沿フテ設クル下水管ニヨリ沿岸ノ汚水ヲ集メ芝三ノ橋ニ至リ伏越ヲ以テ古川ヲ横キリ白金ヨリ來ル下水管ニ合ス

白金ヨリ起ルモノハ雨水ノ大部ヲ古川ニ放流シ汚水及百分ノ一時雨水ノ全部ヲ集メ三ノ橋ニ來リ青山線ト合シ三田四國町ニ出テ芝浦ニ達スル本管ニ合ス

三田四國町ヨリ芝浦ニ達スル本管ハ幅十尺深サ六尺七寸ノ馬蹄形管ニシテ勾配二千分ノ一ヲ有シ其汚水及百分ノ一時雨水量ハ實ニ毎秒時一百七十七立方尺ニ及フ下水管ノ洗滌ハ雨水洗滌法ニ據ルト雖モ制水弁ヲ所々ニ裝置シ洩水ノ場合ニ於ケル洗滌ニ備フ

最大ナル下水管ハ芝公園辨天池前ニ布設スル幅十二尺高七尺八寸ノ馬蹄形管ニシテ隧道ハ芝西久保巴町ヨリ芝公園十九號地先ニ達スルモノ及三田四丁目ヨリ同三丁目ニ至ルモノアリ

中段

區域 本郷全部及小石川、牛込、四ツ谷、麴町、神田、芝ノ一部

面積 凡六百十五萬七千坪

下水道延長 凡十五萬五千七百間

本區劃ノ雨水ハ全部之ヲ河川溝渠内ニ放流シ得ルノミナラス自然勾配ニヨリテ汚水及百分ノ一時雨水ノ全量ヲ優ニ芝浦ニ送致スルコトヲ得ヘシ

四ツ谷牛込ヨリ起ルモノハ愛住町ヨリ本村町ヲ經テ市ヶ谷見附ニ至ル在來下水ヲ暗渠ニ改造シ汚水及雨水ヲ集メテ市ヶ谷見附ニ出テ茲ニ雨水ヲ外濠ニ放流シ汚水及百分ノ一時雨水ノミヲ以テ沿路ノ汚水ト共ニ飯田橋附近ニ來リ牛込柳町ヨリ來ル下水管ニ合ス

牛込柳町ヨリ起ルモノハ雨水ノ大部ヲ江戸川ニ放流シ汚水及百分ノ一時雨水ヲ集メテ飯田橋ニ來リ市ヶ谷線ヲ合シ伏越ヲ以テ神田川ヲ涉リ麴町番町線ニ合ス

麴町番町ヨリ起ルモノハ其雨水ヲ外濠ニ棄テ汚水及百分ノ一時雨水ヲ集メテ飯田町ニ出テ牛込四ツ谷ヨリ來ル下水管ヲ合シテ九段坂下ニ出テ轉シテ大藏省角ニ至リ神田ヨリ來ル本管ニ合ス

小石川雜司ヶ谷ヨリ起ルモノハ在來ノ開渠ヲ改修シテ江戸川橋ニ出テ雨水ヲ江戸川ニ放流シ汚水及百分ノ一時雨水ヲ以テ來ル下水管ニ合ス

大塚ヨリ起ルモノハ在來ノ開渠ヲ改修シテ郡部ノ雨水ト沿路ノ汚水及雨水ヲ集メ江戸川橋ニ來リ
 雨水ヲ江戸川ニ棄テ汚水及百分ノ一時雨水ヲ以テ雜司ヶ谷線ヲ合シ沿路ノ汚水ヲ集メテ水道町ヲ
 東ニ牛天神社前ニ至リ砲兵工廠ヲ隧道ヲ以テ富坂ニ出テ千川線ニ合ス
 千川ハ郡部ニ廣大ナル流域ヲ有スルヲ以テ瀧ノ川堰堤上流ヨリ雨水ヲ疏通スルニ足ル可キ新水路
 ヲ設ケ隅田川ニ放流セシメ千川線ハ單ニ鐵道線以南ノ郡部流域及沿路ノ雨水ト汚水トヲ合セ現在
 ノ開渠ヲ混凝土下水溝ニ改修シ富坂ニ來リ水道橋線ヲ合シ汚水及百分ノ一時雨水ノミヲ以テ富坂
 下ニ至リ原町線ニ合シ雨水ハ砲兵工廠内ノ大溝渠ヨリ之ヲ神田川ニ注カシム
 原町線ハ汚水及雨水ノ全部ヲ集メテ丸山福山町ニ至リ在來ノ混凝土下水溝ニ入り田町ニ至リ雨水
 ノ大部ヲ暗渠ニ流下シ別ニ之ト並行スル下水管ヲ布設シテ汚水及百分ノ一時雨水ヲ排除シ富坂下
 ニ至リ千川線ト合シ南進シテ水道橋ニ至リ伏越ヲ以テ神田川ヲ横キリ猿樂町通リヲ東南ニ錦町ニ
 來リ駿河臺ヨリ流出スル雨水ノ大半ヲ錦町三丁目ニ新設スル雨水吐ニヨリテ外濠内ニ棄テ錦町二
 丁目ニ至リ本郷線ト合ス
 本郷線ハ動坂下ニテ隅田川ニ貫通スル大溝渠ヲ新設シテ郡部ヨリ流入スル雨水全部ヲ之ニ放流シ
 現在ノ下水ヲ改築或ハ並行シテ新設スル有蓋混凝土大下水溝ニヨリ沿路ノ汚水及雨水ヲ集メ不忍
 池畔ニ出テ雨水ノ一部ヲ不忍池ニ放流シ本郷臺ヨリ流下スル汚水及雨水ヲ集メテ池ノ端仲町ニ至

不忍池ハ其面積實ニ四萬三千坪ニ餘リ假リニ水位一尺ヲ高ムルトスルモ能ク一百五十五萬立方尺
 餘ノ水量ヲ貯フルコトヲ得ヘシ而シテ大雨ニ際シ池水ノ昂上一尺ニ及フモ沿岸ニ侵害ヲ及ホスコ
 トナク又風致ヲ損スルノ虞ナシ故ニ二ヶ所ノ放水口ヲ作り水位一尺ノ昂上ヲ限度トシテ一部ヲ池
 中ニ貯ヘ大雨去レハ仲町ニ設ケル閘門ヲ開キ水位ヲ平常ニ復セシム
 仲町ニ達スレハ下水本管ハ茲ニ二ニ分レ一ハ仲町ヲ經テ萬世橋ニ達スル大雨水吐ニシテ幅十尺深
 サ七尺五寸ノ馬蹄形管ヲ以テシ雨水ヲ直チニ神田川ニ排出セシメ一ハ汚水及百分ノ一時雨水ノミ
 ヲ以テ分レ切通坂下ニ出テ南ニ三組町同明町ヲ過ギ沿路ノ汚水及百分ノ一時雨水ヲ集メ雨水ハ之
 ヲ廣小路大雨水吐ニ棄テ昌平橋ニ至リ伏越ヲ以テ神田川ノ河底ヲ過ギ淡路町ヲ經テ錦町二丁目ニ
 至リ水道橋線ト會シ南ニ進ミ錦町三丁目ニ至リ伏越ヲ以テ外濠ヲ横キリ近衛騎兵聯隊内ヲ通過シ
 大藏省角ニ達シ牛込線ト合ス

牛込線ト合セシ後ハ大藏省内務省ノ西側ヲ經テ郭内新道路及日比谷公園西側ヲ過ギ新シ橋ヲ涉リ
 沿路ノ汚水及雨水ヲ集メ芝公園ヲ貫通シ芝園橋ニ至リ古川ヲ横キリ芝浦ニ達ス汚水及百分ノ一時
 雨水ノ流量實ニ毎秒時約一百二十立法尺ナリ

芝區内ニ二條ノ支線アリ一ハ芝露月町ヨリ新錢座ヲ經テ金杉橋下ヲ涉リ芝浦ニ至リ他ハ高輪ヨリ
 車町田町ヲ經テ三田四國町ニ至ル共ニ自働開閉弁ヲ備フル雨水吐ニヨリテ干潮時ニハ雨水ヲ品海

ニ放棄シ滿潮時ニハ自ラ閉鎖シテ其逆流ヲ防クノ裝置ヲ爲ス
下水管洗滌法ハ雨水洗滌法ニ據ルト雖モ所々ニ制水弁ヲ裝置シ洄水ノ場合ニ於ケル洗滌ニ便シ尙
ホ芝區内ハ勾配緩ナルヲ以テ自働洗滌槽ヲ備フ

最大ナル下水管ハ千川下流ニ於ケル底幅十三尺深サ六尺ノ開渠芝公園前ヨリ芝園橋ニ至ル底幅十
二尺ノ半圓形管及芝園橋ヨリ芝浦ニ至ル幅十尺深サ六尺七寸ノ馬蹄形管等ニシテ隧道ハ小石川砲
兵工廠内及板橋排水路動坂排水路ニ各一ヶ所アリ汚水及百分ノ一時雨水ノ全量ハ一旦芝浦唧筒場
ニ集メ唧筒力ニヨリテ之ヲ臺場附近ノ沈澱池ニ送致ス芝浦ニ達スル下水本管ノ深サハ靈岸島基點
上一尺八寸ノ所ニ在リトス

芝浦唧筒場ハ總面積凡五千坪ニシテ唧筒室ノ外沈澱槽二箇ヲ設置ス

低段

區域 京橋、日本橋ノ全部及神田、麴町ノ一部並ニ江戸川沿岸

面積 凡二百七十三萬八千坪

下水道延長 凡八萬九千七百間

此區劃ハ土地概シテ平坦ナルヲ以テ下水管ノ布設ニ充分ナル勾配ヲ與フル能ハス故ニ汚物ノ停滯
ヲ避ケンカ爲メ内徑二尺以上ノ下水管ニシテ其勾配ノ五百分ノ一ニ滿タサルモノハ大抵卵形管ヲ

用フ而シテ洗滌ハ特ニ完全ヲ期スル爲メ適所ニ自働洗滌槽ヲ置キ上水ヲ利用シテ其洗滌ヲ計リ尙
各要所ニ制水弁ヲ備フ雨水ノ排除ハ干潮時ニ於テハ之ヲ周圍ノ河川溝渠内ニ放流スルヲ得ヘシト
雖モ滿潮時或ハ大雨時ニ於テハ逆水ノ虞アルヲ以テ雨水吐口ニ自働閉閉弁ヲ備ヘ或ハ中間自働開
閉扉ヲ重用シ且唧筒力ニヨリテ排除ヲ助ク

本區劃内ニ於ケル汚水及百分ノ一時雨水ハ一旦之ヲ錢瓶橋附近ニ設クル唧筒場ニ集メ之ヲ揚水シ
テ櫻田門外高段下水本管ニ送り高段ノ汚水ト共ニ芝浦ニ達セシム牛込小石川ヨリ起ルモノハ各江
戸川ニ沿ヒ本管ヲ布設シ雨水ヲ江戸川ニ棄テ汚水及百分ノ一時雨水ノミヲ集メ船河原橋附近ニ至
リ伏越ヲ以テ江戸川及神田川ヲ横キリ飯田河岸ヨリ新堀河岸ニ出テ粗橋附近ニ來リ新堀ヲ涉リ神
田三崎町線ト合ス

神田三崎町線ハ三崎町三丁目ニ起リ粗橋附近ニ來リ飯田町線ヲ合セ沿路ノ汚水及百分ノ一時雨水
ヲ集メ雨水ヲ外濠ニ放流シ外濠ニ沿フテ設クル本管ニヨリテ神田橋ニ出テ進ンテ龍閑橋ニ至リ神
田今川橋線ト合ス

神田美土代町ノ東部外濠龍閑川濱町川及神田川ヲ以テ限ラレタル一區域ハ已ニ改良セル下水アリ
内部ノ設備ハ一ニ補修ヲ加フルニ止マリ之ヲ改造スルノ必要ナシト雖モ汚水及雨水ヲ全部周圍ノ
河川ニ放流セルヲ以テ衛生上危害ノ虞アリ故ニ雨水ハ在來ノ如ク放流スト雖モ汚水及百分ノ一時

雨水ヲ集ムルノ目的ヲ以テ更ニ岩本町ヨリ市區改正道路ヲ經テ九道橋ニ至ル下水管及其兵衛橋ヨリ龍閑川ニ沿フテ今川橋ヲ經龍閑橋ニ至ル下水管ヲ布設シ神田橋ヨリ來ル本管ト合シ常盤橋下手ニ至リ日本橋區新材木町ヨリ伊勢町瀬戸物町室町ヲ經テ日本銀行側ニ至ル一支線ヲ合セ伏越ヲ以テ錢瓶橋附近ノ唧筒場ニ入ル

銀座方面ヨリ起ル者ハ南紺屋町ニ於テ數寄屋橋線及紀伊國橋線ト合シ雨水ヲ外濠及周圍河川ニ放流シ比丘尼橋ヲ涉リ沿路ノ汚水及百分ノ一時雨水ヲ集メ外濠ニ沿ヒ吳服橋ニ至リ海運橋線ニ合ス築地方面ヨリ起ルモノハ沿道ノ汚水及百分ノ一時雨水ヲ集メ雨水ハ之ヲ周圍ノ河川ニ棄テ數條ノ支線ヲ以テ新富町ニ會シ京橋川ヲ涉リ八丁堀町ヲ經テ松屋町一丁目ニ來リ靈岸島線ト合ス

靈岸島線ハ靈岸島濱町ニ起リ同銀町一丁目東湊町等ヲ經テ龜島橋ニ至リ八丁堀水谷町岡崎町一丁目ヲ經テ松屋町一丁目ニ來リ築地線ト合シ阪本町ニ至ル

兩國方面及濱町ヨリ走ルモノハ雨水ヲ隅田川濱町川等ニ棄テ汚水及百分ノ一時雨水ヲ以テ蠣濱橋畔ニ會シ伏越ヲ以テ濱町川ヲ横キリ沿路ノ汚水及百分ノ一時雨水ヲ集メ雨水ヲ周圍ノ河川ニ放流シ蠣殼町一丁目二丁目及小網町ヲ經テ鐵橋ニ來リ日本橋川ヲ涉リ兜町ヲ過キ阪本町ニ至リ築地及靈岸島線ト合ス

兩國線築地靈岸島線ト合セルモノハ阪本町ニ至リ伏越ヲ以テ楓川ヲ横キリ本材木町ニ出テ佐内町ニ至リ鈴木町箱屋町ヲ經テ來ル一支線ヲ合セ吳服橋ニ進ミ銀座線ト會流シテ一石橋畔ニ出テ伏越

ヲ以テ錢瓶橋附近ノ唧筒場ニ入ル

麴町區ニ於テ二條ノ支線アリ一ハ内幸町ヨリ内山下町有樂町八重洲町永樂町ヲ經テ唧筒場ニ入り

一ハ大手町ヨリ錢瓶橋ヲ經テ直チニ唧筒場ニ至ル

本區劃内ハ雨水ノ大半ヲ周圍ノ河川溝渠ニ放流シ得ルノミナラス數條ニ分レテ唧筒場ニ入ルヲ以テ大ナル下水管ナク即チ四尺ト六尺ノ卵形管及内徑五尺ノ圓形管ヲ最大トス而シテ管底ノ最深キハ吳服橋線ニシテ唧筒場ニ於テ靈岸島基點下三尺五寸ノ深サニアリ

錢瓶橋附近ノ唧筒場ハ單ニ汚水及少許ノ雨水ヲ揚水スルニ止マリ其面積ハ凡四千五百坪ニシテ唧筒室及沈澱槽ヲ設置ス

前段唧筒場ヨリ出ツル汚水及百分ノ一時雨水ノ全量ハ之ヲ櫻田門外高段下水本管ニ送致スル爲メ内徑四尺ノ鑄鐵管一條ヲ唧筒場ヨリ永樂町和田倉門外馬場先門外及日比谷公園有樂門ヲ經テ櫻田門外ニ達スル街路ニ布設ス

芝浦吐口伏越及第七臺場附近「セブチツクタンク」

芝浦吐口伏越ハ高段及低段ニ屬スル者三條中段ニ屬スル者二條ヲ合セテ五條ニシテ凡ソ内徑五尺ノ鑄鐵管ヲ用フ本工事ノ構造ハ杭地形ノ上ニ鐵管ヲ布設シ混凝土ヲ以テ之ヲ包被スヘシ而シテ其管底ハ築港設計運河ノ底部ニ在ルモノハ靈岸島基點下三十尺ニ隅田川ハ同二十尺ニ其他ハ同十尺

ニ之ヲ布設スルモノトス第七臺場附近ノ「セブチツクタンク」ハ總面積凡十萬坪ニシテ周圍ニ堤防ヲ築クモノトス

第二區

區域 淺草ノ全部及下谷神田ノ一部

面積 凡二百一萬八千坪

下水道延長 凡六萬四千二百間

此區劃ハ概シテ卑濕ヲ極メ現在ノ溝渠ハ其勾配緩ニシテ雨水及汚水ヲ排除スルニ足ラサルノミナラス洪水時ニ於ケル隅田川ノ水位ハ遙ニ昂上シ其疏通ヲ妨クルヲ以テ汚水ハ雨水ト共ニ地上ニ汎濫シ衛生上ノ危害甚シ殊ニ下谷ハ藍染川ノ下流ニ在リテ郡部及本郷上野ノ雨水ヲ漲溢シ其被害又尠シトセス是ヲ以テ不忍池畔ヨリ萬世橋ニ至ル間ニ内徑十尺ニ餘ル下水管ヲ布設シ藍染川及本郷臺ヨリ來ル雨水ヲ神田川ニ流出セシメ更ニ上野山下ヨリ和泉橋ニ達スル間ニ内徑八尺ノ半圓形管ヲ設ケ上野山内ノ雨水ヲ神田川ニ排出セシム

本區劃ノ雨水及汚水ハ下谷二長町ヨリ鳥越町三筋町入谷町龍泉寺町等ヲ經テ三河島村汚水處分工場ニ達スル本管ヲ中心トシテ布設スヘキ大小幾多ノ下水管ニ據リ排除シ凡テ暗渠ヲ用フ但雨水ハ上野山下ヨリ和泉橋ニ至ル雨水吐ノ外干潮時ニ於テ淺草藏前ヨリ隅田川ニ達スル雨水吐及吉原附

近ヨリ山谷堀ニ達スル雨水吐等ニヨリ之ヲ隅田川ニ放流シ洪水時及滿潮時ニ於テ自動開閉弁ニヨリ逆流ヲ防キ雨水ノ全部ヲ三河島村工場ニ送り同所ニ備フル唧筒機ニヨリ之ヲ隅田川ニ排出セシム本區劃ノ下水管中其勾配ノ充分ナラサルモノハ凡テ卵形管ヲ使用シ汚物ノ停滯ヲ防キ尙ホ自動洗滌槽及制水弁等ヲ適所ニ裝置シテ洗滌ヲ便ニス
最大ナル下水管ハ光月町ヨリ龍泉寺町三ノ輪ヲ經テ三河島ニ達スル勾配二千分ノ一幅十尺深サ七尺五寸ヲ有スル馬蹄形狀幹線ニシテ三河島村工場ニ至リ其管底ハ靈岸島基點下七尺八寸三分ノ深サニ在リ

本區劃ノ汚水ハ三河島村ニ設クル汚水處分工場ニ集メ唧筒機ニヨリテ揚水シ「セブチツクタンク」及濾過池ヲ通過シ衛生上危害ナキニ至ラシメ之ヲ隅田川ニ放流ス
三河島汚水處分工場ハ其面積凡五萬三千坪ニシテ唧筒場沈澱槽「セブチツクタンク」及濾過池ヲ備フ

第三區

區域 本所深川ノ全部

面積 凡二百六十八萬一千坪

下水道延長 凡五萬八千五百間

下水道施設ノ準備調査

本區劃ハ土地甚卑濕ニシテ其ノ一部ヲ除クノ外ハ全ク雨水及汚水ヲ排除スルコト能ハス大小ノ溝渠勾配甚タ緩ナルノミナラス潮汐ノ干満ニヨリテ其疏通ヲ阻碍セラレ汚水及汚物ノ大部ハ途上停滯シ一旦降雨アレハ雨水ト共ニ汎濫シ衛生上ノ危害甚シ故ニ汚水ト共ニ雨水ヲ排除スルノ必要アリ雨水ハ適所ニ設クル雨水吐ニヨリテ干潮時ニ於テ其一部ヲ河中ニ放流シ滿潮時ニ於テハ自働開閉弁ニヨリテ自ラ遮斷シ雨水及汚水ヲ砂村ニ設クル汚水處分工場ニ集メ唧筒機ニヨリテ之ヲ中川ニ放流ス但汚水ハ「セブチツクタンク」及濾過池ヲ通過スルコト第二區ニ同シ

本區劃ハ排水上ノ便宜ヨリ更ニ之ヲ六區ニ分テリ

第一ハ隅田川暨川大横川ヲ以テ限ラル、一區域ニシテ中ノ郷元町ヨリ松倉町横川町三笠町長崎町ヲ經テ入江町ニ至ルモノ及相生町ヨリ綠町ヲ經テ入江町ニ至ルモノヲ幹線トシ雨水及汚水ヲ集メテ花町ニ至リ伏越ヲ以テ大横川ヲ涉リ第二ニ入ル

第二ハ大横川暨川横十間川及北十間川ヲ以テ限ラル、一區域ニシテ中ノ郷業平町ヨリ大平町ヲ經テ柳原町ニ至ル幹線ヲ中心トシ大小ノ支線ヲ布設シ其雨水及汚水ヲ集メ柳原町一丁目ニ至リ第一ヨリ來ル幹線ト合シ伏越ヲ以テ暨川ヲ横キリ第六ニ入ル

第三ハ暨川大横川小名木川及隅田川ニ圍繞セラル、一區域ニシテ幹線ヲ西六軒堀町ヨリ東西森下町ヲ經テ東元町ニ至リ富川町ニ向フモノ及徳右衛門町ヨリ菊川町西町ヲ經テ富川町ニ至ルモノヲ

合シテ小名木川ヲ涉リ第五ニ至ル

第四ハ二十間川及隅田川ヲ界トシ越中島町ヲ含ム一區域ニシテ福島橋ヨリ黒江町ヲ經テ黒龜橋ニ至ルモノ及富岡門前東仲町ヨリ富岡前仲町ヲ經テ黒龜橋ニ向フモノヲ幹線トシ合シテ海邊橋ニ至リ伏越ヲ以テ二十間川ヲ横キリ第五ニ入ル

第五ハ小名木川大横川及二十間川ヲ以テ圍マル、一區域ニシテ第四ヨリ來ル幹線ハ海邊橋ヨリ靈岸寺前ニ至リ一轉シテ元加賀町ニ入り茲ニ第三ヨリ來ルモノ及龜久町ヨリ西永町ヲ經テ來ル一支線ヲ合セ扇橋町一丁目ニ至リ大横川ヲ横キリ第六ニ達ス

第六ハ大横川暨川十間川及二十間川ニ接スル一區域ニシテ柳原町ニ於テ暨川ヲ横キル第二ノ幹線ハ進ンテ猿江町ニ至リ小名木川ヲ涉リ石島町ニ於テ第五ノ幹線ト合シ千田町ヲ經テ横十間川ヲ過キ砂村汚水處分工場ニ向フ其勾配二千分ノ一ニシテ幅十二尺深サ七尺八寸ノ馬蹄形管ヲ用ヒ砂村ニ於ケル管底ハ靈岸島基點下八尺五寸ニシテ地表ヨリノ深サ約十三四尺ノ處ニ在リ

本區劃ニ於ケル洗滌裝置等ハ第二區ニ於ケルモノト大差ナシ而シテ道路狹隘ナルヲ以テ之ヲ擴築シ或ハ新設ヲ要スルモノ數ヶ所ニ及フ砂村汚水處分工場ノ面積ハ凡四萬一千坪ニシテ唧筒場沈澱槽「セブチツクタンク」及濾過池ヲ備フ

(註)

中島博士設計報告書中第一區ニ於テ芝浦吐口伏越工事ハ將來必要ニ應ジテ之ヲ延

下水道施設ノ準備調査

長スルカ或ハ沈澱地ヲ設ケルコトアルヘシトアルヲ市區改正委員會ニ於テ第七砲臺附近ニ總面積十萬坪ノ「セブチツクタンク」ヲ設置スルコトニ議定シ之ニ變更セラレタル也

四十一年四月十三日東京市參事會ハ市區改正委員長ヨリ下水道實施ノ注意事項ニ關スル通牒ヲ接受ス左ノ如シ

甲第一〇號

今般東京市下水道設計ノ件内閣ノ認可ヲ得テ貴市ヘ告示方訓令相成候趣内務次官ヨリ通牒有之候處右ハ實施ニ當リテハ左記ノ事項ニ付相當御注意相成度此段及通牒候也

明治四十一年四月十三日

東京市區改正委員長

東京市參事會市長殿

記

- 一、第三區本所深川ノ低地ハ洪水防禦ノ爲メ堤防ヲ圍繞スルカ又ハ適所ニ閘門ヲ設ケル事
- 二、三河島村砂村兩所ニ設ケル「セブチツクタンク」及濾過池等ノ構造ハ衛生上遺憾ナカラシメ又其渣滓處分ノ方法ヲ調査スルコト
- 三、錢瓶橋附近ニ設ケル唧筒場ハ他ニ比較ノ調査ヲ試ムル事
- 四、錢瓶橋ヨリ櫻田門外ヘ至ル送水管其他河海伏越等ノ箇所ニ敷設スヘキ鐵管ハ汚水通過ノ爲メ

腐蝕ノ虞アリ其修繕方法ヲ調査スル事

- 五、下水道ハ電信電話電燈電力ノ地下線路及瓦斯管水道管等ノ其上部ヲ交叉敷設シ得ル爲メ成ルヘク地下約五尺以上ニ埋設セシムル事

六、可成開渠ヲ設ケサル事

- 七、將來電氣鐵道敷設ノ見込アル道路ニ埋設スヘキ下水道ハ其上部ニ並行又ハ交叉シ軌道ヲ敷設スルモ支障ナカラシムル事

八、各戸ヨリ公共下水道ニ達スル線路ニ付テハ其工費ハ個人ノ負擔ニ屬スルモ市ニテ設計施行スル事

九、下水竣工後ノ維持方法及費用等ヲ豫メ調査スル事

- 十、赤坂離宮貫通ノ現在下水ニ對シ疏通ニ耐ヘサル水量ヲ流下スル場合ニ在リテハ下水ノ改造ヲ要スル事

十一、同下水道呑口ニ於ケル塵芥及障礙物掃除方ニ就テハ相當ノ方法ヲ設ケル事

- 十二、同下水吐口(紀伊國坂電車軌道布設ノ際繼足ノ箇所)ニ於テ陷落喰違トナリタル部分ハ本工事實施ノ際改造ヲ要スル事

十三、宮城前郭内新道ヘ下水管敷設ノ節ハ内苑寮ヘ打合セラ要スル事

下水道施設ノ準備調査

下水實施
注意事項
付市區
改正委員
長通牒

十四、本郷線ニ於テ雨水ノ一部ヲ不忍池ニ放流スルニハ池水ヲ混濁セシメヌ又土砂ノ流入ヲ防止スル爲メ沈澄ノ設備ヲ要スル事

十五、前項雨水放流ノ爲メ池域内ニ土砂ヲ流入シタルトキハ浚渫ヲ要スルコト以上

第二十二節 東京市會下水道設計及財源ノ調査委員事務及工費國庫補

助ニ關スル建議並下水道施設調査委員會ノ設置

四十二年五月十一日東京市會ニ於テ下水設計及財源ノ調査委員ハ其第一回意見報告ヲ爲セリ曰ク委員ハ集會審議ノ末別紙意見書ヲ其筋ニ提出スルコトニ議決セリ其理由ハ口頭ヲ以テ陳述スヘシ右及報告候也

明治四十二年五月一日

調査委員

- | | |
|-------|-------|
| 青木庄太郎 | 松下善太郎 |
| 坪谷善四郎 | 大岡育造 |
| 杉原榮三郎 | 内山平三郎 |
| 荒木重治 | 岩崎一 |

- | | |
|-------|------|
| 武智直道 | 伊東靖 |
| 今井喜八 | 東郷守節 |
| 武藤末次郎 | 秋虎太郎 |
| 野々山幸吉 | |

東京市會議長 中澤彦 吉殿

(別紙)

東京市區改正委員會ハ東京市區改正事業ノ追加トシテ本市下水ノ設計ヲ定メ之ヲ前内閣閣下ニ具申シ審査ノ末前内閣ノ認可ヲ受ケ本市參事會ニ移牒セラレ本市參事會ハ明治四十一年四月十一日ヲ以テ一般市民ニ公示セリ抑モ本下水タルヤ該工事費ノ豫算概要ハ實ニ金參千有餘萬圓ノ多額ヲ要ス故ニ東京市區改正委員會ニ於テモ此財源ニ關シテハ特ニ慎重ナル調査ヲ遂ケラレタルコトハ左ニ決議ノ一部ヲ見ルモ明瞭ニシテ且ツ尤モ至當ノ決議タルヲ信ス

(前略)東京市ニ於テハ將來諸般事業ノ經營ヲ要スルモノ多ク獨リ下水改良事業ニ其ノ全部ヲ舉ゲテ投シ難キ趨勢ナルヲ以テ現在負擔ノ幾分ヲ増加スルコト、シ市區改正特別稅中新ニ下水稅ヲ起シ土地ノ賃賃價格ヲ標準トシテ徵收スルノ外左記ノ財源ニ依リテ事業ヲ進行シ必要ノ場合ハ公債ヲ募集シテ其費途ニ充テ之等ノ財源ヨリ漸次償還スルノ方法ヲ採ルヲ相當ト認ム而シテ之カ實施

ニ付テハ東京市區改正條例中改正ヲ要スルハ勿論トス

(一) 國庫ノ補助ハ帝國ノ首府ナルヲ以テ特ニ其ノ半額ヲ要求スルコト

(二) 市區改正所屬河岸地ハ其地料ヲ増徴スルカ若クハ之ヲ賣却スルコト

(三) 上水使用料ハ現在率ニ二割ヲ増加シ其總收入ヨリ事業公債償還基金及水道擴張工費ヲ差引

其殘額ヲ繰入ル、コト

以上財源ノ外汚物ノ處分ニ依ル益金雜收入トシ市民ノ負擔ヲ輕減スルコト

而シテ近時本市ノ經營ニ屬スヘキ事業日ニ月ニ増加シ從テ市民ノ負擔益重キヲ加フルノ秋ニ際シ

參千有餘萬圓ノ經費ヲ要スル下水建造事業ノ如キ少クモ其工費ノ半額ハ國庫ノ補助ニ依ラサルヘ

カラス故ニ本市ハ一日モ速カニ之カ決定ヲ俟テ出來得ル限リ其財源ヲ求メントコトヲ欲スト雖モ如

何セン先決問題トシテ補助額ノ決定ナクンハ之カ調査ノ歩ヲ進ムルヲ得ス冀クハ政府ハ速カニ特

別ノ詮議ヲ遂ケ下水工費半額補助ノ御決定アランコトヲ切望ス右本市會ノ決議ヲ以テ市制第三十

三條ニ依リ茲ニ意見書及提出候也

明治四十二年 月 日

東京市會議長名

內務大臣宛

右案ハ當日議論區々議決ハ延期トナル

四十二年六月二十一日東京市會ニ於テ前項建議案再ヒ附議セラル然レトモ委員長缺席ノ爲野々山委

員ノ發議ニヨリ次回ニ延期セラル

同日東京市下水道施設調査委員會規程(第二十三章ニ出ツ)案及會費ニ關スル豫算案(略之)ハ議長指

名ニヨル七名ノ調査委員ニ附托スルニ決ス調査委員左ノ如シ

- | | |
|--------|--------|
| 大貫 傳兵衛 | 升本 喜兵衛 |
| 荒木 重治 | 古川 孝七 |
| 木村 銀次郎 | 武藤 末次郎 |
| 秋 虎太郎 | |

修正意見
書可決

四十二年九月十三日東京市會ハ本年五月一日下水設計及財源ニ關スル調査委員提出第一回意見報告
ヲ修正シ七月六日ヲ以テ更ニ提出セル左記意見書案及下水道施設調査委員會規程案ノ調査報告ニヨ
リ之ヲ可決確定ス

委員秋虎太郎ハ委員長ニ代リ委員會ハ既ニ下水設計ニ關シ常設ノ委員成立セルヲ以テ一先ツ本委員
會ノ責任ハ之ヲ解除スルコトニ委員ニ於テ申合ヲナシタリト報告シ異議ナク之ヲ是認シタリ

意見書

下水道施設ノ準備調査

東京市區改正委員會ハ東京市區改正事業ノ追加トシテ本市下水道ノ設計ヲ定メ是ヲ前内閣閣下ニ具申シ審査ノ末前内閣ノ認可ヲ受ケ本市參事會ニ移牒セラレ本市參事會ハ明治四十一年四月十一日ヲ以テ一般市民ニ公示セリ抑モ本下水道工費約參千四百萬圓ノ多額ヲ要スル一大事業ニシテ近時本市經營スヘキ事業日ニ月ニ増加シ從テ市民ノ負擔益重キヲ加フルノ時ニ際シ參千四百萬圓ノ經費ヲ要スル下水道築造事業ハ市區改正委員會決定ノ如ク該工費ノ半額ハ國庫補助ニヨリ遂行スヘキモノト信ス故ニ本市會ハ一日モ速カニ半額補助ノ御決定アルヲ俟テ出來得ル限リ更ニ半額ノ財源ヲ求メ此事業ヲ遂行センコトヲ欲ス冀クハ政府ハ特別ノ詮議ヲ遂ケラレ本市下水道工費半額補助ノ御決裁アランコトヲ切望ス

右本市會ノ決議ヲ以テ市制第三十三條ニ依リ茲ニ意見書及提出候也

明治四十二年 月 日

東京市會議長名

内務大臣宛

右ハ直チニ其筋ニ提出セラレ

(註) 當日議定セル下水道施設調査委員會規程ヲ掲ク
(第八十七號議案)

下水道施設調査委員會規程

第一條 下水道施設調査委員ハ本市下水道ノ設計施設ニ關スル諸般ノ調査ヲ爲スモノトス

第二條 委員會ハ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス

委員長	一	名
市參事會員	二	名
市會議員	四	名

第三條 特別ノ學識經驗ヲ有スル者ヲ以テ顧問ト爲スコトヲ得

第四條 委員長ハ會務ヲ掌リ議事ヲ整理ス

第二十三節 東京市下水道第一期工事着手ニ關シ東京市參事會ト

東京市區改正委員長トノ照復

四十二年十月五日市參事會ハ東京市區改正委員長ニ對シ左記ノ照會ヲ發ス

下水道工事施行方ニ關シ照會

市區改正設計ニ係ル本市下水道工事ノ施行方ハ貴會ノ御議定ニ依リ本市ノ經營ニ屬スルモノニシテ本事業ノ極メテ緊急ヲ要スルハ勿論ノ義ニ有之候得共一時ニ多大ナル工費ハ支辨ノ途無之ニ付先以テ該設計中金額凡五百萬圓内外ヲ目途トシ第一期工事ノ實施ヲ計リ度是カ財源ハ目下調査中ニ有之候就テハ適當ナル財源確定セハ何時ニテモ施行ノ義御承認相成候哉御意見承知致度此段及

下水道施設ノ準備調査

照會候也

明治四十二年十月五日

東京市參事會

東京市長

一木喜徳郎殿

尾崎

行雄

東京市區改正委員長

右ニ對シ左ノ回答アリ

甲第二七號

東京市下水道工事一部施行ノ件ニ付臨經發第一三九八號ヲ以テ照會相成候處右財源確定ノ上ハ事業施行之義本會ニ於テ議定可致此段及回答候也

明治四十二年十一月十八日

東京市區改正委員長

一木喜徳郎

東京市參事會

東京市長

尾崎

行雄殿

第二十四節

東京市下水道施設調査委員會第一回乃至第三回會議

四十二年十月二十一日東京市會ハ下水道施設調査委員會規程ニヨリ市會議員中ヨリ四名ノ調査委員ヲ選舉セリ左ノ如シ

伊藤 定七

荒木 重治

坂入 宗兵衛

和田 屯

委員長

中鉢 美明

委員

福田 又一

大岡 育造

第二回

四十二年十一月八日東京市下水道施設調査委員會第一回開議
中鉢委員長伊藤荒木福田大岡和田坂入ノ各委員原田日下部角田山縣山岡ノ各番外出席處務細則ヲ定メ及ヒ五名ノ顧問ヲ置クコトヲ可決シタリ處務細則左ノ如シ

下水道施設調査委員會處務細則

第一條 委員會ハ會議ノ必要アル毎ニ委員長之ヲ召集ス

第二條 會議ハ相談會ノ體ヲ用フ意見ヲ異ニスルモノアルトキハ出席員ノ過半數ヲ以テ決シ可否

同數ナルトキハ委員長ノ決スル所ニ依ル

第三條 顧問ハ委員會ニ列シ可否ノ數ニ加ハルモノトス

下水道施設ノ準備調査

第四條 委員會ニ幹事及書記ヲ置キ市吏員ヲ以テ之ニ充ツ尙必要アルトキハ市吏員ニ委員會ノ事務取扱ヲ命スルコトアルヘシ

第五條 幹事ハ委員長ノ命ヲ受ケ會務ヲ處理シ書記ハ庶務ニ從事ス

(註) 一、下水道施設委員會ノ議定ニヨリ顧問ヲ囑託スル事左ノ如シ

- 工學博士 近藤虎五郎
- 土岐嘉平
- 醫學博士 中島銳治
- 工學博士 緒方正規
- 同 五十嵐秀助

二、施設調査委員和田屯ハ死亡(四十三年一月十七日)ニヨリ同三月五日野々山幸吉代ヲ當選シタルモ直チニ辭任市原求代ル

第二回

四十二年十二月二十二日東京市下水道施設調査委員會第二回開議中幹委員長近藤荒木福田土岐和田緒方坂入中島五十嵐ノ各委員顧問原田日下部角田南部山縣山岡ノ各番外出席下水道設計實施ニ當リ注意ノ件ヲ議題トシ審議ノ未全設計ニ亘リ調査方法ヲ具體的ナラシムル爲主査員七名ヲ舉クルコトヲ議決シタリ右主査員トシテ當リタルモノ左ノ如シ(一名欠員)

- 大岡育造
- 和田屯
- 五十嵐秀助
- 中島銳治
- 緒方正規
- 近藤虎五郎

第三回

四十三年四月十九日東京市下水道施設調査委員會第三回開議アリ近藤荒木土岐緒方坂入中島五十嵐伊藤市原ノ各委員顧問原田日下部南部山縣山岡各番外出席市參事會ニ對シ下水道築造ニ關スル調査機關設置ノ建議案ヲ提出スルコトニ決セリ建議案左ノ如シ

建議案

本市下水道ノ築造ハ最モ急施ヲ要スル事項ナリ依テ市參事會ハ本委員會議事ノ進行ヲ計ル爲速カニ相當ノ調査機關ヲ設ケラレンコトヲ望ム

明治四十三年 月 日

下水道施設委員會
委員長

東京市參事會

東京市長 尾崎 行 雄殿

委員 顧問

(連署)

參考トシテ曩キニ臨時市區改正局長ヨリ市長ニ提出シタル下水實施ノ意見書ヲ添付ス

(註) 本案ハ同月二十一日提出セラレ

第二十五節 東京市改良下水道施設準備委員設置並其第一回第二回會議

及下水道施設調査委員會第四回會議ノ事績

四十三年五月十一日東京市參事會ハ下水道施設調査委員會ノ建議ニ基キ市ニ改良下水道施設準備委員ヲ設置ス

設置規程及委員氏名ハ左ノ如シ

下水道施設準備委員設置

改良下水道施設準備設置規程

第一條 改良下水道施設準備ノ爲委員ヲ設置ス

第二條 會員ハ委員長一名委員若干名ヲ以テ組織シ市吏員及囑托員中ヨリ市長之ヲ命ス

第三條 委員長ハ委員ヲ統督シ委員ハ事務ヲ分掌ス

第四條 委員ニ屬スル庶務ハ道路課員ヲシテ之ニ從事セシム

改良下水道施設準備委員

- | | | |
|-----|--------|--------|
| 委員長 | 田川 大吉郎 | 遠山 椿吉 |
| 委員 | 南部 常次郎 | 小川 榮次郎 |
| | 米元 晉一 | 大口 章次 |
| | 山縣 鐵藏 | |
| | 南部 光臣 | |

下水道施設準備委員會第一回

四十三年五月十五日午後三時ヨリ第三部長室ニ於テ第一回改良下水道施設準備委員會ヲ開ク田川委員長日下部技師長各委員等出席

田川委員長先ツ本委員會ハ下水實施ニ付テ政府ノ補助ヲ受クル爲ニ本市カ爲スヘキ多クノ準備ヲ極メテ短キ期間内ニ調査スルノ責任ヲ有スルカ故ニ委員諸氏ノ全力ヲ盡サレンコトヲ望ム旨ヲ告ケテテ山縣委員ヨリ下水調査ニ關スル大體ノ經過報告アリタル後委員長ハ告示設計中最モ完全ニシテ市區改正委員會注意事項ニ適合シ更ニ調査ヲ要スヘキ點ナク且ツ比較的急施ノ必要アル第二區即チ淺草下谷神田ヨリ着手スルノ可否ニ付委員ノ意見ヲ徵シタルニ南部(光臣)委員ハ熱心ニ第二區着手ノ

下水道施設ノ準備調査

二五五

必要ヲ説キ遠山米元兩委員又此ニ賛シ結局滿場一致ヲ以テ第二區着手ノ件ヲ可決シ進テ此方針ニ基キ國庫補助ヲ求ムルノ豫備材料ヲ調査スルコトニ決シ技術上ノ調査ハ南部米元小川大口ノ四委員ヲ主査トシ財源ニ關スル課查ハ委員長及南部(光臣)山縣ノ兩委員主トシテ之ニ當ルコト、シ尙國庫補助申請ト法規經費トノ關係出願手續及其要件等ニ就キ協議ノ末財源ニ關スル諸種ノ打合アリテ午後七時半散會セリ

四十三年五月十八日東京市下水道施設調査委員會第四回ヲ開ク

近藤荒木福田土岐緒方坂入中島ノ各委員顧問及田川日下部南部(常)南部(光)米元山縣各番外出席福田委員先ツ幹事山岡技師辭職ニ付米元技師之ニ代リタルコトヲ報ス次テ田川助役ヨリ本會ノ建議ニヨル下水道施設準備委員會組織セラレ市會ニ於テハ既ニ豫算議定セラレタルコト及其第一回會議ノ經過(第二區ヨリ着手ノ件)ヲ報告シテ之ヲ諮ル荒木委員ハ之ニ賛ス中島顧問ヨリ第二區ハ比較的下水モ數多アリ而シテ本所深川等ハ種々附帶工事アリ未タ十分ノ調査ヲナスノ餘地ナク第一區日本橋京橋ノ如キハ着手容易ナラス内務省等ヨリ種々ノ希望事項アリ第二區工事ヲ爲シツ、アル間ニ第一區ノ附帶工事ノ研究ヲナシ得テ財政上及工事上好都合ナリト説明シ緒方顧問之ニ賛シ近藤土岐兩顧問又之ニ同シ議之ニ決ス

四十二年五月二十六日午後三時技師長室ニ於テ第二回改良下水道施設準備委員會ヲ開ク委員長各委

下水施設調査委員會第四回

下水施設準備委員會第二回

員及日下部技師長出席第二區工費豫算ニ關スル件ヲ議定ス即チ左ノ如シ

田川委員長先ツ今回委員會ニ於テハ前回委員會ノ議事ヲ繼續シ其未タ決議ニ至ラザリシ事項及其他下水道實施ニ關スル諸般ノ事項ニ就テ協議スヘキ旨ヲ述ヘ前回ニ於テ各委員ニ附託シタル各調査事項ノ調査報告ヲ求ム

調査報告左ノ如シ

- 一 東京市下水道第二區工費豫算(米元委員提出) 別冊
- 一 第二區下水道事務所費豫算(南部(常)委員提出) 別冊
- 一 東京市下水事業費歳入出豫算書(山縣委員提出) 別冊

附

一 市區改正特別稅賦課額調

一 各市負擔比較表

最初ニ工費豫算ニ關シ米元委員ノ説明アリ大體ニ於テ異議ナク只取付費用ニ關シ下水道法第三條及同施行規則第二條ノ解釋ニ付議論アリシモ其費用ハ總テ市ノ負擔ニアラストシテ工費豫算原案可決ス

次ニ事務所費豫算ニ關シ南部(常)委員ノ説明アリ之ニ就テ南部(光)山縣兩委員ノ精密ナル研究アリ協議ノ結果原案ヲ可トシ事務所費豫算原案通可決ス

下水道施設ノ準備調査

次テ歳入出豫算ニ關シ山縣委員ノ説明アリ歳入ニ付テ總經費豫算額ノ二分ノ一ハ國庫ノ補助ヲ仰クコトニ決ス

殘額ニ就テ之ヲ特別稅及河岸地貸渡料ノ收入ニヨルノ案ニ關シ田川委員長市ノ他ノ事業トノ關係上之カ市會ニ於テ容レラレサルヘキヲ難シ日下部技師長又此ニ同ス茲ニ於テ田川委員長殘額ハ總テ公債ニヨルコト、シ其償還方法及財源ハ特別稅及下水稅ニ俟ツノ方策ヲ提出ス日下部技師長及南部

(光)委員之ニ賛成シ山縣委員又之ニ對シ異議ヲ挾マス即チ經費ノ殘額ハ公債ニヨルニ決ス
歲出年度割ニ關シ四十六年工費ノ過大ナルニ付南部(光)委員異議ヲ唱ヘ協議ノ末其幾分ヲ次年度ニ繰延ヘ其他豫備費等幾分更正スルコト、シ歲出年度割原案修正可決ス豫算編成法ニ關シ南部(常)委員山縣委員ノ間ニ事業上及理論上ノ關係ヨリ反覆議論アリシモ協議ノ末工費事務費豫備費ヲ項目トスルニ決ス

茲ニ於テ第二區下水施設ニ關スル議案全ク成リ田川委員長ヨリ工費年度割ノ更正ハ之ヲ米元委員ニ附託シ公債募集及償還方法原案ハ之ヲ山縣委員ニ附託シ國庫補助ニ關スル申請文ハ之ヲ南部(光)委員ニ附託シ各委員ノ間ニ申請案ノ書式其他事務ノ進行ニ關スル諸般ノ打合アリ午後八時五十分散會ス

東京市下水道第貳區工費豫算

一金五百七拾壹萬參千八百六拾參圓也

總 工 費

內

一金貳百七拾八萬五千九百七拾五圓也

下 水 道 布 設 費

內

一金貳百四拾萬九千九百九拾參圓也

材 料 及 下 水 費

一金拾貳萬四百五拾八圓也

諸 色 損 料 及 雜 費

一金貳拾五萬六千參百貳拾四圓也

土 地 買 收 及 家 屋 移 轉 費

一金貳百壹萬貳千貳百參拾貳圓也

三 河 島 汚 水 處 分 工 場 設 置 費

內

一金壹百五拾六萬參千七拾八圓也

材 料 及 工 事 費

一金七萬八千五百五拾四圓也

諸 色 損 料 及 雜 費

一金參拾七萬壹千圓也

土 地 買 收 費

一金四拾參萬五千八百參拾七圓也

事 務 所 費

內

一金貳拾貳萬四千四百圓也

俸 給 及 報 酬

下水道施設ノ準備調査

一金八萬八千九百圓也

旅費及賞與手當

一金拾萬貳千五百參拾七圓也

應費及雜費

一金貳萬圓也

測量費

一金四拾七萬九千八百拾九圓也

豫備費

第貳區下水道布設費豫算內詳

一金貳百七拾八萬五千九百七拾五圓也

總工費

內

一金貳百四拾萬九千九百九拾參圓

材料及工事費

內

一金七拾七萬參千八拾參圓

幹線布設費

一金百四拾六萬六千七百七拾九圓

支線同上

一金拾六萬參千參百壹圓

雨水樹及取付費

一金六千參拾圓

餘水吐費

一金拾貳萬四百五拾八圓

諸色損料及雜費

一金貳拾五萬六千參百貳拾四圓

土地買收費及家屋移轉料

內

一金六萬四千四百七拾圓

土地買收費

一金拾九萬壹千八百五拾四圓

家屋移轉料

幹線及雨水吐布設費豫算

一金七拾七萬參千八拾四圓七拾五錢九厘也

內金九萬百貳拾參圓參拾五錢八厘

金六拾八萬貳千九百六拾壹圓四拾錢壹厘

種目寸法員數單價金額摘要

雨水吐膠泥管 二〇〇 四八〇 二〇〇〇八七 九六〇四二

同 二二五 一五〇 二四四一九七 三六六三〇

同 二五〇 四八〇 三三三、一六八 一五〇三二一

同馬蹄管 深八、〇〇 五八三五、五 一、五三九、五四一 八九、八四〇、三六五

小計 深五、三三 五、九四六、五 一、〇〇八、四〇〇 九〇、一二三、三五八

幹線馬蹄管 深八、〇〇 二、四六三、〇 一、五三九、五四一 三七、九一八、八九五

同 深五、三三 一、七七四、二三七 五、四二九、一六五二

同 同六、〇〇 三、七八〇、〇 二、二八二、五〇五 八六、二七八、六八九

同 同六、四四 三、七八〇、〇 二、二八二、五〇五 八六、二七八、六八九

下水道施設ノ準備調査

排水

同	二、五	一、一、〇	一〇〇尺當り	二六四
同	八〇	五、八三五、五		六、九三八
同	八〇	一、八一六一、〇	100/1.5	三、八九〇、三三三
小計		二四、一〇七、五	100/1.5	一、一〇七、三三三
雜工費				一六〇〇四、六〇四
小計				四、五三四、四四七
總計				四、五三四、四四七

雨水吐取付
及護岸等其
他

同				七、七三〇、八四、七五九
---	--	--	--	--------------

支線布設費豫算

一金百四拾六萬六千七百七拾九圓六拾七錢七厘

種目	寸法	員數	單價	金額
----	----	----	----	----

陶管	內徑七寸五分	四、八八七、〇	四八、八〇〇	二、三八四、六五六
同	同	八八、七五五、〇	七四、五八三	六六、一九六、一四二
同	同	八一、四六二、〇	一四二、四六八	一一六、〇五七、二八二
同	同	五〇、七三六、〇	一七六、一六〇	八九、三七六、五三九
小計		二二五、八四〇、〇		二七四、〇一四、六一八
モルタル管	內徑一尺七寸五分	三〇、四七四、〇	一〇〇尺當り	一六四、五五八
同				五〇、一四七、四〇五

小計

同	同	二、二	二六、〇六五、二	二〇〇、〇八七	五二、一五三、〇七七
同	同	同	一〇、二八八、二	二四四、一九七	二五、一二三、四七六
同	同	同	六、二八二、〇	三二一、一六八	一九、六七三、二一四
同	同	同	七三、一〇九、四	一〇〇尺當り	一四七、〇九七、一七二
同	同	同	一、六二六、〇	三八四、七五三	六、五二六、〇三五
同	同	同	二、九〇七、〇	四七三、二二七	一三、七五六、七〇九
同	同	同	三、一九八、六	五七一、六一〇	一八、二八三、五一七
同	同	同	三、五四〇、六	六六二、二六五	二二、四四八、一五五
同	同	同	四、一七、〇	八〇二、二四三	三、三四五、三五三
同	同	同	一、六八九、二	一〇〇尺當り	六五、〇八九、七六九
同	同	同	一、三、九九九、二	二五九、二一三	三六、二八七、七四六
同	同	同	八、六一〇、六	三〇一、四一〇	二五、九五三、二〇九
同	同	同	六、九九三、六	三八四、〇八〇	二六、八六一、〇一九
同	同	同	三、一四九、四	四三三、〇五五	一三、六三八、六三四
同	同	同	二、二二五、八	五三二、二五三	一一、七九三、六六二
同	同	同	五、四四〇、二	五九八、四〇九	三二、五五四、六四六
同	同	同	九、九九、〇	六六四、一三〇	六、六三四、六五九

下水道施設ノ準備調査

同				二六五
---	--	--	--	-----

種類	口径	長さ	総延長
人小	内徑三三三三	一〇	四七、五三一
人小	深三三三三	一〇	四、一七二、八〇一
人小	同	三〇	八九、四二五、一七二
人小	同	三〇	一八七、二〇〇
人小	同	三〇	一六九、六五〇
人小	同	二五〇	一四六、二五〇
人小	同	四〇〇	六〇、三〇〇
人小	同	四〇〇	二四、一二〇
人小	同	一〇〇	五九九、五八〇
人小	同	一〇	一〇九、三六三、二五八
人小	同	一〇	二四〇、四四九、二一五
人小	同	一〇	二、四〇六、三六三
人小	同	一〇	三五二、二一九、八三六
人小	同	一〇	一二八、一五七、〇〇〇
人小	同	一〇	五二三、三五、一五〇
人小	同	一〇	二六九

種類	口径	長さ	総延長
合小	同	一〇五〇	四七、五三一
合小	同	一〇	四、一七二、八〇一
燈	深三尺	三三〇	八九、四二五、一七二
燈	同	二九〇	一八七、二〇〇
燈	同	二五〇	一六九、六五〇
燈	同	一〇〇	一四六、二五〇
燈	同	四〇	六〇、三〇〇
燈	同	一〇	二四、一二〇
燈	同	一〇	五九九、五八〇
燈	同	一〇	一〇九、三六三、二五八
燈	同	一〇	二四〇、四四九、二一五
燈	同	一〇	二、四〇六、三六三
燈	同	一〇	三五二、二一九、八三六
燈	同	一〇	一二八、一五七、〇〇〇
燈	同	一〇	五二三、三五、一五〇
燈	同	一〇	二六九

一金六千參拾圓四拾六錢九厘

種目	寸法	員數	單價	金額摘要
膠泥管	二、五	八六四〇	三〇〇 <small>尺管</small> 三一三、一六八	二、七〇五、七七二
人孔	內徑四、〇〇 深五、〇〇 同四、五〇 同五、五〇	一〇	八一、五八九	八一、五八九
小計		八六四〇		二、七〇五、七七二
掘	鑿深十二尺以下	一六七六	六、二七五	一〇、五二、四九六
小計		一六七六		一〇、五二、四九六
山圍	中六、〇〇 深九、〇〇	八六四〇	一〇〇 <small>尺管</small> 七五、〇〇〇	六四八、〇〇〇
小計		八六四〇		六四八、〇〇〇
排水	中一、七五 深二、五〇	八六四〇	一〇〇 <small>尺管</small> 七五、〇〇〇	六四八、〇〇〇
小計		八六四〇		六四八、〇〇〇
洗滌屏	徑二、五	八六四〇	一〇〇 <small>尺管</small> 七五、〇〇〇	六四八、〇〇〇
小計		八六四〇		六四八、〇〇〇
自働開閉弁		二〇	四〇九、〇〇〇	八、一八、〇〇〇
小計		二〇		八、一八、〇〇〇
總計				六、〇三〇、四六九

雜工費

小計

總計

土地買收家屋移轉費豫算

一金貳拾五萬六千參百貳拾四圓也

內譯

種目	員數	單價	金額摘要
土地買收			六四、四七〇、〇〇〇
家屋移轉			一九一、八五四、〇〇〇
計			二五六、三二四、〇〇〇

第貳區污水處分工場費豫算

一金貳百壹萬貳千貳百參拾貳圓也

內

一金壹百五拾六萬參千七拾八圓也

材料及工事費

下水道施設ノ準備調査

金六拾四萬四千八百六拾七圓也

金九拾壹萬八千貳百拾壹圓也

一金七萬八千五百拾四圓也

一金參拾七萬壹千圓也

污水處分設備豫算

一金六拾四萬四千八百六拾七圓

內譯

種目	員數	單價	金額
セブチンクタンク	六〇	二八四二、一六六	一七〇、五三三、〇〇〇
濾過池	一三〇	一七四四、六一五	二二六、七八〇、〇〇〇
沈澱池	一〇	三四、一〇四、〇〇〇	三四、一〇四、〇〇〇
沈澱池附屬建物機械其他			五〇、〇〇〇、〇〇〇
雨水吐水路	一〇	二二〇、五〇〇、〇〇〇	二二〇、五〇〇、〇〇〇
護岸			七〇、〇〇〇、〇〇〇
事務所建物等			五〇、〇〇〇、〇〇〇
雜工費			二〇、〇〇〇、〇〇〇
土工費			六四、四〇〇、〇〇〇

二七四

污水處分工場設備費

唧筒設備費

諸色損料及雜費

土地買收費

合計

六四四、八六七、〇〇〇

唧筒設備費豫算

一金九拾壹萬八千貳百拾壹圓

內譯

種目	員數	單價	金額
機械類			四七三、九〇〇、〇〇〇
建築物類			一九二、三七五、〇〇〇
基礎及土工			二五一、九三六、〇〇〇
合計			九一八、二一一、〇〇〇

土地買收費豫算

一金參拾七萬壹千圓也

內譯

種目	員數	單價	金額
土地買收			三七一、〇〇〇、〇〇〇
合計			三七一、〇〇〇、〇〇〇

第二區下水道事務所費豫算內譯

一金四拾參萬五千八百參拾七圓也

下水道施設ノ準備調査

二七五

金貳拾貳萬四千四百圓也

人員	局長	技師	主事	技手	事務員	報 酬	計	賞與	手當	內國旅費	外國旅費	計
1	8	1	16	14	60	100	100	100	100	100	100	72000
ハケ年一人俸給又ハ費額	30,000.00	14,000.00	1,400.00	3,960.00	2,400.00	9,832.00	9,832.00	72,000.00	72,000.00	72,000.00	72,000.00	72,000.00
一ケ年金額	300,000.00	112,000.00	14,000.00	48,360.00	24,000.00	41,880.00	41,880.00	69,800.00	72,000.00	72,000.00	72,000.00	147,800.00
五ケ年金額	1,500,000.00	560,000.00	70,000.00	241,800.00	120,000.00	209,400.00	209,400.00	349,000.00	360,000.00	360,000.00	360,000.00	739,000.00
俸給及報酬						旅費及賞與手當						
						15,000.00	15,000.00	15,000.00	15,000.00	15,000.00	15,000.00	15,000.00
						88,900.00	88,900.00	88,900.00	88,900.00	88,900.00	88,900.00	88,900.00

工 夫	小 使	給 仕	工 夫、小使被服	給 仕同上	賞 與	計	備品其他ノ雜費	計	備品其他ノ雜費	計	測量及試驗費
24	6	6	30	6	6	72	26,880.00	47,725.00	26,880.00	47,725.00	220,000.00
219,000	146,000	91,250	6,000	15,000	15,000	477,250	786,000	7,507,500	786,000	7,507,500	7,727,750
5,256,000	786,000	547,500	18,000	90,000	558,000	7,507,500	375,370.00	1,000,000.00	375,370.00	1,000,000.00	1,183,370.00
26,880.00	438,000.00	273,700.00	90,000.00	450,000.00	279,000.00	375,370.00					

東京市下水道事業歳入出豫算書

歳 入

測量及試驗費

220,000.00

區分	前年度繰越金	國庫補助金	特別税及河岸地貸渡料	借入金	計
明治四十四年度	0	100,000,000	60,000,000	76,000,000	836,000,000
同 四十五年度	461,000	644,333,000	60,000,000	0	1,145,694,000
同 四十六年度	916,666,000	644,333,000	60,000,000	754,000,000	2,109,999,000
同 四十七年度	87,000	644,333,000	60,000,000	0	1,391,310,000
同 四十八年度	46,000	644,333,500	55,833,500	0	1,246,113,000
合計	927,000,000	2,856,933,500	2,953,833,500	830,000,000	6,644,000,000

歳出

區分	工事費	事務費	準備費	計	借入金償還及利子	計
明治四十四年度	704,964,000	21,666,000	7,912,000	834,542,000	85,555,000	920,097,000
同 四十五年度	90,764,000	27,266,000	10,733,000	128,763,000	1,000,000	129,763,000
同 四十六年度	1,833,444,000	25,266,000	13,333,000	1,872,043,000	1,000,000	1,873,043,000
同 四十七年度	1,015,334,000	25,266,000	101,733,000	1,142,333,000	1,000,000	1,143,333,000
同 四十八年度	333,833,000	25,266,000	33,912,000	392,011,000	1,000,000	393,011,000
合計	4,776,304,000	105,457,000	259,812,000	5,141,573,000	1,846,555,000	6,988,128,000

備考

一、國庫補助金ハ事業費ニ對スル二分ノ一トシテ揚上ス

一、借入金ハ本市特別經濟中ヨリ年利五厘ノ割合ヲ以テ借入ル、モノトス
 一、特別税及河岸地貸渡料ハ東京市區改正條例第七條ニ於テ制限セラレ居ル
 二、依リ是力改正ヲ爲シ依テ生スル百萬圓以外ノ收入金ヲ以テ本費ニ充ツルモノトス

市區改正特別税賦課額調

四十三年五月二十三日調

税目	本税額	賦課制限率	金額
地租	2,095,150,000	百分ノ十二半	261,893,750
國稅營業稅	4,440,000,000	百分ノ十七	754,800,000
府稅營業稅	84,953,160	十分ノ四	33,981,264
同 雜種稅	426,781,980	同	170,721,792
同 家屋稅	511,580,730	同	210,463,130
計			1,442,600,108

一金參拾五萬六千五百貳拾貳圓

河岸地貸渡料

內金參萬七千七百七圓

同 管理費

差引金參拾壹萬九千四百拾五圓

市區改正經濟ニ編入高

合計金百七拾四萬五千四百參拾五圓拾錢八厘

備考

一、本税額及河岸地貸渡料及管理費ハ四十三年度豫算額ヲ揚上ス
 下水道施設ノ準備調査

一、賦課率ハ規定制限額トス

各市負擔比較表

四十三年五月十八日調

市名	市	區	府	計
東京	一、四八八	一、四八八	一、四八八	一、四八八
京都	一、九五五	一、九五五	一、九五五	一、九五五
大阪	七、二九六	七、二九六	七、二九六	七、二九六
横濱	二、二五一	二、二五一	二、二五一	二、二五一
神戸	七、九六八	七、九六八	七、九六八	七、九六八
名古屋	一、四八八	一、四八八	一、四八八	一、四八八

備考
一、各税額ハ四十二年度總豫算額ニ依ル
但東京市々税中ニ市區改正特別税ヲ包含ス
一、戸數及人口ハ本市統計課ノ照會ニ對シ四十二年十二月末現在調ニ依ル各
市ノ回答書ニ依ル但名古屋市ハ回答未着ニ付四十一年十二月末調内關統
計年鑑ニヨル

東京市下水改良費支辨計算表

年度年次	支		出		入		償還額	殘額
	事業費	公債利子	國庫補助金	特別税	下水税	預金利子		
一	100,000,000	0	0	0	0	0	0	100,000,000
二	100,000,000	0	0	0	0	0	0	200,000,000
三	100,000,000	0	0	0	0	0	0	300,000,000
四	100,000,000	0	0	0	0	0	0	400,000,000
五	100,000,000	0	0	0	0	0	0	500,000,000
六	100,000,000	0	0	0	0	0	0	600,000,000
七	100,000,000	0	0	0	0	0	0	700,000,000
八	100,000,000	0	0	0	0	0	0	800,000,000
九	100,000,000	0	0	0	0	0	0	900,000,000
一〇	100,000,000	0	0	0	0	0	0	1,000,000,000
一一	100,000,000	0	0	0	0	0	0	1,100,000,000
一二	100,000,000	0	0	0	0	0	0	1,200,000,000
一三	100,000,000	0	0	0	0	0	0	1,300,000,000
一四	100,000,000	0	0	0	0	0	0	1,400,000,000
一五	100,000,000	0	0	0	0	0	0	1,500,000,000
一六	100,000,000	0	0	0	0	0	0	1,600,000,000
一七	100,000,000	0	0	0	0	0	0	1,700,000,000
一八	100,000,000	0	0	0	0	0	0	1,800,000,000
一九	100,000,000	0	0	0	0	0	0	1,900,000,000
二〇	100,000,000	0	0	0	0	0	0	2,000,000,000

下水道施設ノ準備調査

年度年次	募集額	支	出	入	償還額	殘額
二	100,000,000	0	0	0	0	100,000,000
三	100,000,000	0	0	0	0	200,000,000
四	100,000,000	0	0	0	0	300,000,000
五	100,000,000	0	0	0	0	400,000,000
六	100,000,000	0	0	0	0	500,000,000
七	100,000,000	0	0	0	0	600,000,000
八	100,000,000	0	0	0	0	700,000,000
九	100,000,000	0	0	0	0	800,000,000
一〇	100,000,000	0	0	0	0	900,000,000
一一	100,000,000	0	0	0	0	1,000,000,000
一二	100,000,000	0	0	0	0	1,100,000,000
一三	100,000,000	0	0	0	0	1,200,000,000
一四	100,000,000	0	0	0	0	1,300,000,000
一五	100,000,000	0	0	0	0	1,400,000,000
一六	100,000,000	0	0	0	0	1,500,000,000
一七	100,000,000	0	0	0	0	1,600,000,000
一八	100,000,000	0	0	0	0	1,700,000,000
一九	100,000,000	0	0	0	0	1,800,000,000
二〇	100,000,000	0	0	0	0	1,900,000,000

三	九、三〇〇,〇〇〇,〇〇〇	〇	四、六〇〇,〇〇〇,〇〇〇	〇	七、〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇	八、一七五、〇〇〇、〇〇〇	五、三〇〇,〇〇〇,〇〇〇	三、〇〇七、九六七
三	八、八〇〇,〇〇〇,〇〇〇	〇	四、〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇	〇	七、〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇	九、〇三九、〇〇〇、〇〇〇	五、五〇〇,〇〇〇,〇〇〇	九、七九八、二〇〇
三	八、二五〇,〇〇〇,〇〇〇	〇	四、一七五、〇〇〇,〇〇〇	〇	七、〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇	三、九四六、〇〇〇、〇〇〇	五、九〇〇,〇〇〇,〇〇〇	四、二九二、一五〇
三	七、六〇〇,〇〇〇,〇〇〇	〇	三、八〇〇,〇〇〇,〇〇〇	〇	七、〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇	二、八七四、〇〇〇、〇〇〇	六、一〇〇,〇〇〇,〇〇〇	八、一三〇、九二〇
六	七、〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇	〇	三、五〇〇,〇〇〇,〇〇〇	〇	七、〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇	二、四二四、〇〇〇、〇〇〇	二、五〇〇,〇〇〇,〇〇〇	二、五〇〇、〇〇〇
六	五、五〇〇,〇〇〇,〇〇〇	〇	二、八二二、〇〇〇,〇〇〇	〇	七、〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇	六、九三六、〇〇〇、〇〇〇	六、八四一、四七九	六、八四一、四七九
七	四、一七五、〇〇〇,〇〇〇	〇	二、〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇	〇	七、〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇	六、三六二、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇
七	三、五〇〇,〇〇〇,〇〇〇	〇	一、三〇〇,〇〇〇,〇〇〇	〇	七、〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇	五、〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇	四、〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇
七	二、五〇〇,〇〇〇,〇〇〇	〇	一、一七五、〇〇〇,〇〇〇	〇	七、〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇	四、〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇	四、〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇
七	一、〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇	〇	五、〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇	〇	七、〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇	二、五〇〇,〇〇〇,〇〇〇	六、五八四、三六一	六、五八四、三六一

備考

- 一、公債ハ初年ヨリ六年迄毎年各貳百萬圓七年目ニ百五十萬圓合計壹千參百五拾萬圓ヲ募集シ十一年目ヨリ十九ヶ年ニ償還スルモノトス
- 一、公債利子ノ割合ハ年五朱トス
- 一、毎年收支差引殘金ハ之ヲ預金トシ利子割合ヲ年三朱トス

第二十六節 東京市下水道施設調査委員會第五回議會ノ事績

四十三年六月一日東京市下水道施設調査委員會第五回ヲ開ク近藤荒木福田土岐緒方阪入五十嵐中島各委員顧問原田川日下部南部(常)南部(光)米元山縣ノ各番外幹事等出席田川助役ハ第二回施設準備委員會議事ノ報告ヲナシ豫算案公債募集及償還方法等事業内容ノ調査ヲナシタレハ査定ヲ望ムト

述ヘ工事ニ關スルモノハ米元技師事務費ニ關スルモノハ南部技師財源ニ屬スルモノハ山縣幹事ヨリ夫々説明ヲナシ總額ニ於テ原案ハ五百七拾壹萬餘圓ナリシヲ審査ノ末主トシテ事務費ニ修正ヲ加ヘ五百八拾萬圓ニ修正議決シ尙左ノ調査報告ヲナスニ決定シタリ

本市下水道ノ築設ハ財源ノ關係上分割シテ漸次施行スルヲ相當ト認メ本委員會ハ第一期工事トシテ第二區ヨリ着手スルモノトシ別紙ノ通調査候條此段及報告候也

明治四十三年六月 日

下水道施設調査委員長代理 福田 又一

東京市參事會

東京市長代理助役 原田 十 衛殿

四十三年六月二日東京市下水道施設調査委員會ハ下水道施設順序ニ關シ前日議定ノ通調査報告ヲナス

(註) 前項ニ別紙トアルハ本節百十六號市會議案ニ出ツルヲ以テ略之

第二十七節 東京市下水道工費國庫補助申請ノ提出

四十三年六月三日東京市改良下水道施設準備委員會ハ下水道工費補助申請ノ件ヲ提案ス

(註) 右提案ハ「東京市下水道工費國庫申請」トナル

四十三年六月四日東京市參事會常設委員及下水道施設調査委員會ノ聯合會第一回ヲ開キ施設調査委員

下水道施設ノ準備調査

委員ノ聯
合會第一
回

同第二回

會ノ提案ヲ審議シ第二區着手ノ件工事費其他公債ニ關スル件ヲ全部原案通可決ス

四十三年六月七日東京市參事會常設委員及下水道施設調査委員ノ聯合會第二回ヲ開キ下水道工事費

補助申請案ヲ修正可決シ直チニ市參事會ヲ召集シテ之ヲ附議ス同日市參事會ハ此修正案ヲ可決ス

四十三年六月十四日東京市下水道施設ニ要スル工費補助申請ニ關スル件(議案第百十六號)市會ノ

議題ニ上ル

原田助役ハ簡單ニ提出ノ理由ヲ述ヘ津村議員第二區ヨリ着手スルノ理由ヲ質問ス田川助役之ニ答ヘ
テ曰ク

理事者ハ東京市區改正委員會ノ豫定シタル十年間ニ之ヲ完成セントス一區二區ノ別ハ時機ノ關係ニ
ヨラス區域ノ關係ニヨリタルモノニシテ順位ニ付テハサマテ深大ナル意味アルニアラス唯其二區ヲ
撰定シタルハ市區改正委員會ノ報告中調査未了ノモノアリ又實施ニ關シ市區改正委員長ヨリ東京市
ニ通牒シタル十五ヶ條ノ注意事項アリ之カ調査ヲ完全ニ結了スルニアラサレハ満足ト云フヘカラス
而シテ該問題中第二區ノ關係アルハ其第二號(三河島村砂村兩所ニ設クル「セブチツツタンク」及濾
過池ノ構造等ハ衛生上遺憾ナカラシメ又其滓渣處分ノ方法ヲ調査スル事)ナリ此レニ關シテ緒方博
士ニ質シタルニ單ニ注意ニ過キスト答ヘラレタリヨリテ設計構造ニ無關係ナルヲ知ルヲ得タリ故ニ
第二區工事ハ市區改正委員會ノ報告ニ於テハ既ニ完全ナルモノト謂フヲ得ヘシ然ルニ第一區第三區

ハ未タ不完全タルヲ免レス例セハ注意事項第三號ニ「錢瓶橋附近ニ設クル唧筒場ハ他ニ比較調査ヲ
試ムルコト」ノ如シ之カ完成ニ至ラサレハ第一區中段區域ノ排水ハ不能ナリ又其第四號「錢瓶橋ヨリ
櫻田門外ニ至ル送水管其他河海伏越等ノ箇所ニ布設スヘキ鐵管ハ汚水通過ノ爲ニ腐蝕ノ虞アリ其修
繕方法ヲ調査スルコト」ノ如キ試驗調査中ニ屬ス是レ即チ調査完了シタル第二區ヲ撰定シタル第一
ノ理由ナリ又第二區ハ比較的人口ノ稠密ナル所ニシテ八十萬町歩ニ足ラサル地積ニ三十一萬ノ人口
ヲ有スル區域ナリ此ヲ第二ノ理由トス第三理由ハ地位低濕加フルニ近來ノ衛生統計カ第二區ニ於テ
最モ多クノ傳染病患者ヲ有スルヲ示ス事ニアリ此等ノ事情ヲ綜合シ第二區ヨリ着手ノ事ニ決定セル
次第ニシテ漸次理事者等カ事業ノ施行ニ慣熟スルト諸調査ノ結了トニ伴ヒ第二區ヲ終ラサル内第一
區及第三區ニ着手スルヲ得ヘキ見込也ト

津村議員ハ決議ニ第一區中段ヨリトアルモ當局者調査未着手ナリヤト質シ田川助役ハ然リト答ヘ重
ネテ津村議員ハ十ヶ年繼續問題ハ未タ期スヘカラス明治五十年ノ博覽會ヲ豫想シ東京市ノ設備ヲ芝
區京橋區日本橋區等ノ中心地ヲ先ニスル必要ナキカ低地標準ナラハ本所深川ハ如何果シテ本案通過
スルアラハ至急ニ第一區ノ低段ノ調査ヲモ進行センコトヲ希望スト述ヘ今井議員ハ本案申請書中第
一期工事五ヶ年トアルハ第一區第三區ハ其餘ノ五ヶ年ノ見込ナリヤト質シ田川助役ハ先ツ津村議員
ノ希望ニ答ヘ其問題ニ關シテハ市當局カ遲滯ノ憾アルヲ陳謝シ且ツ曰ク其任ニ膺ル五月以來辛シテ

第二區ノ調査ヲ終リタルモノナリ第一區第三區ニ付テモ此機會ヲ逸セス調査ノ歩ヲ進メントスト述
 へ更ニ今井議員ニ答ヘテ第二區ハ初經驗ナレトモ第一區第三區ハ第二區ニ於ルカ如キ苦シキ經驗ヲ
 省クヲ得ルヲ豫想セリ第一區ハ區域廣ク約七年ヲ要スヘク第三區ハ五年ヲ要セサルヘシ之ヲ并進セ
 シメ十年以内ニ遂行セント希望スルモ其成否ニ付テハ豫メ期スル能ハスト述タリ次ニ坪谷議員質問
 シテ曰ク第二區ヨリ着手スルハ工事上及財政上得策ナリトハ案ノ趣旨アルモ最モ繁華ナル土地ハ高
 架鐵道地下鐵道瓦斯管壓搾空氣管又ハ送電設備等地上又ハ地下ノ工作障礙物ノ多ク現ハルヘク此等
 ヲ後ニスレハ却テ財政上不利ニ陥ルコトナキヤニ付疑ヲ懷クモノ也ト田川助役之ニ答ヘテ工事上ノ
 事ハ前ニ陳ヘタル所ノ如シ財政ニ關シテハ第一區ハ二千二百萬圓ヲ要シ第二區ハ五百八十萬圓ノ比
 較的少額ニテ足ル今日直チニ一千二百萬圓ノ財源ヲ見出スニハ甚シキ困難ヲ免レス此レ其理由也ト
 述へ坪谷議員ハ重ねテ問フテ曰ク第二區ハ設計ニヨレハ三河島方面ニ「タンク」ヲ設ケントスルニ
 アルカ如シ之カ棄場ヲ得ルニアラサレハ効ナカルヘシ第一區廣シト雖モ一方ニ鐵管ヲ伏設シ其吐出
 口ヲ得レハ二千數百萬圓ヲ一時ニ支出セサルモ遞次其工事ヲ進メ得ヘキカ如シ如何ト田川助役ハ之
 ニ答ヘテ曰ク此ニ關スル事項ハ前陳ノ趣旨ニ幾分カ包含シ得タリト信ス唯唧筒工場ノ設備ノミニテ
 ハ如何トモスヘカラス況ヤ唧筒設備サヘ今尙問題ニ屬セリ且ツ之ニハ管ヲ要シ其流送シタルヲ芝浦
 ニ送リ芝浦ヨリ第一臺場迄約八千尺ノ鐵管ヲ要スヘシ此レ中島博士ノ報告スル所ナリ然レトモ汚水

關係上之カ放流ハ衛生上憂ナキ能ハス且ツ「タンク」ノ設備ヲ要ス此事項ニ付テハ未ダ中島博士ノ
 精緻ナル調査アラス既ニ「タンク」調査及鐵管ハ問題ナリ唧筒工場又然リ即チ未ダ補助ヲ其筋ニ申
 請スル時期ニ達セサル也ト山口議員問フテ曰ク錢瓶橋唧筒工場及鐵管腐蝕ノ研究ハ幾何ノ歲月ヲ要
 スルカト田川助役ハ今日尙何等定マリタル豫定ナキヲ答ヘタルニ山口議員ハ先二十年間ニ遂行ヲ期
 スト云フニ矛盾セシヤ將タ工事進行程度豫定如何ヲ問フ田川助役ハ或ハ其答辨ノ不充分ナリシ爲此
 質問アリタルヤヲ遺憾トシ第二區工事終ラサル三年目位ニ第一區ノ工事ニ着手セント欲ス第二區ヨ
 リ始メ他ヲ後ニスルハ東京市全體ノ希望ニ副ハサルヘキヲ以テ一刻モ之ヲ早クセント期スルモノ也
 トシ工事進行ノ程度トシテ本議案百十六號中ノ工費年別ノ表示ヲ説明シタリ津村委員ハ本件ニ付各
 區一名宛十五名ノ委員ヲ選定シ議長ノ指名ニヨリ之ヲ舉ケンコトヲ提議シタルニ田川助役ヨリ可成
 的速力ニ調査ヲ進行スルコトノ希望ヲ陳ヘ多數ニテ之ニ決ス當日議長指名ニヨル委員氏名左ノ如シ

調査委員

- | | | |
|-------|-------|-------|
| 青木庄太郎 | 内山平三郎 | 山口憲 |
| 荒木重治 | 坪谷善四郎 | 武智直道 |
| 西澤善七 | 伊東靖 | 高橋藤兵衛 |
| 酒井泰 | 松村祥一郎 | 今井喜八 |
| 東邨守節 | 坂入宗兵衛 | 秋虎太郎 |

下水道施設ノ準備調査

四十三年六月十八日市會特別委員會ハ第百十六號議案調査會ヲ開キ下水道設計ノ第一區及第三區ノ
工事ヲ急途ニ着手スヘキ希望ヲ付シテ原案ヲ可決ス

(註) 議案左ノ如シ

第百十六號

本市下水道施設ニ要スル工費補助申請ニ關スル件

本市改良下水道施設ニ關シテハ總工費二分ノ一ノ補助ヲ國庫ニ仰クヲ必要已ムヘカラスト信ス但
本市ハ該設計中第二區(淺草ノ全部及下谷、神田ノ一部)ヨリ先ツ起工スルヲ以テ工事及財政
上ノ得策ト認ムルニ因リ差當リ別紙ノ通其工費半額ノ補助ヲ內務大臣ヘ申請スルモノトス
明治四十三年六月十日提出

東京市參事會

東京市長代理

東京市助役 原田 十 衛

(別紙)

東京市下水道工費國庫補助申請

東京市下水道設計ハ曩ニ東京市區改正委員會ノ議定ヲ經內務大臣ハ明治四十一年三月二十六日該

設計カ内閣ノ認可ヲ得タルニ付東京市區改正條例第二條ニ依リ公示スヘキ旨ヲ本市ニ訓令シ本市
ハ同年四月十一日其告示ヲ了セリ而シテ本市ハ來ル四十四年度ヨリ之カ實施ニ着手シ全力ヲ傾注
シテ東京市區改正委員會豫定ノ期間内ニ之カ完成ヲ圖ルニ當リ茲ニ總經費參千參百六拾六萬圓ニ
對スル二分ノ一ノ補助ヲ國庫ニ仰カント欲ス是レ東京市會カ會テ已ニ意見書ヲ具シテ陳情シタル
カ如ク東京市目下ノ財政上已ムヲ得サル處ナリ尤モ本市ハ工事自然ノ順序トシテ此際先ツ原設計
ノ第二區即チ淺草區ノ全部及下谷神田兩區ノ一部ヲ包含スル區域ヨリ着手シ之ヲ第一期工事トシ
五箇年ヲ以テ竣工セントス其經費五百八拾萬圓差當リ國庫ノ補助ニ須ツヘキモノ貳百九拾萬圓ナ
リトス閣下願クハ本市ノ事情ヲ諒察シ願意ヲ採納セラレンコトヲ茲ニ市會ノ議決ヲ以テ此段及申
請候也

明治四十三年 月 日

東京市參事會

東京市長代理

東京市助役 原田 十 衛

內務大臣男爵 平 田 東 助殿

追テ本申請ニ關スル參考書別紙目錄ノ通添附致候

下水道施設ノ準備調査

目録

- 第一號 實測平面圖
- 第二號 實測縱斷面圖
- 第三號 排水管及排水渠ノ斷面圖
- 第四號 人孔、燈孔、通風器、防臭瓣裝置ノ構造ニ關スル圖面
- 第五號 一位代價表
- 第六號 工費計算書甲東京市下水道工費總豫算
乙同上第一期工費豫算
- 第七號 計劃說明書
- 第八號 歲出入豫算書
- 第九號 下水道事業公債募集及償還表

以上

第六號ノ甲 (第一號第二號第三號第四號第五號第六號第七號ハ之ヲ略ス)

東京市下水道工事費總豫算

一金參千參百六拾六萬圓也

總 豫 算

内

金貳千貳百六拾參萬圓也

第一區工費

内

金壹千九百八拾九萬壹千參百七拾圓也

工 事 費

金七拾四萬九千四百九拾參圓也

事 務 所 費

金壹百九拾八萬九千百參拾八圓也

豫 備 費

金五百八拾萬圓也

第二區工費

内

金四百八拾壹萬貳千貳百六圓也

工 事 費

金四拾八萬七千百拾七圓也

事 務 所 費

金五拾萬六百七拾七圓也

豫 備 費

金五百貳拾參萬圓也

第三區工費

内

金四百五拾壹萬八千九百六拾壹圓也

工 事 費

金貳拾四萬九千八百參拾壹圓也

事 務 所 費

下水道施設ノ準備調査

金四拾六萬壹千貳百八圓也

豫備費

第六號ノ乙

東京市下水道第二區工事費豫算

一金五百八拾萬圓也

總工費

內

金貳百七拾八萬五千九百七拾四圓也

下水道布設費

內

金貳百四拾萬九千九百九拾六圓也

材料及工事費

金拾貳萬四百五拾四圓也

諸色損料及雜費

金貳拾五萬六千參百貳拾四圓也

土地買收及家屋移轉料

金貳百貳萬六千貳百參拾貳圓也

三河島污水處分工場設置費

內

金壹百五拾六萬參千七拾八圓也

材料及工事費

金七萬八千五百五拾四圓也

諸色損料及雜費

金參拾八萬五千圓也

土地買收費

金四拾八萬七千百拾七圓也

事務所費

內

金貳拾六萬五千貳百圓也

俸給及報酬

金九萬八千五百八拾圓也

旅費及賞與手當

金拾萬參千參百參拾七圓也

應費及雜費

金貳萬圓

測量費

金五拾萬六百七拾七圓也

豫備費

第六號乙ノ一

第二區下水道布設費豫算

一金貳百七拾八萬五千九百七拾四圓也

內

金貳百四拾萬九千九百九拾六圓也(圓未滿切捨)

材料及工事費

內

金七拾七萬參千八拾四圓七拾五錢九厘

幹線布設費

金壹百四拾六萬六千七百七拾九圓六拾七錢六厘

支線同上

下水道施設ノ準備調査

金拾六萬參千參百壹圓拾八錢四厘

金六千參拾圓四拾六錢九厘

金拾貳萬四百五拾四圓也

金貳拾五萬六千參百貳拾四圓也

內

金六萬四千四百七拾圓也

金拾九萬壹千八百五拾四圓也

幹線及雨水吐布設費內譯

一金七拾七萬參千八拾四圓七拾五錢九厘

雨水榊及取付費
餘水吐布設費
諸色損料及雜費
土地買收費及家屋移轉料

土地買收費
家屋移轉料

種目	寸法	員數	單價	金額	摘要
雨水吐圓形管	二〇〇	四八〇	二〇〇〇八七	九六,〇四二	鐵筋モルタル管
同	二二五	一五〇	二四四,一九七	三六,六三〇	同
同	二五〇	四八〇	三三三,一六八	一五〇,三二二	同
同馬蹄管	深八、三〇	五、八三五	一、五九,五四一	八九,八四〇、三六五	鐵筋コンクリート管
同	深五、三〇	五、九四六	一、〇〇,八五五	九〇,二二三、三五八	同
同	深八、三〇	二、四六三	一、五九,五四一	三七,九一八、八九五	鐵筋コンクリート管
幹線馬蹄管	深八、三〇	五、三三〇	一、〇〇,八五五	五三,三三〇	同

種目	寸法	員數	單價	金額	摘要
同	同	同	同	三,〇六〇、〇	同
同	同	同	同	三、七八〇、〇	同
同	同	同	同	二、四七六、三八二	同
同	同	同	同	九四、八五五	同
同	同	同	同	九八、二三三	同
同	同	同	同	一〇一、五九一	同
同	同	同	同	一〇四、九五九	同
同	同	同	同	一〇八、三三七	同
同	同	同	同	一一一、六九五	同
同	同	同	同	一一五、〇六三	同
同	同	同	同	一二八、四三一	同
同	同	同	同	一二二、七九九	同
同	同	同	同	一二八、五三五	同
同	同	同	同	一三五、二七一	同
同	同	同	同	一四二、〇〇七	同
同	同	同	同	一四五、三七五	同
同	同	同	同	一八、一六二、〇	同
同	同	同	同	一八、九七一〇	同
同	同	同	同	二九四、六六九	同
同	同	同	同	三〇四、七七三	同
同	同	同	同	三四、八七九	同
同	同	同	同	二二六、六五四	同
同	同	同	同	四四六、七八〇	同
同	同	同	同	三〇〇、二一六	同
同	同	同	同	三五五、二九三	同
同	同	同	同	三六五、三九七	同
同	同	同	同	一二八、五三五	同
同	同	同	同	一三五、二七一	同
同	同	同	同	一四二、〇〇七	同
同	同	同	同	一四五、三七五	同
同	同	同	同	二九五	同

下水道施設準備ノ調査

自働洗滌槽	三〇四	110,000	40,100,000
小計	三五五		40,100,000
雜工費			176,963.7
小計			176,963.7
合計			1,467,796.67

餘水吐取付及護岸等

雨水樹及取付費内譯

種目	法員數	單價	金額	摘要
一金拾六萬參千參百壹圓拾八錢四厘				
雨水樹	四六二四	二二,一六九	一〇七,一三三,四五六	
小計	四六二四		一〇七,一三三,四五六	
雨水樹	四六二四	四,〇四九	五六,一六七,七二八	
小計	四六二四		五六,一六七,七二八	
合計	一三,八七二		一六三,三〇一,一八四	

餘水吐布設費内譯

種目	法員數	單價	金額	摘要
一金六千參拾圓四拾六錢九厘				
圓形管	八六四〇	三二,一六八	二,七〇五,七七二	鐵筋モルタル管
小計	八六四〇		二,七〇五,七七二	

人孔	同深内徑	一〇	八一,五八九	鐵筋モルタル管
同小計	同深内徑	一〇	八一,五八九	
堀鑿	深	二〇	八四,九五七	
小計	深	二〇	八四,九五七	
山圍	幅深	一六七,六	一六六,五四六	
小計	幅深	一六七,六	一六六,五四六	
排水		一〇〇	一〇五,一六九	
小計		一〇〇	一〇五,一六九	
洗滌扉		七五〇	六四八,〇〇〇	
小計		七五〇	六四八,〇〇〇	
自働開閉瓣		六四八,〇〇〇	六四八,〇〇〇	
小計		六四八,〇〇〇	六四八,〇〇〇	
雜工費		五四,〇〇〇	五四,〇〇〇	
小計		五四,〇〇〇	五四,〇〇〇	
合計		二,七〇五,七七二	六,〇三〇,四六九	

土地買收家屋移轉費内譯
一金貳拾五萬六千參百貳拾四圓也

下水道施設ノ準備調査

種目	員數	單價	金額	摘要
土地買收	三八八〇	一六、六一四餘	六四、四七〇、〇〇〇	
家屋移轉	六、四九三〇	二九、五四七餘	一九一、八五四、〇〇〇	
合計			二五六、三二四、〇〇〇	

第六號乙ノ二

第二區污水處分工場費豫算

一金貳百貳萬六千貳百參拾貳圓也

内

金百五拾六萬參千七拾八圓

内

金六拾四萬四千八百六拾七圓

金九拾壹萬八千貳百拾壹圓

金七萬八千五百拾四圓

金參拾八萬五千圓

污水處分設備費内譯

一金六拾四萬四千八百六拾七圓也

材料及工事費
 污水處分工場設備費
 唧筒設備費
 諸色損料及雜費
 土地買收費

種目	員數	單價	金額	摘要
セブチンクタンク	六	二八四三二、一六六餘	一七〇、五三三、〇〇〇	
濾過池	一三	一七、四四四、六一五餘	二二六、七八〇、〇〇〇	
沈澱池	一	二四、一〇四、〇〇〇	三四、一〇四、〇〇〇	
沈澱池附屬建物機械其他			五〇、〇〇〇、〇〇〇	
雨水吐水路	一	二二、〇五〇、〇〇〇	二二、〇五〇、〇〇〇	
護岸			七〇、〇〇〇、〇〇〇	
事務所建物等			五〇、〇〇〇、〇〇〇	
雜工費			二〇、〇〇〇、〇〇〇	
土工費			六四、四〇〇、〇〇〇	
合計			六四四、八六七、〇〇〇	

唧筒設備費内譯
 一金九拾壹萬八千貳百拾壹圓也

種目	金額	摘要
機械類	四七三、九〇〇、〇〇〇	
建物類	一九二、三七五、〇〇〇	
基礎及土工	二五一、九三六、〇〇〇	
合計	九一八、二一一、〇〇〇	

下水道施設ノ準備調査

土地買收費内譯

一金參拾八萬五千圓也

種目	員數	單價	金額	摘要
土地買收	七〇,〇〇〇	五,五〇〇	三八五,〇〇〇	
計			三八五,〇〇〇	

第六號乙ノ三

第二區下水道事務所費及測量試驗費内譯

一金四拾八萬七千百拾七圓也

内

金貳拾六萬五千貳百圓也

俸給及報酬

局技主技局	人員	給若クハ費額	一ケ年金額	五ケ年金額
局長	一人	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	一五,〇〇〇,〇〇〇
主事師	八人	一,六〇〇,〇〇〇	一二,八〇〇,〇〇〇	六四,〇〇〇,〇〇〇
主事	一	一,六〇〇,〇〇〇	一,六〇〇,〇〇〇	八,〇〇〇,〇〇〇
技手	二四	四八〇,〇〇〇	一一,五二〇,〇〇〇	五七六〇〇,〇〇〇
事務員	一四	四八〇,〇〇〇	六,七二〇,〇〇〇	三三,三六〇,〇〇〇
計	六〇	二四,〇〇〇,〇〇〇	一四,四〇〇,〇〇〇	七二,〇〇〇,〇〇〇

報酬

金九萬八千五百八拾圓也

一ケ年二付
二ケ月分ノ割

賞與	當	旅費及賞與手當
手當	一〇八人	四一,七〇〇,〇〇〇
內國旅費		三八,八八〇,〇〇〇
外國旅費		三,〇〇〇,〇〇〇
計	一〇八	一五,〇〇〇,〇〇〇

金參萬七千五百參拾七圓也

工	小工	給仕	工夫、小使被服	賞給	計
夫	二四人	六	六	六	七二
使					
使					
計	二四	六	六	六	七二
應					
費					

金六萬五千八百圓也

消耗品費	備品其他ノ雜費
下水道施設ノ準備調査	一人ニ付金 二十四ノ割一〇,八〇〇,〇〇〇
計	三〇九

備品 一五、〇〇〇、〇〇〇
 營業費 二五、〇〇〇、〇〇〇
 雜費 一五、〇〇〇、〇〇〇
 合計 六五、八〇〇、〇〇〇
 四六七、一一七、〇〇〇
 測量及試験費 二〇、〇〇〇、〇〇〇
 金貳萬圓也

第二區下水布設工事費豫算年度割

種目	四十四年度		四十五年度		四十六年度		四十七年度		四十八年度		合計
	金額	割合	金額	割合	金額	割合	金額	割合	金額	割合	
事務所費	壹、三三三、〇〇〇	三、三〇	壹、三三三、〇〇〇	三、三〇	一、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇	壹、三三三、〇〇〇	二、七〇	一、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇
測量費	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇	五〇、〇〇〇、〇〇〇
土地買収及 家屋移轉料	六、四三三、〇〇〇	六、四三	六、四三三、〇〇〇	六、四三	六、四三三、〇〇〇	六、四三	六、四三三、〇〇〇	六、四三	六、四三三、〇〇〇	六、四三	三二、七三三、〇〇〇
下水道布設材 料及工事費	七三、七五七、七〇〇	七三、七六	四六、九三三、四〇〇	四六、九三	八七、三三九、四〇〇	八七、三三	六七、五七四、〇〇〇	六七、五七	三五、四三三、八〇〇	三五、四三	二九〇、〇〇〇、〇〇〇
三河島汚水處 分工場材料及 諸色損料及雜 費	一五、八八八、八〇〇	一五、八九	一八、九三三、九〇〇	一八、九三	一七、三三七、三〇〇	一七、三三	一五、一五五、一〇〇	一五、一五	一〇、九三三、三〇〇	一〇、九三	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇
工費	七五、一〇四、〇〇〇	七五、一〇	七五、一〇四、〇〇〇	七五、一〇	七五、一〇四、〇〇〇	七五、一〇	七五、一〇四、〇〇〇	七五、一〇	七五、一〇四、〇〇〇	七五、一〇	三七五、〇〇〇、〇〇〇
豫備費	七五、一〇四、〇〇〇	七五、一〇	七五、一〇四、〇〇〇	七五、一〇	七五、一〇四、〇〇〇	七五、一〇	七五、一〇四、〇〇〇	七五、一〇	七五、一〇四、〇〇〇	七五、一〇	三七五、〇〇〇、〇〇〇
合計	一〇八、一〇六、〇〇〇	一〇八、一〇	一〇八、一〇六、〇〇〇	一〇八、一〇	一〇八、一〇六、〇〇〇	一〇八、一〇	一〇八、一〇六、〇〇〇	一〇八、一〇	一〇八、一〇六、〇〇〇	一〇八、一〇	五四〇、〇〇〇、〇〇〇

第七號

計畫說明書

一、本市下水道ハ東京市區改正委員會ノ議定ニ係ル設計ニ基キ計畫スルモノニシテ其計畫說明書ハ該委員會ノ囑託ニ依リ調査セラレタル中島工學博士ノ報告書ヲ以テ便宜代用トシテ提出ス

一、調査報告書中芝浦吐口ニ於ケル伏越ハ築港及隅田川ノ底部ヲ横キリ更ニ之ヲ芝浦ヲ去ル八千尺即チ第七臺場沖約八百尺ノ地點ニ延長シ茲ニ汚水ヲ放流スルノ計畫トナレルヲ第七砲臺附近ニ總面積十萬坪ノ「セブチックタンク」ヲ設置スルコトニ市區改正委員會ニ於テ變更決定セリ

第八號

東京市下水道事業費歳入出豫算書

△印朱書

區分	歳入	歳出
國庫補助金	二〇〇、〇〇〇、〇〇〇	七〇八、〇一六、〇〇〇
公債募集金	六七五、〇〇〇、〇〇〇	四三四、九六一、〇〇〇
計	六七五、〇〇〇、〇〇〇	一一八七、五一九、〇〇〇
同 四十四年度	二〇〇、〇〇〇、〇〇〇	九〇八、〇一六、〇〇〇
同 四十五年度	六七五、〇〇〇、〇〇〇	一一〇九、九六一、〇〇〇
同 四十六年度	六七五、〇〇〇、〇〇〇	一一八六、五一九、〇〇〇

下水道施設ノ準備調査

同 四十七年度 六七五〇〇〇〇〇〇
 同 四十八年度 六七五〇〇〇〇〇〇
 合計 二、九〇〇、〇〇〇、〇〇〇

區分

明治四十四年度 七九四八六〇〇
 同 四十五年度 九二七四九六〇〇
 同 四十六年度 一、五〇、一六七、九〇〇
 同 四十七年度 一、一九八、六七、六〇〇
 同 四十八年度 四〇六、四六七、三〇〇
 合計 四、八二二、二〇六、〇〇〇

備考

- 一、 國庫補助金ハ事業費ニ對スルニ二分ノ一トシテ掲上セリ
- 二、 公債募集金ハ別途ニ整理スルモノトシ本費ニ於テハ實際ノ費額ヲ各年度ニ受入ルルモノトシ計算セリ

第九號

下水道事業公債募集償還表 △印朱書

年次	年度	募集額	債額	支			出			償還額	殘額
				事業費充當	公債利子	特別稅	預金利子	入			

一	四四	一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	七〇八、〇一六、〇〇〇	五〇、〇〇〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇、〇〇〇	〇	〇	二九一、九四四、〇〇〇	〇
二	四五	五〇〇、〇〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇、〇〇〇	四三〇、九六一、〇〇〇	七五、〇〇〇、〇〇〇	七五、〇〇〇、〇〇〇	〇	〇	三六五、七三二、五〇〇	〇
三	四六	一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一、一七五、五二六、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	〇	〇	六八九、三三六、九九五	〇
四	四七	〇	〇	七四三、二五八、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇	〇	〇	九、六六六、一〇一〇	〇
五	四八	〇	〇	二、六九〇、〇〇〇、〇〇〇	一、七〇七、七五〇、〇〇〇	一、七〇七、七五〇、〇〇〇	〇	〇	五、四九〇、〇〇〇、〇〇〇	〇
六	四九	〇	〇	二、一五〇、〇〇〇、〇〇〇	一、七〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一、七〇〇、〇〇〇、〇〇〇	〇	〇	六、一九七、九八七	〇
七	五〇	〇	〇	一、七〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一、七〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一、七〇〇、〇〇〇、〇〇〇	〇	〇	八、八五五、七八〇	〇
八	五一	〇	〇	一、七〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一、七〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一、七〇〇、〇〇〇、〇〇〇	〇	〇	一、三三三、三五五	〇
九	五二	〇	〇	九一〇、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	〇	〇	四、一六六、九三三	〇
一〇	五三	〇	〇	四〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	〇	〇	八、八三三、五〇〇	〇
				三、九〇〇、〇〇〇、〇〇〇	三、九〇〇、〇〇〇、〇〇〇	三、九〇〇、〇〇〇、〇〇〇	〇	〇	二、六〇六、〇〇〇	〇

備考

- 一、 本公債ハ募集終了ノ翌年即チ四年目ヨリ七ヶ年ニ償還スルモノトス
 - 一、 公債利子ノ割合ハ年五朱トシ額面募集トス
 - 一、 毎年收支差引殘金ハ之ヲ預金トナシ利子割合ヲ年三朱トス
 - 一、 特別稅ハ東京市區改條例第七條ニ於テ制限セラレ居ルニ依リ是カ改正ヲ爲シ依テ生スル百萬圓以外ノ收入ヲ以テ本費ニ充ツルモノトス
- (第百十六號議案附屬參考書)

東京市下水改良費支辨計算表

下水道施設ノ準備調査

一、本公債ハ當初ヨリ第九年目迄各年壹百七拾萬圓第十年目ニ壹百五拾參萬圓
合計壹千六百八拾參萬圓ヲ募集シ第十一年目ヨリ二十五ヶ年ニ償還スルモ
ノトス

一、公債利子ノ割合ハ年五朱トス
一、毎年收支差引殘金ハ之ヲ預金ト爲シ年三朱ノ利子ヲ得ヘキ計算トス

四十三年六月二十四日東京市下水道施設ニ要スル工費補助申請ニ關スル件市會ニ於テ調査委員ノ報
告アリ左ノ如シ

第百十六號議案調査委員意見報告

委員ハ屢々集合審査ノ末本市下水道設計ノ第一區及第三區ノ工事ヲ急遽ニ着手スヘキ希望ヲ附シ
テ原案ヲ可決スルコトニ議決セリ

右及報告候也

明治四十三年六月十八日

調査委員

- | | |
|-------|-------|
| 青木庄太郎 | 山口 憲 |
| 坪谷善四郎 | 西澤 善七 |
| 高橋藤兵衛 | 村松祥一郎 |

議事

議事左ニ

山口議員ハ調査委員ノ一人トシテ説明スル所アリ津村議員曰下水財源ノ方法ニ於テ公債募集手數
料ヲ計上セサルハ如何第二區着手ノ理由ハ先ニ調査完了シタルニヨルト云フニ過キス政府ハ博覽
會ヲ五十年ニ延期シタルハ東京市内ノ設備ノ完全ヲ期シタルモノナルヲ以テ本案カ大藏省ノ同意
ヲ得ルヤ否ヤハ疑問也市ニハ歐米ノ視察ヲナシタル幾多ノ人アリ今日十年前ノ設計原案ヲ以テ急
遽前後ヲ顧ミス杜撰ナルモノヲ其筋ニ提出スルヲ避ケ一年位ヲ延ハシ低段地ヲ急ク委員諸君ノ意
見ニヨリテ事業ヲ進メテハ如何ト田川助役ハ第一ニ公債ハ大藏省金融當局ニ信賴シ其意見ニヨリ
テ計算セルモノニシテ手數料ノ計上ナカリシハ一時ノ便宜ニヨリ之ヲ省キタルモノナリ前例ニヨ
レハ取扱費トシテ拾參萬圓位ノ程度ニ止マルヘシトテ償還年次ニ付略說シ三十五年目ニ償還シ得
ルモノナルヲ述ヘ次ニ延期希望ニ關シ調査ノ順序ヨリシテ之カ必要ナキヲ辯シ且ツ本案カ財源上

下水道施設ノ準備調査

可決

ノ關係ニ付テハ會テ市區改正委員會回付ノ當時第一國庫補助、第二河岸地ノ地料引上、又ハ賣却、三下水税、第四上水料引上、第五糞尿市營、第六止ムヲ得スンハ公債募集トアリシヲ一ニ公債ニヨリ此事業ヲ遂行スルノ計畫ヲ立テ其償還財源トシテ選擇シタルハ下水税ト市區改正特別税トノ二者ニシテ前者ハ約貳拾五萬圓後者ハ約七拾四萬圓ヲ收入ニ見積リ之ヲ計算ノ基礎トナシタルモノナリトテ年次割ニ之ヲ説明シ工事設計カ十年前ノモノ也トノ所論ニ對シテハ其非ヲ辯シ該設計完了カ四十年三月東京市ノ議定カ四十一年四月當時之ヲ相當ナル案トシテ領受シタルモノニシテ決シテ現勢ニ適セサルコトナシ今何人ヲシテ之カ設計ヲナサシムルモ根本ニ於テ恐ラクハ同一ノ結論ニ到達スヘシト答辯セリ津村議員ハ其説明ヲ諒解セル旨ヲ述ヘ更ラニ若シ第二區豫算ニ於テ變更セラルルコトアラハ委員ノ希望スル第一區低段地ヨリ始ムルヲ相當トストノ希望ヲ附言シ討論終結委員長報告通決定セリ

四十二年六月二十七日 東京市參事會ハ前示市會ノ議決ニ基キ改良下水道工費國庫補助申請ヲ其筋ニ進達ス

第二十八節 東京市改良下水道施設準備委員會第三回會議

四十三年七月二十一日 午前十一時技師長室ニ於テ第三回東京市改良下水道施設準備委員會ヲ開ク田川委員長技師長及各小川委員ヲ除クノ外委員總テ出席委員長ハ先ツ本會ニ於テ別ニ委員長ヨリ提

出スヘキ問題ナク只各委員ヨリ提出セラルヘキ問題ニ付充分ニ研究セラレンコトヲ望ム旨ヲ述フ技師長ハ下水道法第三條及同施行規則第二條ノ解釋ニ付不幸委員等ノ解釋ト内務省ノ解釋トニ差異アルノ虞アルニヨリ然ルヘキ時期ニ於テ補助申請額ノ改訂若クハ追加ヲナスノ要アルヲ説キ南部(光臣)委員之ニ對シ今其時機ニアラストシ委員長ハ猶十分ニ内務省ノ意向ヲ探究シタル上適當ノ方法ヲ講スヘシト述フ

次テ光元委員ハ向後委員會及準備係ハ如何ナル方針ヲ以テ準備事務ヲ執ルヘキカ委員會ノ議ヲ決定シ置カンコトヲ望ム旨ヲ述フ審議ノ結果第二區ニ限り豫算面ヲ動カサ、ル範圍内ニ於テ充分調査スヘキ事、準備係ノ經費ハ之ニヨリ若シ不足ヲ生スルコトアラハ追加豫算ヲ求ムルコトヲ決シテ午後四時散會ス

第二十九節 改良下水道唧筒場設計ノ爲吏員ノ出張

四十三年七月二十九日改良下水道唧筒場設計調査ノ爲東京市技師米元晋一同技手茂木紋三郎同三浦繁雄ヲ實地ニ出張セシム

第三十節 各戸下水支管ノ内公道ニ屬スル部分ノ工費ニ付キ國庫補助ノ追申

四十三年八月十二日 東京市參事會ハ下水管各戸取付費ノ公道ニ屬スル部分ヲ本市ニ於テ負擔スヘキモノトシ更ニ其工費半額ニ對シテ國庫補助ヲ追申ス但本件ハ急施ヲ要シタルヲ以テ市會ノ議ニ付

セス申請書左ノ如シ

東京市下水道工費國庫補助追申

本年六月二十五日一乙第四一六一號ヲ以テ本市下水道工費國庫補助ノ件及申請候處更ニ下水道法第三條ノ施設ニシテ公道ニ屬スル部分ノ費用モ本市負擔ノ方針ニ付其工費金五拾參萬圓ノ半額ニ對シテモ併セテ國庫ノ補助ヲ仰キ候様致度別紙該部分ニ屬スル工事設計書圖面相添此段申請候也
明治四十三年八月十四日

東京市參事會

東京市長代理助役 原 田 十 衛

內務大臣法學博士男爵 平 田 東 助殿

追テ本追申ノ結果原申請書付屬ノ參考書第八號及第九號ハ別紙ノ通訂正仕候

第二區下水道各戸取付管工事費豫算

一金五拾參萬圓也

內 譯

一金五拾萬貳千四百參拾六圓

內

總 工 費

工 事 費

金四拾八萬八百五拾壹圓(圓未滿切捨)

金貳萬壹千五百八拾五圓

一金貳萬七千五百六拾四圓

工事費內譯(△印ノ欄ハ朱書トス)

一金四拾八萬八百五拾壹圓九拾參錢參厘

內 譯

種 目 寸法 員 數 單 價 金 額 摘 要

汚 水 樹 深^八二・五 巾^{一・五} 二五、二四七・〇 一〇・九四八 二七六、四〇四・一五六

△ 小 計 二七六、四〇四・一五六

汚水樹取付 內徑・五 五〇、四九三・四 四・〇四九 二〇四、四四七・七七七

△ 小 計 二〇四、四四七・七七七

△ 合 計 四八〇、八五一・九三三

汚水樹一個當リ設計書 (△印欄ハ朱書トス)

一金拾圓九拾四錢八厘

深二尺五寸

巾一尺五寸

下水道施設ノ準備調査

材料及工事費

諸損料及雜費

監督費

種	内譯	員數	長	徑末口厚	全單	量	單價	金額	摘	要
地	形	●〇四一					一七五〇〇	●七六	割栗石目潰砂利手間共	
混	凝	●〇四四					五二〇〇〇	●四九二	煉手間共一式一・四・八	
内		●〇五四							側用	
花	崗	●〇三〇	一九				●二三五	●四七〇	蓋石用	
加	州産堅石	●〇四〇	二二				●四二八	●一七三	綠石用	
内	面化粧塗り	●〇四〇					●四七八	●一九一	塗り手間共一式一・三・	
陶	管	●一	八				●七五〇	●七五〇	トラツブ用	
花	崗	●一	八				●二二五	●三五	同上蓋用	
掘	石	●一	八				●四七五	●八四〇	根伐土通送共	
石	工	●一					●一三五〇	●一三五〇	石材掃ヨリ掘付迄一式	
同	手	●一					●六〇〇	●六〇〇	石工一人ニ付五分	
△計								●一〇九四八		

汚水樹取付設計書 (△印欄ハ朱書トス)
 一金四圓〇四錢九厘
 長一間當リ陶管徑五寸

種	内譯	員數	長	徑末口厚	全單	量	單價	金額	摘	要
陶	管	●三〇〇	二〇				●一八〇	●五四〇	汚水管用	
モ	ル	●二〇〇					●五三	●〇五二	陶管接合用一・二・調合	
結	成	●四八〇					●三七	●一三六	調合一・四・八	
△小	方人	●三〇					●五〇〇	●一七三〇	陶管据付用	
△小	工	●四二					●一六五	●二二六九	根伐土運搬及跡埋共	
△合								●二二九九		
△合								●五〇四九		

監督費内譯 (△印欄ハ朱書)
 一金貳萬七千五百六拾四圓也

種	別	人員	一ケ年一人俸	給若クハ費額	一ケ年金額	四ケ年金額
技	手	三人	四八〇〇〇	〇〇〇	一、四四〇〇〇	五、七六〇〇〇
雇	員	一〇人	二四〇〇〇	〇〇〇	二、四〇〇〇〇	九、六〇〇〇〇
工	夫	五人	二一九〇〇	〇〇〇	一、〇九五〇〇〇	四、三八〇〇〇
賞	與	工技	一年ニ付	二ケ月分	七三〇〇〇〇	二、九二〇〇〇

下水道施設ノ準備調査
 三二三

手當	技手 雇 各一人ニ付	七二圓	九三六・〇〇〇	三、七四四・〇〇〇
被服	費 工夫 一人ニ付	年額六圓	三〇〇・〇〇〇	一二〇〇・〇〇〇
消耗品	費 技手雇 一人ニ付	二〇圓宛	二六〇・〇〇〇	一、〇四〇・〇〇〇
△合計			六、八九一・〇〇〇	二七、五六四・〇〇〇

(註) 汚水樹構造圖 汚水樹取付圖略ス

改正第八號

東京市下水道事業歳入出豫算書 (△印ハ朱書トス)

區分	歳入	歳出	計
國庫補助金	二〇〇、〇〇〇・〇〇〇	七〇八、〇一六・〇〇〇	九〇八、〇一六・〇〇〇
公債募集金	七四一、二五〇・〇〇〇	四二一、七一〇・〇〇〇	一、一六二、九六一・〇〇〇
計	七四一、二五〇・〇〇〇	一、二五三、七六九・〇〇〇	一、九九五、〇一九・〇〇〇
同 四十六年度	七四一、二五〇・〇〇〇	一、二五三、七六九・〇〇〇	一、九九五、〇一九・〇〇〇
同 四十七年度	七四一、二五〇・〇〇〇	八三三、〇〇八・〇〇〇	一、五七四、二五八・〇〇〇
同 四十八年度	七四一、二五〇・〇〇〇	△ 五一、五〇四・〇〇〇	六八九、七四六・〇〇〇
△合計	計三、一六五、〇〇〇・〇〇〇	三、一六五、〇〇〇・〇〇〇	六、三三〇、〇〇〇・〇〇〇

明治四十四年度	七九四、八八六・〇〇〇	一〇三、四三三・四〇〇	七五、一〇四・〇〇〇	九〇八、〇一六・〇〇〇
同 四十五年度	九六七、五三二・〇〇〇	一〇〇、七九六・〇〇〇	九五、二八〇・〇〇〇	一、二六二、九六一・〇〇〇
同 四十六年度	一、六八五、七六九・〇〇〇	一四九、〇二六・一〇〇	一六〇、二二六・〇〇〇	一、九九五、〇一九・〇〇〇
同 四十七年度	一、三四九、四〇三・四〇〇	一四四、六九二・六〇〇	二一〇、二六二・〇〇〇	一、五七四、二五八・〇〇〇
同 四十八年度	五八二、三九九・〇〇〇	五七、三九九・一〇〇	五〇、〇六七・〇〇〇	六八九、七四六・〇〇〇
△合計	五、三二四、六四二・〇〇〇	五二四、六六一・〇〇〇	五〇〇、六七七・〇〇〇	六、三三〇、〇〇〇・〇〇〇

備考

一、國庫補助金ハ事業費ニ對スルニ二分ノ一トシテ掲上セリ

一、公債募集金ハ別途ニ整理スルモノトシ本費ニ於テハ實際ノ費額ヲ各年度ニ受入モノトシ計算セリ

改正第九號

下水道事業公債募集及償還表 (△印ハ朱書トス)

年次年度	募集額	償還額	支	出	收	入	償還額	殘額
一	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇	事業費充當	公債利子	特別利子	預金利子		二九、九四・〇〇〇
二	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇	〇	〇	〇	〇	三九、〇三・〇〇〇	
三	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇	〇	〇	〇	〇	四九、一三・〇〇〇	
四	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇	〇	〇	〇	〇	五九、二三・〇〇〇	
五	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇	〇	〇	〇	〇	六九、三三・〇〇〇	
六	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇	〇	〇	〇	〇	七九、四三・〇〇〇	

下水道施設ノ準備調査

東京市下水道沿革誌

三二六

七五〇	一九五,〇〇〇・〇〇〇	六五,〇〇〇・〇〇〇	五五〇,〇〇〇・〇〇〇	三三,〇五〇,〇〇〇・〇〇〇	三,三三九,〇〇〇
八五二	一,〇〇〇,〇〇〇・〇〇〇	七,〇〇〇,〇〇〇	五五〇,〇〇〇・〇〇〇	九八,〇〇〇,〇〇〇	九,〇七〇,〇〇〇
九五三	一,〇〇〇,〇〇〇・〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇	五五〇,〇〇〇・〇〇〇	二八,〇〇〇,〇〇〇	九,〇七〇,〇〇〇
一〇五五	五五〇,〇〇〇・〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	五五〇,〇〇〇・〇〇〇	一三,〇〇〇,〇〇〇	一,〇七〇,〇〇〇
△計	△四,一七五,〇〇〇・〇〇〇	△四,一七五,〇〇〇・〇〇〇	△四,一七五,〇〇〇・〇〇〇	△四,一七五,〇〇〇・〇〇〇	△四,一七五,〇〇〇・〇〇〇

備考

- 一、本公債ハ募集終了ノ翌年即チ四年目ヨリ七ヶ年ニ償還スルモノトス
- 一、公債利子ノ割合ハ年五朱トシ額面募集トス
- 一、毎年收支差引殘金ハ之ヲ預金トナシ利子割合ヲ年三朱トス
- 一、特別税ハ東京市區改正條令第七條ニ於テ制限セラレ居ルニ依リ是カ改正ヲ爲シ依テ生スル百萬圓以外ノ收入金ヲ以テ本費ニ充ツルモノトス

市會ニ對スル報告

四十二年九月十二日東京市參事會ハ補助追申ニ關スル件ヲ市會ニ報告シ市會ハ之ヲ承認シタリ報告書左ノ如シ

曩ニ本年六月二十五日一乙第四一六一號ヲ以テ本市下水道工費國庫補助ノ件内務大臣ニ申請候處下水道法第三條及同施行規則第二條ノ解釋ノ結果下水道法第三條ノ施設ニシテ公道ニ屬スル部分ノ費用ハ更ニ本市ニ於テ負擔スヘキモノナルニ因リ其工費金五拾參萬圓ノ半額ニ對シテモ併テ國庫ノ補助ヲ仰キ度便宜市參事會限直チニ内務大臣ニ及申請置候間此段及報告候也

明治四十三年九月十二日

東京市參事會

東京市長代理助役 原 田 十 衛

東京市會議長 江 間 俊 一 殿

第三十一節 東京市改良下水道施設準備委員會第四回會議及下水道

施設調查委員會第六回會議

下水道施設準備委員會第四回會議

四十三年九月二十二日午後一時ヨリ技師長室ニ於テ第四回改良下水道施設準備委員會ヲ開ク委員長技師長各委員(大口委員ヲ除ク)出席施設調查委員會ニ報告スヘキ件ヲ議ス議定シタル事項左ノ如シ

- 一、下水管各戸取付費中公道ニ屬スル部分ノ費川ヲ市負擔トシ更ニ之ニ對シ半額國庫補助ヲ追申シタルコト及本件ハ急施ヲ要シ市參事會限直チニ進達シタルモ既ニ市會ノ承認ヲ得タルコト
- 一、補助申請書中淺草全部トアルモ之ハ今戸橋場ノ一部ヲ除外シ居ルコト

下水道施設調查委員會第六回會議

四十三年九月二十七日東京市下水道施設調查委員會第六回ヲ開ク中鉢委員長伊藤近藤福田緒方坂入五十嵐角田各委員顧問原田田川日下部南部(常)南部(光)米元山縣各番外幹事等出席左記三件ノ提案アリ曰ク

- 一、下水取付工事(下水道法第三條ノ施設)ニシテ公道ニ屬スル部分ノ費用ハ市ニ於テ負擔スヘキ

下水道施設ノ準備調査

三二七

モノナルニ因リ其工費總額金五拾參萬圓ノ二分ノ一ニ對シテモ市參事會ハ八月十日ノ決議ヲ以テ直チニ内務大臣ニ之カ國庫補助ヲ追申シ九月十一日市會ニ之ヲ報告シ其承認ヲ得タリ之カ追認ヲ求ムル件

二、國庫補助申請書中淺草區ノ全部トアルモ中島博士本市下水設計調查報告書ノ示ス如ク今戶玉姫橋場ノ一廓ヲ除キタルモノナリ其工事ハ出來得ル限リ第一期工事豫算ノ範圍内ニ竣工スヘキ豫定ナルモ豫算不足等ノ場合ハ第二期工事以後ニ讓ルノ外ナシ此旨了知セラレタキコト

三、國庫補助申請書中三河島處分工場耕地買收土地面積ヲ中島博士設計調查報告書ニ總面積五萬三千坪トアルニ拘ハラス七萬坪ト計上セシハ實際七萬坪ノ土地ヲ買收スル意味ナリヤ又單ニ土地買收地價不當ノ騰貴ヲ避ケン爲斯ク計記セシモノナルヤ充分了知シタキコト

右審議ノ結果一、二案ハ滿場一致追認ヲ與フルコト及報告通承認スルコト、ナシ第三案ニ對シテハ中島顧問ノ缺席ニヨリ後日ニ讓ルコト、シテ散會ス

第三十二節 下水道關係事務視察ノ爲吏員名古屋市出張

四十三年十月七日東京市改良下水道施設準備ニ關シ左ノ吏員ヲ名古屋市へ出張セシメ下水工事及關係事務視察ヲ爲サシム

東京市技師 米 元 晋 一 同 事務員 柳 原 卯 三 郎

第三十三節 東京市會ニ於ケル下水道工費國庫補助申請ノ經過報告

四十三年十一月一日東京市會ニ於テ原田助役ハ曩キニ其決議ニ基キ政府ニ申請シタル本市下水道工費國庫補助ノ件ニ關シ其經過ヲ報告セリ曰ク

本年六月二十四日市會ノ決議ニヨリ政府ニ申請シタル下水改良費國庫補助ノ件ハ内務省ノ豫算ニハ補助額ヲ計上セラレ大藏省ニ廻付セラレタルカ大藏省ノ豫算査定會ニ於テハ不幸ニモ内務省ノ要求シタル東京市ニ對スル補助額全部ハ削除セラレタリト聞知シタルヲ以テ直チニ予ハ大藏大臣ヲ訪問シ其復活ヲ要請シタルモ大藏大臣ハ下水ノ必要ハ充分之ヲ認ムルモ何分本年ノ歲計上補助金ヲ下付スル能ハスト言明セラレタリ依テ其旨ヲ市參事會ニ致シ市參事會ニ於テハ更ニ七名ノ委員ヲ選定シ内務大藏兩省ヲ訪問シ重ネテ交渉ヲ試ミタルモ今日迄ノ經過ニ徴スレハ本件ノ申請ノ目的ヲ達スルハ甚タ困難ナル状態ニアリトセサルヲ得スト

次テ津村議員ハ第一區中段調査ノ經過ヲ質問シ且ツ至急之カ調査ニ着手セラレタキ旨ノ希望ヲ述フ田川助役ハ之ニ關シテハ充分配慮シツ、アルモ目今ノ經過ハ未タ報告ヲナス程度ニ達セサルヲ以テ後日機會ヲ見テ更ラニ協議スル處アルヘシト答ヘ市會ハ本報告ヲ承認シタリ

第三十四節 東京改良下水道施設準備委員ノ更迭

四十四年二月十日東京市區改正工務課長小川英次郎退職ニ付新任市區改正工務課長村島謹一郎其後

ヲ襲ヒテ改良下水道施設準備委員ヲ命セラル

第三十五節 東京市改良下水道施設準備委員會第五回會議

四十四年二月十日午後二時ヨリ技師長室ニ於テ第五回改良下水道施設準備委員會ヲ開ク出席者左ノ如シ

- | | | | |
|-----|--------|----|-----|
| 委員長 | 田川大吉郎 | 南部 | 光臣 |
| 委員 | 日下部辨二郎 | 南部 | 常次郎 |
| | 遠山椿吉 | 山縣 | 鐵藏 |
| | 米元晉一 | 大田 | 章次 |
| | 山口章次 | 村島 | 謹一郎 |

田川委員長ヨリ東京市カ曩キニ下水改良事業ニ關シ提出セシ國庫補助申請ノ顛末ヲ報告アリ左ノ如シ

國庫補助申請顛末

初メ明治四十四年度ニ於テ國庫ノ補助ヲ申請セシニ大藏省ニ於テ之カ補助案ヲ削除シタルカ其後二日ヲ經テ之ヲ聞知シ早速之カ復活ノ方法ヲ講シタリ其順序トシテ先ツ内務省ヲ訪フ内務當局ノ言ニヨレハ内閣豫算會議ニ於テ削除説出ツルモ内務大臣ハ直チニ之ニ同意ヲ與フルコトナカルヘク歸省ノ上更ニ省内ニ於テ論議アルヘケレハ其際極力之カ挽回ニ努ムヘキヲ以テ必スシモ失望ス

ルニ及ハサルヘシト言明セラレタリ然ルニ後ニ聞ク所ニヨレハ此前ノ閣議カ最後ノ閣議ニシテ補助費ノ削除ハ既ニ決定シタル事實トナリ居リシカ如シ茲ニ於テ市參事會ハ補助申請特別委員ヲ擧ケ大藏内務各大臣ヲ訪フテ大ニ努ムル所アリ財源ヲ事業公債ニ求メ其利子ヲ國庫ヨリ補給セラレタシトノ案ヲ提出セシニ一木次官ハ此ニ賛成セラレタリ後市長歸朝セラレ本件ニ付大藏大臣ヲ訪ハレシニ全然斷念スルニモ及ハサルモノ、如ク多少ノ望ヲ繋キテ歸應セラレタルモ其後事涉々シク進行セス漸次不如意トナリ今ハ遂ニ絶望ノ程度ニ到達シタルノ状態ニアリ而シテ現在理事者ノ方針トシテハ此機會ニ於テ市區改正條例第七條ノ規定ヲ改メ百萬圓ノ制限ヲ貳百萬圓トスルノ改正案ヲ提出セシメンコトニ努力シツ、アリテ内務省モ之ニ賛成シ居レリ且ツ又下水事業ハ公益上有利ナルコトナレハ後日財政ニ餘裕ヲ生シタル場合ニ於テ遡及補助ヲナスヘキコトヲ議會ニ於テ總理大臣ヨリ言明セシムルノ方法ヲモ併セ講スル等總テ本市カ有利ニ本事業ニ着手スルノ途ヲ焦慮シツ、アリ土木局長ハ之ニ替同シ一木次官ハ此レ有利ノ事ナレハ再考シ置カント述ヘラレタリ余ハ去ル十六日此事ニ付大藏大臣ニ面會シタルニ先ニ一木次官ニ面談セシトキヨリモ一層明白ナル態度ニヨリテ之ヲ賛シ之ヲ議會ニ言明スル方法ニ就テハ十分盡力スヘシト談ラレタリ然レトモ余ハ大藏大臣及一木次官ニ對シ内務大臣若クハ總理大臣ノ言明アリタルトキ市會カソノ言明ニ依據シ直ニ之ヲ決定實行スルヤノ充分ナル保證ヲ與フル能ハサリキ因リテ之ヲ市長市參事會ニ諮リ

タリ一木次官ハ之ニ關シテハ先ツ市會ノ議決ヲ要ストスルモノ、如クナリキヤレハ或ハ臨時市會ヲ開ク必要ヲ生スヘシ又余等ノ採リタル一策トシテ例年議會ハ政府ノ豫算案ニ對シ貳參百萬圓ヲ削減スルヲ以テ本年モ此例ニ洩レストスレハ其査定削減額ヨリ本年度ニ於ケル下水事業費ノ限度ニ於テ國庫補助ヲ得ルコト、シ豫算査定會ノ步調ヲ此上ニ一致セシメン事ヲ希望シ居タルモ過日新聞ノ報スル所ニヨレハ本年ノ査定減額ハ僅カニ貳拾九萬ナリトノ事ナレハ此策ハ殆ト失敗ニ歸シタリト云フノ外ナシ然レトモ余ハ前述ノ方法ニヨリ或ハ年度末ニ差迫リテ市會ヲ開催シ四十四年度ヨリ事業ニ着手シ得ルニ至ルヲ保セスト思考ス若シ果シテ然ラハ爰ニ委員ヨリ提出セラレタル第一ヨリ第六ニ至ル案ノ如キハ殆ト議論スルノ必要ナキカ如クナレトモ之モ又早晚審議セサルヘカラサル事項ナレハ十分精査ヲ望ム茲ニ聊カ從來ノ經過ヲ報告シテ參考ニ供スト

米元委員ハ左記六項ノ提案ヲナシ順次説明ヲ加フ遠山委員ハ之ニ對シ隅田川清淨程度試驗ヲ追加セシコトヲ申出テ米元外出席委員ノ贊同ヲ得次テ雜誌ニ移ル雜誌中記載ヲ要スヘキ事項ハ

一、陸軍省兵器本廠ノ保管ニカ、ル舊臺場地ヲ無料若クハ廉價ニテ東京市ニ讓受ケ下水事業ノ「セブチツクタンク」ノ所在地トナスコト、セハ如何若シ可トスレハ交渉ヲ試ムルコト

終リニ米元委員カ原案ニ遠山委員ノ追加提案ヲ加ヘテ之カ豫算ヲ作製スルコトニ致スヘシトノ事ニ全員同意散會ス干時午後四時五十分

當日ノ提案左ニ

- 一、第一區下水道吐口芝浦沖ニ沈澱地設備工事調査設計
 - 二、汚水處分工場明細設計調査續行
 - 三、汚水處分模型化學的實驗
 - 四、各戸連絡工事ニ付一二個所ノ調査設計
 - 五、各戸連絡工事ニ付市條例編成ノ爲調査
 - 六、下水道財源調査
- 以上米元委員提出
- 一、種々ナル場合ニ於ケル隅田川ノ清淨程度試驗
- 以上遠山委員ノ追加提案

第三十六節 下水道施設狀態ヲ歐米其他各都市ニ照會

四十四年二月十四日東京市改良下水道施設調査事務ニ關シ歐米其他各都市ニ左ノ照會文ヲ發スルニ決シタリ原文及譯文左ノ如シ

(原文)

本市今回下水道改良ノ計畫相立チ候ニ付テハ乍御手數貴市下水道施設ノ經過特ニ財源及條例ノ

御内容承知致度候間誠ニ恐縮ノ至ニ候ヘ共可成早ク御告知被成下度幸御通知ヲ得ハ本市ノ利益
スル所極メテ大ナリト存候

(譯文) 東京市長 尾崎 行雄
各都市長宛

Address,

Tokyo, 2nd March, 1911.

.....

The Municipal Office of Tokyo has now under consideration a plan for the improvement of the drainage system of the City, and in order to better attain the object in view, the Office is collecting all possible information concerning the matter. May I ask you to favor me with a copy of the plan of the drainage system of your Municipality and other particulars relating thereto, especially the sources of revenue for its establishment and its maintenance and the regulations in force in connection with the system? Your courtesy to comply with the present request at your early convenience will be most highly appreciated by me and the City which I have the honor to represent.

I avail myself of the present opportunity to offer you (Your Lordship) the assurance of my highest consideration.

Y. OZAKI,
Mayor of Tokyo.

右ハ三月二日付ニテ左ノ都市ニ送致セラレタリ

(英國) 倫敦、マンチエスター、グラスゴ、パーミンガム、エキセター、サルフォード、サウサンプ
トン、メンエートン、ロスウエル、ハンレー、

(米國) 桑港、紐育、ソマービル、シカゴ、ボストン、セントルイス、バルチモーア、リッチモンド、コロ
ンバス。

(獨逸) 伯林、ハンブルグ、プレスラウ、ライプチツヒ、ミュンヘン、

(奧國) ウィーン、

(佛國) 巴里、マルセーユ、

(和蘭) アムステルダム、ロッテルダム、

(白耳義) プラツセル

(東洋) ホンペー、新嘉坡

第三十七節 東京市下水道工費補助ニ關スル再申請

下水道施設ノ準備調査

四十四年二月二十七日東京市會ハ市參事會ヨリ回付セル別紙第十八號議案ニ就キ審議ノ結果直チニ
全員一致可決確定シタリ

第十八號

下水道工費國庫補助再申請ノ件

本市改良下水工事ニ關シテハ昨年六月本會ノ議決ニ依リ國庫補助ヲ申請シ内藏兩省ハ一旦採納セ
ラレタルモ其後財政上緊急止ムヘカラサルノ支出事故ヲ生シタル爲突然削除セラレ爾來交抄取ラ
ス往再經過中ノ處近日ニ至リ本市若別紙ノ方針ヲ辭セサルニ於テハ尙ホ四十四年度ヨリ施行シ得
ルノ望ナキニ非サルヲ覺知シタルヲ以テ本市ハ更ニ其方法ヲ盡サント欲シ別紙ノ如ク重ネテ申請
スルモノトス

明治四十四年二月二十四日提出

東京市參事會

東京市長 尾崎 行雄

東京市下水道工費國庫補助ノ申請

本市ハ明治四十四年度ヲ以テ改良下水道ノ工事ニ着手セント次シ曩ニ其工費半額ノ國庫補助ヲ申
請シタルモ政府ノ財政計畫ニハ別ニ支障アリテ未タ採納セララルルニ至ラス然ルニ下水道ノ施設タ

ル當今ノ急務ニシテ一日後ルンハ一日ノ害名狀スヘカラサルモノアルヲ以テ本市ハ尙ホ爲シ得ル
限り之ヲ四十四年度ヨリ着手セシト欲シ此際政府ニ向テ左ノ二件ノ實行ヲ希望スルノ已ムナキニ
至レリ

一、政府果シテ東京市區改正條例第七條ノ制限ヲ廢除スルニ意アラハ之ヲ本期議會ニ提出セラ

レタキコト

二、政府ハ該改正案ノ提出ニ際シ本市下水道工費ヲ補給スルノ意志アルコト及ヒ他日之ヲ補給

スルニ當リテハ起工當時ニ遡及ス可キモノナルコトヲ併セテ明言セラレタキコト

本市ハ以上第二項ノ言明ヲ得ハ第一項ノ結果ヲ目的トシテ直チニ四十四年度ヨリ第一期工事ニ着
手スヘシ其經費ハ市民負擔ノ一時ニ激増スルヲ避ケンカ爲差當リ借入金ニ依リテ之ヲ支辨セント
欲ス而シテ右借入金ハ別紙參考書ノ如ク着手以後十七年ニシテ全ク償還シ終ルヲ得ヘキ豫定ナリ
政府ハ以上ノ事情ヲ諒シ且ツ工費半額補助ニ關スル本市前願ノ趣旨ヲ重ンシ以テ本工事ノ急施ヲ
奨助セラルル様致度希望ノ至ニ堪ヘス市會ノ決議ニヨリ此段重ネテ及申請候也

明治四十四年二月二十八日

東京市參事會

東京市長 尾崎 行雄

内務大臣法學博士 男爵 平田 東助殿

(参照書)

下水道第一期工事費借入金及償還年次表

年次年度	借入金	債額	支			出		入		償還額
			事業費	利子	特別税	預金利子	債			
一四四	1,500,000.00	1,500,000.00	680,000.00	750,000.00	750,000.00	—	—	—	550,000.00	
二四五	1,500,000.00	3,000,000.00	—	150,000.00	150,000.00	—	—	—	900,000.00	
三四六	1,500,000.00	4,500,000.00	—	300,000.00	300,000.00	—	—	—	1,200,000.00	
四四七	1,500,000.00	6,000,000.00	—	450,000.00	450,000.00	—	—	—	1,650,000.00	
五四八	1,500,000.00	7,500,000.00	—	600,000.00	600,000.00	—	—	—	2,100,000.00	
六四九	1,500,000.00	9,000,000.00	—	750,000.00	750,000.00	—	—	—	2,550,000.00	
七五〇	1,500,000.00	10,500,000.00	—	900,000.00	900,000.00	—	—	—	3,000,000.00	
八五一	1,500,000.00	12,000,000.00	—	1,050,000.00	1,050,000.00	—	—	—	3,450,000.00	
九五二	1,500,000.00	13,500,000.00	—	1,200,000.00	1,200,000.00	—	—	—	3,900,000.00	
一〇五三	1,500,000.00	15,000,000.00	—	1,350,000.00	1,350,000.00	—	—	—	4,350,000.00	
一一五四	1,500,000.00	16,500,000.00	—	1,500,000.00	1,500,000.00	—	—	—	4,800,000.00	
一二五五	1,500,000.00	18,000,000.00	—	1,650,000.00	1,650,000.00	—	—	—	5,250,000.00	
一三五六	1,500,000.00	19,500,000.00	—	1,800,000.00	1,800,000.00	—	—	—	5,700,000.00	
一四五七	1,500,000.00	21,000,000.00	—	1,950,000.00	1,950,000.00	—	—	—	6,150,000.00	
一五五八	1,500,000.00	22,500,000.00	—	2,100,000.00	2,100,000.00	—	—	—	6,600,000.00	
一六五九	1,500,000.00	24,000,000.00	—	2,250,000.00	2,250,000.00	—	—	—	7,050,000.00	
一七六〇	1,500,000.00	25,500,000.00	—	2,400,000.00	2,400,000.00	—	—	—	7,500,000.00	
計			6,300,000.00	11,550,000.00	11,550,000.00	—	—	—	33,000,000.00	

備考

一、借入金ハ借入終了ノ翌年即チ第六年目ヨリ十二ヶ年ニ償還スルモノトス
 一、利子割合ハ年五朱トス
 一、毎年收支差引殘金ハ之ヲ預金ト爲シ利子割合ヲ年三朱トス
 四十四年二月二十八日市參事會ハ前日市會ノ議決ニヨリ急施事項トシテ直チニ國庫補助申請ヲ東京府知事ヲ經由シテ其筋ニ進達シタリ

第三十八節 衆議院議事ニ現ハレタル東京市改良下水道

四十四年三月十二日市區改正條例中改正法律案衆議院議事日程ニ上ル
 當時ノ速記録ニ就キ其要領ヲ摘記スレハ左ノ如シ

政府委員法學博士一木喜徳郎ヲ説明ス曰ク現行市區改正條例ニ於テハ第三條及第五條ヲ以テ市區改正ノ財源トシテ特別税ヲ徵收スルコトヲ認メ并ニ河岸地ノ收入ヲ以テ其費用ヲ充ツルコトノ規定アリ第八條ニ於テ金額ヲ制限シ五十萬圓ヨリ少ナカラス百萬圓ヨリ多カラストノ制限ノ下ニ立テリ然ルニ市區改正事業ハ漸次進捗シ今後擴張ヲナササルヘカラサルモノ多ク特ニ下水道ノ調査ハ既ニ終了シ今ヤ著手ノ時機ニ到達セリ此際百萬圓ノ制限ヲ二百萬圓ニ變更セントス東京市ハ此條例改正ニヨリ直チニ下水道ノ工事ニ着手セントス仍テ協賛ヲ望ムト

議長長谷場純孝ハ本案質問ナケレハ次ノ日程ニ入ラント言ヒシニ議員田川大吉郎(東京市助役)質

下水道施設ノ準備調査

本市助役 田川代議士 質問

問アリト叫ンテ述フル所アリ曰ク本案條例改正ニ付テハ東京市ノ意嚮ハ何等反對ノ模様ナキカ如シ政府委員説明ノ如ク東京市ハ本條例改正ノ結果ヲ期待シ下水道ニ着手セントシツアルヲ以テ是レ工事ノ進捗ニ一段ノ歩ヲ進ムルモノナリ仍リテ茲ニ一ノ願望アリ國家ヨリ本工事ニ付相當ノ補給ヲ仰カント欲スルコト此ナリ昨年來豫算編成ニ際シ此希望ヲ政府ニ致セシモ本年ニ於ケル豫算編成都合上到底實施セラルルニ及ハサリシカ此機會ニ於テ政府ニ問ハント欲スルハ東京市カ本案條例改正ノ結果ニヨリ着手セントスルニ當リ政府カ將來財政上余力アル時其下水道ノ工費ヲ補助セラル、ノ意志アリヤ此其第一點也又今後二三年ノ後始メテ政府ノ財政ニ餘裕アリトシ補助ヲ開始スルトキ其經費ヲ初期ニ遡ルコトヲ東京市ハ期待シ得ヘキヤ東京市ハ全國他ノ都市ト異ナリ工費二分ノ一ノ補給ヲ仰カント欲ス此第二點也此等ヲ總括シ政府ノ意嚮ヲ示シ東京市民ヲシテ安心シテ此工事ヲ決行セシムルニ足ル相當ナル言明アランコトヲ希望スト述ヘタリ内閣總理大臣公爵桂太郎之ニ答ヘントテ下水道ニ關シテハ政府ハ屢次交渉ヲ受ケタルモ財源ナキ爲今ニ補助ノ決心ヲナスニ至ラサリキ然レトモ下水道ノ事業タル必要ナルハ言ヲ俟タス政府ハ財政上ノ都合ヲ見計リ此當然ナル業務ニ補助ヲナスニ吝ナラサルヘシ然レトモ其年度歩合ハ今ハ政府ニ於テ言明スヘキ時期ニアラサルヲ諒知セラレン事ヲ望ムト述ヘタルニ田川議員ハ重ネテ遡及ニ關スル答辯ヲ要求セシニ桂總理大臣ハ補助ニ決セハ當然ナラント答ヘタリ

第三十九節 東京市下水道施設調査委員會第七回及改良下水道施設

準備委員會第六回會議並常設委員會

四十四年三月二十日東京市改良下水道施設調査委員會第七回ヲ開ク福田市原坂入近藤土岐緒方中島角田ノ各委員顧問田川日下部南部(光)米元山縣各番外幹事等出席アリ田川助役ノ發議ニヨリ福田委員ハ委員長ヲ代理ス先ツ東京市下水道第一期(第二區)工事自明治四十四年度至同四十八年度繼續豫算(歲入出金六百參拾參萬圓)ヲ附議ス田川助役ハ本案ハ昨年六月本會ニ於テ議決セラレシモノナルモ其當時ハ五百八拾萬圓ノ總工事費額ナリシカ各戸下水管取付工費(公道ニ屬スル分)五拾參萬圓ヲ加算シタルヲ以テ六百參拾參萬圓トナレリ尙國庫補助ニ付テハ政府ニ交渉ノ結果遡リテ補助スルヲ差支ナシトノコトヲ憶メタルニヨリ之ヲ提案スルモノナリト詳細ナル説明ヲナス緒方近藤角田各委員ヨリ國庫補助及事務所費中ノ廳費建築費等ニ付質問アリシカ結局滿場一致ヲ以テ原案ヲ可決ス終リニ田川助役ハ前回協議シタル三河島處分工場敷地面積ヲ中島博士報告ニヨレハ五萬三千坪トアルニ國庫補助申請書ニハ七萬坪ト計上セラル何レヲ採リテ可ナリヤト諮リシニ協議ノ末五萬三千坪ヲ採ルコトニ決ス

同日午後三時半技師長室ニ第六回改良下水施設準備委員會ヲ開ク出席者左ノ如シ

委員 長 田川大吉郎

下水道施設ノ準備調査

技師長 日下部 辨次郎
 委員 遠山 椿吉 山縣 鐵藏
 南部 光臣 大口 章次
 南部 常次郎 村島 謹一郎
 米元 晋一

田川委員長ヨリ議案ノ説明アリ曰ク

總工費六百三十三萬圓トアルハ前ニ當委員會ニ於テ議了シタル金五百八十萬圓ニ追加豫算トシテ金五拾參萬圓即チ公道兩側支線設置費ヲ加算シタルニヨルモノニシテ該追加豫算ハ先キニ本委員會ニ於テ口頭ヲ以テ諸君ニ諮リ既ニ承認ヲ得タリ併シ總工費六百參拾參萬圓トシテ豫算ニ計上シタルハ今日ヲ以テ初トス即チ金五拾參萬圓ヲ加算シタル結果工事費及事務所費ノ内譯ニ多少相違ヲ來シ從テ歲出年度ニ於テモ先キノ其ニ比シ多少ノ増加ヲ見タル次第也乍然第一年度ハ前豫算通何等ノ變更ナク第二年度ヨリ明治四十八年度ニ至ル四ケ年度割ニ右五拾參萬圓ヲ夫々事業ニ應シテ分割シタルニヨリ配付議案ニ掲ケタル數字ヲ得タリ特ニ事務所費内譯旅費及雜費豫算額カ前ノ豫算拾萬八千八百七拾七圓トアルニ豫備費ヨリ參萬圓ヲ割キ此ニ加算シ拾參萬八千八百七拾七圓トナシタルハ廳舎新築費トシテ三萬圓ヲ計上シタルニヨル始メ余一個人トシテハ鐵道院高架鐵道

常設委員
會及市參
事會

布下ヲ借受ケ廳舎トナサント考ヘタルモ其賃借料極メテ高ク特ニ本市ニ對シテ割引クトスルモ尙一年一千圓ヲ下ラス坪當一ケ月七十五錢位ノ出費ヲ要スルヲ以テ寧ロ新築ヲ利ナリトシ之ニ決シタル次第也尙別表下水道第一期工事費借入金及償還年次表ハ國庫補助ヲ計算外ニ置キ市ハ獨力之ヲ經營スルモノトナシタリ利率ハ年五分ノ見込ナリ昨年ノ大阪市公債及長崎市公債ハ九拾八圓即年五分利付先年ノ名古屋公債モ又五分利付ナリシヲ參考セリ始メ總工費五百八拾萬圓ノ内第一期工事中第一年度ニ於テハ國庫ヨリ貳拾萬圓ノ補助ヲ以テ經營セントシタルモ今ハ全ク畫餅ニ屬シ獨力市カ此事業ヲ支辨シ經營ノ衝ニ當ラントスルモノ也尙調査費ハ豫備費ヨリ支出セントス

此説明ニ次キ委員間ニ二三ノ問答アリタル後議茲ニ確定シ次テ三味線堀新堀川埋設ニ關シ淺草區民ノ請願ニ付充分調査シ區民ノ希望ヲ満足セシムヘク市ノ態度ヲ明カニ決定スヘシトナシ閉會ヲ宣セントスルヤ山縣委員發言ヲ求メ土地買收費豫算額ハ市會案トシテ提出スルニ際シ算出未タ充分ナラサルヲ以テ多少ノ修正變更アルヘキヲ告ケ全員之ヲ承認ス午後四時十五分閉會ス

翌二十一日市常設委員會室ニ於テ常設委員會開會前日ノ議決ニ對シ一部ノ修正ヲ加ヘ可決ス同日市參事會ハ時日切迫ノ爲修正案ニ基キ修正ノ内容ヲ實行スルヲ困難ナリトシ常設委員會ノ修正案ヲ修正シ原案復活ニ決シタリ

東京市下水道第一期(第二區)工事

下水道施設ノ準備調査

歳入		歳出	
内 譯	借 入 金	内 譯	事 業 費
一金六百參拾參萬圓	借入	一金六百參拾參萬圓	明治四十四年度支出額
一金百五拾萬圓		一金百五拾萬圓	明治四十五年支出額
一金百五拾萬圓		一金百五拾萬圓	明治四十六年度借入額
一金百五拾萬圓		一金百五拾萬圓	明治四十七年度借入額
一金參拾參萬圓		一金參拾參萬圓	明治四十八年度借入額
一金六百參拾參萬圓		一金六百參拾參萬圓	
内 譯		内 譯	
一金九拾萬八千拾六圓		一金九拾萬八千拾六圓	明治四十四年度支出額
一金百拾六萬貳千九百六拾壹圓		一金百拾六萬貳千九百六拾壹圓	明治四十五年度支出額
一金百九拾九萬五千拾九圓		一金百九拾九萬五千拾九圓	明治四十六年度支出額

備考
借入金元利ノ償還ハ特別税及預金利子ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ其年次表ハ列表トス

下水道第一期工事費借入金及償還年次表

同 四十七年度支出額
同 四十八年度支出額

次年度年	借入額	債 額	支 出		收 入		償 還 殘 額
			事業費	利 子	特別税	預金利子	
一	1,000,000.00	1,000,000.00	1,000,000.00	0.00	0.00	0.00	0.00
二	1,000,000.00	1,000,000.00	1,000,000.00	0.00	0.00	0.00	0.00
三	1,000,000.00	1,000,000.00	1,000,000.00	0.00	0.00	0.00	0.00
四	1,000,000.00	1,000,000.00	1,000,000.00	0.00	0.00	0.00	0.00
五	1,000,000.00	1,000,000.00	1,000,000.00	0.00	0.00	0.00	0.00
六	1,000,000.00	1,000,000.00	1,000,000.00	0.00	0.00	0.00	0.00
七	1,000,000.00	1,000,000.00	1,000,000.00	0.00	0.00	0.00	0.00
八	1,000,000.00	1,000,000.00	1,000,000.00	0.00	0.00	0.00	0.00
九	1,000,000.00	1,000,000.00	1,000,000.00	0.00	0.00	0.00	0.00
一〇	1,000,000.00	1,000,000.00	1,000,000.00	0.00	0.00	0.00	0.00
一一	1,000,000.00	1,000,000.00	1,000,000.00	0.00	0.00	0.00	0.00
一二	1,000,000.00	1,000,000.00	1,000,000.00	0.00	0.00	0.00	0.00
一三	1,000,000.00	1,000,000.00	1,000,000.00	0.00	0.00	0.00	0.00
一四	1,000,000.00	1,000,000.00	1,000,000.00	0.00	0.00	0.00	0.00
一五	1,000,000.00	1,000,000.00	1,000,000.00	0.00	0.00	0.00	0.00
一六	1,000,000.00	1,000,000.00	1,000,000.00	0.00	0.00	0.00	0.00
一七	1,000,000.00	1,000,000.00	1,000,000.00	0.00	0.00	0.00	0.00
一八	1,000,000.00	1,000,000.00	1,000,000.00	0.00	0.00	0.00	0.00
一九	1,000,000.00	1,000,000.00	1,000,000.00	0.00	0.00	0.00	0.00
二〇	1,000,000.00	1,000,000.00	1,000,000.00	0.00	0.00	0.00	0.00
二一	1,000,000.00	1,000,000.00	1,000,000.00	0.00	0.00	0.00	0.00
二二	1,000,000.00	1,000,000.00	1,000,000.00	0.00	0.00	0.00	0.00
二三	1,000,000.00	1,000,000.00	1,000,000.00	0.00	0.00	0.00	0.00
二四	1,000,000.00	1,000,000.00	1,000,000.00	0.00	0.00	0.00	0.00
二五	1,000,000.00	1,000,000.00	1,000,000.00	0.00	0.00	0.00	0.00
二六	1,000,000.00	1,000,000.00	1,000,000.00	0.00	0.00	0.00	0.00

下水道施設ノ準備調査